

14.5-173



\*1200600210852\*

14.5

73



始



3.9.28

勞働保護資料第二十八輯

昭和三年三月

我國ニ於ケル産業災害豫防ノ概況

社會局勞働部

16.5-173

目次

發行所寄贈本

第一章 産業災害豫防ニ關スル法制

一、工場法制定以前.....一頁

二、現行全國的法規.....三

(イ) 工場.....三

(ロ) 鑛山.....六

(ハ) 其他.....六

(ニ) 現行地方應令.....八

(イ) 汽罐汽機ノ災害豫防及特殊危險工場ノ警察取締.....一一

四、汽罐汽機ノ保險制度.....一四

第二章 安全運動.....一五

一、産業福利協會設立以前ノ運動.....一五



|                       |    |
|-----------------------|----|
| 二、産業福利協會……………         | 一七 |
| 三、災害豫防ニ關スル其ノ他ノ團體…………… | 二四 |
| 四、安全週間及安全デー……………      | 二六 |

第二章 安全組織及安全設備…………… 五〇

|               |    |
|---------------|----|
| 第一節 工場……………   | 五〇 |
| (イ) 安全組織…………… | 五〇 |
| (ロ) 安全設備…………… | 五九 |
| 第二節 鑛山……………   | 六六 |

附 錄…………… 六九

第一、災害及扶助統計…………… 六九

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 一、工場ニ於ケル災害統計(大正十五年)…………… | 六九 |
| 二、工場ニ於ケル扶助統計……………        | 六九 |
| 三、工場災害ノ原因別及責任別調査……………    | 七六 |
| 四、鑛山ニ於ケル災害統計……………        | 八三 |

五、鑛山ニ於ケル扶助統計…………… 折表

第二、産業災害豫防ニ關スル法規…………… 八七

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| 一、鑛業法中鑛業警察ニ關スル規定……………          | 八七  |
| 二、鑛業警察規則……………                  | 八九  |
| 三、石炭坑爆發取締規則……………               | 一一六 |
| 四、工場法中災害豫防ニ關スル規定……………          | 一二三 |
| 五、工場法施行規則中災害豫防及災害報告ニ關スル規定…………… | 一二四 |
| 六、工場附屬寄宿舎規則……………               | 一三五 |
| 七、工場災害豫防ニ關スル地方廳令……………          | 一四〇 |
| 八、工場取締規則(兵庫縣)……………             | 一七六 |
| 九、原動機取締規則及同施行心得(兵庫縣)……………      | 一八三 |

第三、産業災害豫防ニ關スル文獻…………… 二〇一

## 我國ニ於ケル産業災害豫防ノ概況

### 第一章 産業災害豫防ニ關スル法制

#### 一、工場法制定以前ノ沿革

我國ニ於ケル産業災害ノ豫防ニ關スル法制ハ、我國カ初メテ近代の産業ト近代の法制トヲ採用シタル明治ノ初年ニ既ニ其ノ濫觴ヲ見ルコトヲ得ヘシ。即チ鑛業ニ付テハ、明治最初ノ鑛業法タル日本坑法（鑛業權ノ得喪及之ニ關スル諸手續諸負擔等ヲ規定シタルモノ）ニモ簡單ナル災害豫防ニ關スル規定アリ（註）。工場ニ付テハ、我國ニ於テ最初ニ工業化サレタル大阪ニ於テ、明治十年五月製造所取締規則發布セラレ、次テ東京（十四年）其他ノ諸府縣ニモ同様ノ規則ノ發布ヲ見タリ。又別ニ汽罐汽機ニ關スル取締規則並火工場（鍛冶鑄物等爐ヲ用フル工場）煙火製造場、燐寸工場、魚獸化製造工場（魚獸ヨリ油、脂肪、膠、糞肥料等ヲ製造スル工場）等危險有害ナル工場ニ對スル取締規則ハ主要府縣ニ於テ發布セラレタリ。

是等初期ノ規則ハ鑛業ニ付テハ鑛業ノ發達助成ヲ司ル産業官憲ニ於テ、工場ニ付テハ一般保安ヲ司ル警察官憲ニ於テ之カ施行ヲ司リ、其ノ目的ハ一般保安ヲ主トシ、勞働者ノ保護ハ寧ロ從タル地位ヲ

有シ又法規ノ内容モ燐寸工場殊ニ黃燐燐寸工場（現時ニ於テハ法律ニ依リ禁止セラル）ニ對シテ稍詳細ナル規定アルモノヲ除キテハ、極メテ抽象的ニ除害設備ヲ命スルカ、又ハ官憲ニ於テ除害設備ヲ命シ得ヘキ權限ヲ定メタルニスギザリキ。然レドモ是等ノ取締規則ハ工場及汽罐汽機（多クノ府縣ニテハ電動機モ）ノ設置ニ付キ許可主義ヲ採リタルヲ以テ、許可ノ際ニ一般公益上ノ見地ノ外勞働者ノ災害豫防ノ見地ヨリ除害設備ノ改善ヲ促シタルコト尠シトセス

明治二十三年日本坑法廢セラレテ鑛業條例發布セラレ、一般保安ノ外鑛業勞働者ノ安全及衛生ヲ目的トスル鑛業警察ナルモノ確立セラレ（註二）次テ二十五年鑛業警察規則發布セラレ、鑛業ニ於ケル災害豫防ニ關シ相當詳細ナル規定ヲ見ルニ至レリ。（本規則ハ其後三十八年及大正五年兩度ノ改正ヲ經テ現行法ニ至ル）

註一、日本坑法（明治六年七月二十日）

第二十七條 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又ハ柵圍スヘシ。工部省ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ検査スヘシ。若シ疎漏アラハ工部省ニ於テ是ヲ繕治スヘキ費額ノ一倍（倍額）ヲ徵收スヘシ。

第三十三條 凡坑法ノ意旨ニ反ル過失有ル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命スヘシ。若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハハ國律ヲ以テ論處スヘシ。

註二、鑛業條例

第五章 鑛業 警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲グルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

一、坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安

一、鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護  
一、地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其猶豫シ難キ場合ヲ除ク外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ。

第六十條 前項第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其豫防ニ着手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其豫防ヲ執行スヘシ。

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス。

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其旨農商務大臣ニ具申スヘシ。

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ三十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期間内ニ除去ゼサルトキハ其建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス。但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス。

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十一條第二項ノ手續ニ依ルヘシ。

第六十三條 農商務大臣ハ此條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得。

第八章罰則中ヨリ  
第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ着手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス。

二、現行全國的法規

(イ) 工場

我國ニ於ケル一般の工場勞働者保護法規タル工場法ハ明治四十四年ノ制定ニカカリ大正五年ヨリ施

行セラレタルモノナルガ、同法ハ災害豫防ニ關スル設備ニ付テハ第十三條ニ「行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得」ナル規定ヲ設ケ、行政官廳ノ命令ニ委任シテ直接ニハ工業主ニ何等ノ義務ヲ命スルコトナシ。而シテ本條ニ基ク中央官廳ノ命令草案ハ、或ハ工場監督官會議ニ、或ハ工業主團體、商業會議所等ニ諮問セラレ一部ハ昭和二年四月工場附屬寄宿舎規則トシテ發布セラレタルモ他ハ未タ發布ノ運ニ至ラス、現時ニ於ケル工場災害豫防設備ニ關スル規定ハ主トシテ次ニ述フヘキ地方廳令ニ依ルモノナリトス。

現行工場法規中災害豫防ニ關スル規定ハ (1) 危険有害作業ニ女子及年少者ノ使用禁止 (2) 業務ノ傷病ニ對スル工業主ノ扶助責任 (3) 災害報告、及 (4) 工場附屬寄宿舎規則ノ四ナリ、左ニ略説スヘシ。

(1) 女子及年少者ノ十六歳未滿ノ者ノ禁止業務ノ範圍ハ、運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分ノ掃除、注油、検査、修繕、及運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶調索ヲ取付ケ取外ス作業ノ如キモノニシテ (工場法第九條) 其ノ詳細ハ施行規則第五條ニ掲ケタリ 尙此ノ外ニ十六歳未滿ノ者ニ付テハ毒劇藥、有害料品、爆發性、發火性、引火性料品等ノ如キ危険有害作業ニ使用スルコトヲ禁止セリ、(工場法第十條及施行規則第六條)

(2) 扶助ノ制度ハ業務上ノ災害ニ付テハ、工業主ニ一定限度ノ責任ヲ負ハシムルモノニシテ、健康保險ノ施行ニ依リ其ノ一部ハ健康保險ニ移リタルモ、尙、死者、永久の勞働不能者、長期ノ勞働不能者 (休業百八十日ヲ超ユルモノ) ニ付テハ工業主ノ單獨責任ニシテ、斯クノ如キ責任カ工業主ヲシテ災害豫防ニ努力セシムルニ効アルヤ云フヲ待タス。

(3) 災害ニ關スル報告ハニアリ。一ハ職工死傷報告ニシテ、職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物内ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲メ三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキ (三日以内ノ見込ノモノ三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ) ハ工業主ハ事故發生後遲滞ナク地方長官ニ届出ツルコトヲ要スルモノトス。(工場法施行規則第二十五條) 届出事項ハ別紙様式ノ如クニシテ (附錄參照) 特ニ危険豫防裝置ノ狀況ヲモ記載セシムルモノナルカ、我國ニ於テハ主要各地方廳ニ於テ概ネ災害豫防ニ關シ夫々規定アル外、社會的、道德的ニモ、災害豫防ノ觀念ハ相當發達セルヲ以テ、事故ノ性質カ危害豫防裝置ヲ設クル餘地無キモノニ非ル限り、災害豫防裝置ニ關シ何等カノ辨明ヲ爲シ或ハ災害ニ鑑ミ當該場所又ハ廣ク類似ノ場所ニ對シテ豫防裝置又ハ施設ヲ爲シタル旨記載スルモノ多シ。故ニ本報告ハ其ノ公表 (重大ナルモノハ産業福利ニ公表ス) 及災害統計トシテノ公表ニ依リ一般的ニ災害豫防ニ裨益スル所少カラサルノミナラス、直接當該工業主ニ反省ヲ促スコト尠カラサルナリ。



職工死傷報告ハ勞働者ノ負傷ヲ主トスルモノナルニ反シ、工場災害事故報告ハ工場及設備ノ故障ヲ本位トスルモノニシテ、工場及附屬建設物内ニ於テ左ノ事故發生シタル場合ニ於テ工業主ハ遲滯ナク地方長官ニ届出ツルコトヲ要スルモノトス。(工場法施行規則第二十六條)

一、火災又ハ爆發

二、汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂

三、勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂

四、起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損

五、工場附屬建設物又ハ高架槽ノ倒壞

六、其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

届出事項ハ別紙様式ニ依ルモノトス(附錄參照)

(4) 工場附屬寄宿舍規則ハ寄宿舍ニ於ケル災害ノ豫防、避難、衛生ノ保護等ヲ規定シタルモノニシテ附錄ニ掲ケタリ。

(ロ) 鑛山

鑛山ニ於ケル災害豫防ニ付テハ、一般鑛山ニ對シ鑛業警察規則アリ、爆發ノ虞アル石炭坑ニ對シ炭坑爆發取締規則アリ、附錄ニ其ノ全文ヲ掲ケタリ。中央ニハ商工省及主務局トシテ鑛山局アリ。地方

ニハ鑛山監督局ノ下ニ多數ノ技術官アリテ其ノ施行ニ從フ

其ノ外鑛夫勞役扶助規則ニ於テハ女子及年少者ヲ危險有害作業ニ使用スルコトヲ禁止シ、業務上ノ傷病ニ付テハ事業主ニ扶助ノ責任ヲ規定ス。其ノ内容ハ大體工場法ト同様ナリ。施行官廳ハ中央ニ於テハ社會局、地方ニ於テハ鑛山監督局ナリトス。

(ハ) 其ノ他

工場鑛山ニ於ケル一般の災害防止ノ外、特殊ノ危險物及危險作業ニ對スル取締規則ハ頗ル多岐ニ亘ルノミナラス、其ノ大部分ハ一般公衆ノ保護ヲ主眼トスルモノニシテ特ニ勞働者保護ヲ主旨トスルモノニ非サルヲ以テ、勞働者保護ニ關係アルモノニ付キ左ニ法規ノ名稱ヲ掲クルニ留ム。

銃砲火藥類取締法

爆發物貯庫規定

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法

造船規程

危害品船積法則

船舶檢査法

漁船檢査規定

遠洋漁船検査規定

船舶滿載吃水線法

電氣事業法規

電氣工作物規定

瓦斯事業法

市街地建築物法及同施行令施行規則

### 三、現行地方廳令

#### (イ) 一般工場

一般工場災害豫防ニ關スル地方廳ノ命令ハ或ハ工場法第十三條ニ基クモノアリ。或ハ工場取締規則、製造所取締規則等、労働者保護ヨリモ寧ロ一般保安ノ見地ヨリスル警察命令ノ性質ヲ有スルモノアリ。其ノ内容亦區々ナリ。其ノ一例トシテ附録ニ工場取締規則ノ一例ヲ掲ケ又設備及施設ノ災害豫防ニ關スル各府縣ノ規定ヲ掲ケタルカ、尙現時ニ於ケル各府縣ノ災害豫防ニ關スル規定ノ主タル事項ヲ掲クレハ左ノ如シ。

#### 一、工場設置許可制度

殆ント凡テノ府縣ニ於テハ工場ノ設置ニ關シ許可制度ヲ採ル。許可ニ際シテハ一定ノ許可標準ヲ設ケタルモノアリ、機宜ノ裁量處分ニ任スルモノアリ、一ナラス。而シテ是等ノ許可標準ハ周圍公共ノ安寧保持ヲ主トスルモ、火災豫防及消火ノ如キ公共保安ト労働者保護ト兩者ノ目的ヲ達スルモノ、及避難施設並機械及工程ノ災害豫防及衛生保持等労働者保護ヲ目的トスルモノ亦尠カラズ。

#### 二、建築ニ關スル制限

建築ニ關スル制限ハ主トシテ防火及避難ニ關スルモノニシテ煙突ノ制限、防火壁ノ設置、適當ナル防火設備ノ設置、屋根ノ不燃材料使用、非常口、避難通路及階段ノ設置等其ノ主タルモノトス。(爆發性、發火性又ハ引火性料品ヲ取扱フ工場ニ付テハ特別ノ規定アリ)尙採、光換氣ニ關スル規定ヲ設ケタルモノアルモ適當又ハ充分ナラシムヘキヲ規定スルニ留マリ一定ノ標準ヲ設ケタルモノ稀ナリ。

#### 三、消火ニ關スル設備

一般的ニ消火設備ヲ設置スヘキ旨規定シタルモノ約十縣アリ。

#### 四、機械及動力傳導裝置ノ災害豫防

原動機ハ完全ニ區劃シタル場所ニ設置スルコト、機械及動力傳導裝置ノ危險部分ニハ柵圍被覆其ノ他適當ナル災害豫防裝置ヲ設クヘキコトハ多數府縣共通ノ規定ナリ。尙原動機、動力傳導裝置及機械其ノ他ノ設備ノ危險部分ニハ適當ナル豫防設備ヲ命スルコトアルヘキ旨ノ規定ヲ設ケ處分命令ニ

一任シタルモノアリ。

### 五、其ノ他ノ設備ノ危害豫防

其ノ他ノ設備ノ危害豫防ニ付テハ一般の概括的ニ**危険ナル部分ニ適當ナル豫防設備ヲナス**ヘキコトヲ命スルカ「工場及附屬建設物竝設備カ危険ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得」ル旨ノ規定ニ依リ災害豫防設備ハ之ヲ官憲ノ處分命令ニ一任スルヲ常トス。而シテ本條ニ基キテ處分命令ヲ發スルハ地方長官ニシテ其ノ補佐官タルハ工場監督官吏ナリトス。此ノ種規定ニ依リ改善ヲ命シタル事例頗ル多シ、是等ノ點ニ付キ稍々詳細ナル規定ヲ設クルモノヲ例示スレハ左ノ如シ。

#### 三重縣工場取締規則

- 第七條 工業主ハ工場内ノ危険ナル箇所ニハ適當ナル危険標示ヲ爲スヘシ
- 第八條 工業主ハ昇降口、物品揚卸口、槽、釜、車軸道、足場其他墜落ノ危険アル箇所ニハ安全設備ヲ爲スヘシ
- 第九條 工業主ハ動力傳導裝置ノ運轉開始及停止ヲ關係作業場ニ從事スル職工ニ周知セシムル確實ナル信號方法ヲ定ムヘシ
- 第十條 工業主ハ動力傳導裝置ノ廻轉ヲ作業室ニ於テ應急停止スル設備ヲ爲スカ又ハ原動機室ニ通スル應急停止ノ信號方法ヲ定メ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ
- 第十一條 工業主ハ遊車ヲ使用スルトキハ之ニ選帶裝置ヲ設クヘシ

### 六、粉塵及有害瓦斯ノ除害設備

瓦斯又ハ粉塵ヲ發散シテ危険又ハ有害ナル場所ニハ適當ナル豫防設備ヲ爲スヘキ旨命シタルモノ數縣アリ。

### 七、救急施設

應急手當ノ材料ノ備付ヲ命シタルモノ數縣アリ（但シ實際ニ於テハ規定ナキ府縣ニ於テモ相當規模ノ工場ニハ應急治療所ノ設ケアルモノ多シ）

#### (ロ) 汽罐汽機ノ災害豫防及危険工場ノ警察取締

汽罐及汽機ニ關シテハ各府縣ニ於テ取締規則ヲ設ケサルナク（汽罐汽機ノ外電動機ヲモ加ヘテ原動機取締規則ヲ爲スモノアリ、工場取締規則、工業場取締規則中ニ入ルモノアリ）其ノ規定ノ内容ハ多岐ニ亘ルモ、主要ナル點ハ

- 一、設置及使用ニ許可ヲ受ケシムルコト
- 二、取扱主任者ヲ定メシムルコト
- 三、定期及臨時ニ検査ヲナスコト

ノ三點ニアリ。使用許可ノ標準ハ全國的規格ノ定メタルモノナキモ大體造船規程ニ依ル。定期ノ検査ハ一年一回之ヲ行フ。而シテ主要ノ府縣ニ於テハ保險ニ附シ保險會社ノ検査ヲ受ケタルモノハ警察ノ検査ヲ行ハス。保險制度ノ實狀ニ付テハ次ニ之ヲ述フヘシ。

汽罐汽機以外各種危險物ニ對スル警察取締規則頗ル多シ、其ノ多クハ火災豫防ヲ主眼トスルモノナリ。左ニ工場ノ災害豫防ニ關スル地方警察命令ノ名稱及此ノ種規定ヲ有スル府縣名ヲ掲ク。

### 工場災害豫防ニ關スル地方廳令

#### 甲 一般工場ニ適用アルモノ

工場取締規則（工業場取締規則）

製造所其ノ他ニ關スル取締規則

製造所取締規則

工場寄宿舍及附屬建設物取締規則

諸製造所建設規則

工場建設取締規則

汽罐汽機取締規則

原動機取締規則

北海道、大阪、神奈川、兵庫、長崎、埼玉、奈良、三重、滋賀、岐阜、福島、富山、島根、岡山、廣島、德島、香川、高知、熊本  
警視廳  
京都、宮城、和歌山、德島  
愛知  
山梨  
長野  
神奈川、静岡、山梨、滋賀、岐阜、長野、宮城、岩手、秋田、富山、鳥取、島根、高知、福岡、大分、佐賀、沖繩  
警視廳、兵庫、新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、三重、福島、山形、福井、石川、岡山、山

發動機取締規則  
建築取締規則  
倉庫納屋其ノ他建物取締規則

#### 乙 特殊工場ニ關スルモノ

摺付木（燐寸）製造所取締規則

煙筒取締規則

火工場取締規則（鍛冶、鑄物及鑄掛工場取締規則）

原石油貯藏所及石油精製所取締規則（石油取締規則）

危險物取締規則

緩燃導火線及煙火（火工品）取締規則

爆發物取締規則

口、和歌山、愛媛、熊本、宮崎、鹿兒島  
山梨、岐阜  
大 阪  
大 阪  
北海道、大阪、長崎、新潟、宮城、福島、岩手、山形  
北海道、神奈川、新潟、栃木、静岡、福島、岩手、島根、廣島、和歌山、福岡、鹿兒島、沖繩  
北海道、警視廳、静岡、長野、山形、福井、愛媛、佐賀、鹿兒島  
北海道、京都、神奈川、兵庫、長崎、新潟、滋賀、宮城、岩手、青森、秋田、石川、廣島、山口、和歌山、香川、高知、福岡、佐賀、熊本、鹿兒島  
警視廳、大阪、兵庫、三重、愛知、福岡  
警視廳、京都、長崎、新潟、千葉、茨城、栃木、三重、静岡、滋賀、長野、宮城、福島、青森、福井、石川、廣島、高知  
警視廳

雜業取締規則  
火防取締規則  
乾燥場取締規則

——  
福 千 京  
井 葉 都

#### 四、汽罐汽機ノ保險制度

汽罐汽機ノ保險ニ付テハ現時第一機關保險株式會社一アルノミ概要左ノ如シ。

創 立 明治四十一年

資本金 五〇〇、〇〇〇圓 内拂込 一二五、〇〇〇圓

事業概況 (大正十四年末)

保險金額 四、八六六、〇〇〇圓

收 入 七五、〇七八圓

保險件數 (汽罐ノミ) 九二七件

主タル府縣 東京 三六一件 大阪 二〇一件 兵庫 一四六件

愛知 一三九件 京都 四三件

保險事故 創立以來一回モナシ

汽 罐 檢 査 年一回之ヲ行フ 検査料 三〇圓乃至四〇圓(東京大阪以外ハ

外ニ旅費ヲ要ス)

東京、大阪、兵庫等ニ於テハ右保險ニ附シタル汽罐ニ付テハ警察ノ定期ノ検査ヲ行ハス其ノ他ノ府縣ニ於テモ明文ナシト雖モ大體同様ノ取扱ヲナシツツアリト云フ。

汽罐以外ノ危險物エレベーター、起重機等ニ付テハ未ダ保險制度發達セス。

### 第二章 安 全 運 動

#### 一、産業福利協會ノ設立前

我國ニ於ケル安全運動ハ大正五年内田嘉吉氏カ米國ノ安全第一運動ヲ視察シ之ヲ我國ニ紹介シテ安全第一協會ヲ設立シタルニ始マル。

安全第一協會ハ大正六年創立セラレ會長内田嘉吉、専務理事蒲生俊文氏ニシテ、朝野有力者ノ支持ヲ得、産業災害ノ外火災豫防、交通災害ノ如キ公衆災害モ其ノ範圍ニ入レ、廣ク宣傳ニ從事シ機關紙「安全第一」ヲ發行シ(大正六年四月創刊大正八年三月迄繼續)「安全第一」ノ語ヲ社會ノ各方面ニ普及スルコトヲ得タリ。(安全第一協會ノ設立主旨書及規約ニ付テハ勞働保護資料第十四輯日本ニ於ケル災害防止運動及工業衛生第二頁以下參照)

文部省教育博物館カ此ノ氣運ニ動サレテ、大正八年六月、災害防止展覽會ヲ開催セントシタルヲ以テ、安全第一協會ハ之ヲ援助シ、同所ノ講演會ニ於テ蒲生專務理事カ米國「セントルルス」ニ於テ實行シタル「安全週間」ノ狀況ヲ報告シ、之ヲ日本ニ於テ行ハンコトヲ希望シタルカ、當時ノヒ野署長池田清氏ノ發議ニ依リ、安全第一協會教育博物館及上野警察署長ノ發起ヲ以テ日本ニ於ケル最初ノ安全週間ヲ東京市及其ノ隣接町村ニ實行シタリ。

此ノ安全週間ノ結了ト共ニ安全第一協會ノ外ニ別ニ中央災害防止協會ヲ組織スルニ至レリ。之大正八年ノコトナリ。然レ共此ノ兩協會ハ幹部ハ同一人タルモノ多ク其ノ事業及目的同一ニシテ二者併存スルハ無意義ナリトシ、大正十二年震災後兩者ヲ合併シテ、日本安全協會ヲ設立シ、交通、防火、疾病、傷害、工場、鑛山ノ五部ヲ置キテ活動ニ從事シタリシカ、會費及寄附金ノ蒐集意ノ如クナラス、機關雜誌ハ數號ニシテ終リ、運動休止ノ狀況ニ陥レリ。

其ノ後大正十四年産業災害豫防協會ナルモノ東京ニ設立セラレ「綠十字」ヲ「マーク」トシテ東京附近ニ防火宣傳ヲ行ヒタルコトアリ。其ノ他東京ニ交通道德會、交通事故防止會、消防義會、消防茶話會等アリ、各地ニ工場懇話會、工場研究會等ノ團體ノ發達ヲ見、安全週間、安全デー等ノ開催ヲ見タリシカ何レモ全國的ナラス、且一回ノ催物ヲ以テ終ルモノ尠カラス。我國ニ於テ産業災害豫防ヲ目的トスル眞實ナル全國的運動ハ次ニ述フヘキ産業福利協會ノ設立ニ依リテ一新時期ヲ劃スルニ至レリ。

## 一、産業福利協會ニ關スル件

産業福利協會ハ産業災害ノ豫防、勞働衛生ノ改善其ノ他福利施設ノ指導獎勵ヲ爲シ一方勞働法規ノ圓滿ナル施行ヲ助クルト共ニ兼ネテ全国各地ニ於ケル工場懇話會、工場衛生會等ノ同種團體ノ中央機關トシテ其ノ聯絡提携ヲ計ルコトヲ目的トスルモノナリ。之カ沿革組織、事業等ニツキ概説スヘシ。

### (一) 沿革

産業福利協會ノ成立ハ大正十四年秋ナルモ其ノ由來ハ更ニ古ク、大正五年工場法ノ施行以來、全国各地ニ工場懇話會、工場衛生會等ノ工業主ノ團體カ組織セラレ、大正十三年頃ニハ主要工業府縣ニ於テ此ノ種團體ノ設立ヲ見サルナキニ至レリ。此ノ種團體ハ其ノ名稱及目的組織必ラスシモ同一ナラスト雖モ、概言スレハ、工場法ノ圓滿ナル施行ヲ助ケ、工場ニ於ケル災害ヲ豫防シ、其ノ他衛生ノ改善福利施設ノ獎勵助長、能率ノ増進等ヲ主タル目的トスルモノニシテ、其ノ組織ハ二三ノモノヲ除キテハ、地方廳ニ於ケル工場監督官吏ヲ事務ノ中心ト爲スモノナリ。而シテ成立ノ當初ニ於テハ本來地方的ノモノナリシモ相互提携連絡ノ機關トシテ全國的聯合團體ヲ作ラントスル議起リ、一般ノ賛成ヲ得テ大正十四年ノ秋、社會局内ニ産業福利協會ヲ設クルニ至リタルモノトス。

本會ハ設立ト共ニ上記工業懇話會、工場衛生會等ノ外、工業俱樂部鑛山懇親會、石炭鑛業聯合會等

ノ入會ヲ得、其ノ後數府縣ニ鑛工聯合會、工場協會等ノ成立加入ヲ見ルニ至レリ。  
本會ハ設立當初ハ之等組成團體ノ負擔ニ依リテ其ノ經費ヲ維持シタリシカ昭和二年度ヨリ國庫ヨリ補助金ヲ受クルニ至レリ。

(二) 組織

設立當初ニ於テハ上記組成團體ノミヲ會員トシタリシモ個人トシテ入會シテ本會ノ便宜ヲ受ケタキ希望渺カラス、因テ昭和二年二月會則ヲ改正シ會員ヲ左ノ二種トス。

- (一) 維持會員 府縣工場懇話會等ノ團體 會費 一口五十圓
- (二) 通常會員 會社工場鑛山又ハ個人 會費 年額十圓
- (三) 贊助會員 一時金五百圓以上ヲ寄附シタルモノ

本會ノ現在執行機關ハ左ノ如クニシテ會長以下總テ社會局ノ官吏ナリ。

- 總裁 內務大臣
- 會長 社會局長官
- 理事長 勞働部長
- 常務理事 勞働部監督課長及保險部監理課長
- (三) 事業

現在ノ主タル事業左ノ如シ。

第一、刊行物

- (一) 月刊雜誌「産業福利」
- (二) 産業福利パンフレット
- (三) 産業福利ポスター(懸賞募集及發賣頒布)
- (四) 勞働立法、衛生、安全、福利一般、其ノ他ノ事項ニ關スル印刷物
- (五) 社會局出版物ノ取次(勞働時報健康保險時報其ノ他)

出版物中災害豫防ニ關スルモノ左ノ如シ。

工場災害豫防の話

災害豫防

ポスター

勞働衛生

工場鑛山ニ於ケル業務上ノ不具癡疾者ノ現狀

木工機械ニ對スル安全裝置

動力傳導裝置ニ對スル安全裝置

工場火災の話

工業中毒及救急施設  
工場安全讀本  
採炭の話  
安全工長(繪入)

第二、集 會

(一) 講習會ノ開催

第一回 大正十五年十月二十五日ヨリ一週間、東京

講習科目及講師

開催ノ主旨  
産業福利ノ精神  
災害法制  
安全第一運動  
工場設備  
機械的災害  
電気ト災害

社會局長官  
社會局勞働部長  
社會局監督課長  
社會局囑託  
特許局機械部長  
社會局技師  
工學博士

長岡隆一郎  
河原田稼吉  
吉阪俊藏  
蒲生俊文  
勝田一  
數江雄二  
太刀川平治

化學的災害  
建築ト災害  
職工ノ榮養  
結核及消化器病豫防  
婦人衛生  
工業中毒豫防心得及救急施設  
工場ト體育  
工場ト音樂

社會局技師  
社會局技師  
醫學博士  
社會局醫療課長  
醫學博士  
社會局技師  
衛生局囑託  
東京音樂學校  
助教

色川三男  
井口幸一  
高木源之助  
佐伯短  
古瀬安俊  
笠森周護  
鯉沼卯吾  
出口林次郎  
中田章

第二回 昭和二年五月九日ヨリ一週間、大阪  
講習科目及講師

開催ノ主旨  
安全法制  
工場災害ノ法律の取扱  
安全運動大綱  
災害ノ心理

社會局勞働部長  
社會局監督課長  
大阪府工場課長  
社會局囑託  
大阪能率研究所技師

河原田稼吉  
吉阪俊藏  
大金益次郎  
蒲生俊文  
鈴木久藏



|             |           |       |
|-------------|-----------|-------|
| 工場安全設置      | 工場監督官     | 高野瀨宗吉 |
| 機械的災害       | 大阪安全研究會幹事 | 山崎元英  |
| 工場火災豫防      | 工場監督官     | 菅野久一  |
| 建築ト災害       | 社會局技師     | 高木源之助 |
| 化學的災害       | 社會局技師     | 色川三男  |
| 工業中毒豫防及救急施設 | 工場監督官     | 助川浩   |
| 工場衛生        | 大阪醫科大學教授  | 石原修   |
| 醫學          | 醫學博士      |       |

第三回 昭和二年十月十八日ヨリ一週間、福岡

講習科目及講師

|        |         |       |
|--------|---------|-------|
| 安全ト衛生  | 社會局勞働部長 | 河原田稼吉 |
| 産業福利施設 | 社會局監督課長 | 吉阪俊藏  |
| 災害豫防法制 | 社會局事務官  | 北岡壽逸  |
| 安全運動大綱 | 社會局監督課長 | 吉阪俊藏  |
| 化學的災害  | 社會局事務官  | 北岡壽逸  |
| 火災豫防   | 社會局技師   | 色川三男  |
|        | 同上      | 井口幸一  |

|            |               |       |
|------------|---------------|-------|
| 機械的災害ト豫防裝置 | 同上            | 數江雄二  |
| 鑛山變災ノ豫防    | 明治鑛業株式會社專務取締役 | 石渡信太郎 |
| 能率増進ト工場建築  | 社會局技師         | 高木源之助 |
| 職業病救急施設    | 同上            | 大西清治  |
| 勞働衛生       | 九大學教授         | 大平得三  |
| 鑛山災害豫防實驗   | 醫學博士          | 萩尾善次郎 |
| 口腔衛生       | 海軍技師          | 綠川宗作  |

(二)(三) 講演會、談話會、研究會ノ開催 展覽會ノ開催

歐米各國ニ於ケル災害豫防及衛生ニ關スル器具、設備、裝置及資料ヲ蒐集中ニシテ米國ニ於ケルモノハ既ニ到着シ福岡及九州各地ニ於テ展覽一供シタリ。

(四) 講演會及展覽會ノ斡旋

第三、映畫

(一) フキルム及幻燈寫真ノ貸付

既ニ福岡及九州各地ニ巡回セリ。

(二) 優良映畫ノ推獎

第四、懸賞募集

(一) ポスター圖案及標語

(二) 小説及劇筋書

(三) 發明考案

第五、安全及衛生ニ關スル運動及其ノ指導

(一) 安全週間、衛生週間ノ舉行

(二) 安全委員、福利係ノ獎勵指導

(三) 功勞者表彰

第六、地方同種團體ノ聯絡

### 三、其ノ他ノ團體ノ活動

産業福利協會及其ノ他ノ組成團體ノ外ニ於テ産業災害豫防ノ爲メニ努力スル團體尠カラス、其ノ重ナルモノヲ概記スレハ左ノ如シ。

1 建築學會 ニ於テハ災害豫防委員會ヲ組織シテ建築ト關連シタル災害豫防ノ研究ヲ爲シ時々具體

的注意書ヲ作成シテ關係方面ニ配布シタリ。

2 日本電氣協會 ニ於テハ電氣ニ關スル災害ノ豫防ヲ目的トシテ災害豫防委員會ヲ組織シ、大正十三年「電氣作業安全心得」ヲ編成シ關係者ニ配布シ金十錢ヲ以テ希望者ニ配布シ居レリ。

3 セルロイド安全會 大正九年ヨリ警視廳管内各警察署毎ニ「セルロイド」製造及加工業者ヲ以テ「セルロイド」安全會ヲ組織シ主トシテ火災豫防ニ努メツツアリ。

4 昭和二年七月鑛山業者ノ團體及鑛山關係者ヨリ成ル日本鑛山協會成立シタリ。理事長ハ鑛山局長ニシテ主トシテ災害豫防ノ調査ニ従事ス。

5 勞資協調會 ニ於テハ大正九年及十年ニ亘リ其ノ主催スル社會政策講習所ノ講習科目中ニ災害豫防ナル科目ヲ設ケ工場監督官佐藤筌太郎氏、安全協會主事蒲生俊文（現産業福利協會理事）其ノ講義ヲ擔當シタリ、其ノ後暫時中絶シタリシカ昭和二年春社會政策講習所ノ後身タル社會政策學院ノ講習ニ於テ工場監督官北岡壽逸氏災害豫防ノ講義ヲ擔當シタリ。

### 四、安全週間及安全デー

安全週間又ハ安全「デー」トハ一定ノ期間ヲ限リテ安全思想ヲ宣傳シ、勞働者及資本家双方ノ注意ヲ喚起スルト共ニ設備及機械ノ検査、安全裝置ノ設置及改善ヲ促スモノニシテ或ハ一工場又ハ一鑛山

ニ限リテ行ハルルコトアリ、或ハ一地方一府縣又ハ殆ント全國的ニ行ハルルコトアリ、一工場又ハ一鑛山ニ限リテ行ハルルモノハ、次ニ述フヘキ安全施設中ニ記スヘシ、地方的又ハ全國的ニ行ハレタルモノヲ年代順ニ掲クレハ左ノ如シ。

安全週間又ハ安全「デー」一覽

| 範圍及名稱      | 主催者          | 期日               | 備考                   |
|------------|--------------|------------------|----------------------|
| 東京及其附近     | 安全第一協會       | 大正八年六月十五日—二十一日   | 工場ノ外、交通防火、等ヲモ含ム      |
| 神奈川縣工場安全デー | 神奈川縣工場懇話會    | 大正九年十月四日—六日      |                      |
| 工場安全デー     | 東京工場懇話會      | 大正十年三月二十二日ヨリ三日間  | 東京府工場懇話會ニテハ毎年二回舉行ノ豫定 |
| 京都府工場安全デー  | 京都府工業聯合會     | 大正十年十一月七日ヨリ五日間   |                      |
| 静岡縣工場安全デー  | 静岡縣警察部工場課    | 大正十一年四月十二日ヨリ三日間  |                      |
| 石川縣工場安全デー  | 石川縣警察部       | 大正十一年五月八日—二十七日   | 石川縣ニ於テハ大正十年ニモ實行シタリ   |
| 和歌山縣工場安全デー | 和歌山縣警察部      | 大正十三年三月四日—三日間    |                      |
| 埼玉縣工場安全デー  | 埼玉縣工場懇話會     | 大正十三年十一月七日—五日間   |                      |
| 兵庫縣下安全週間   | 兵庫縣工場課並ニ工場團體 | 大正十五年五月二十三日—二十九日 |                      |

|               |                             |                    |  |
|---------------|-----------------------------|--------------------|--|
| 大阪府安全旬        | 大阪府工業懇話會                    | 大正十五年七月一日—十日       |  |
| 京都市内工場安全週間    | 市内各警察署内工業會                  | 大正十五年十一月八日—十四日     |  |
| 福岡縣安全デー       | 福岡縣工場課                      | 大正十五年十一月九日—十一日—三日間 |  |
| 埼玉縣工場安全週間     | 埼玉縣工場課                      | 大正十五年十二月一日—七日      |  |
| 廣島縣安全週間       | 廣島縣工場課                      | 昭和二年七月四日—十日        |  |
| 一道三府二十一縣聯合安全週 | 一道三府廿一縣聯合會                  | 昭和二年十月二日—八日        |  |
| 宮崎縣安全運動       | 宮崎縣工場協會                     | 昭和二年十月二十二日         |  |
| 愛媛縣安全デー       | 愛媛縣工場研究會                    | 昭和二年十月二十五日—六日—三日間  |  |
| 大分縣安全デー       | 大分縣工業協會                     | 昭和二年十月三十日          |  |
| 福岡縣安全デー       | 福岡縣工場懇話會、東邦、日本足袋、鐘紡、三井鐵業、聯合 | 昭和二年十一月七日ヨリ三日間     |  |
| 全海軍工場鑛山安全週間   | 海軍省                         | 昭和二年十二月十五日—廿一日     |  |

安全週間、安全「デー」等ニ於ケル施設事項ハ大同小異ニシテ、大正十四年初メ迄ノ分ハ勞働保護資料第十四輯ニ採録シタリ、昭和二年十月一道三府二十一縣、社會局及産業福利協會ノ主催ニカカル安全週間ハ我國未曾有ノ大規模ノモノナリシヲ以テ左ニ概要ヲ述フヘシ。

今回ノ安全週間ノ開催ニ當リ其ノ準備トシテ京都ニ於テ準備打合會ヲ開キ、記布印刷物「ポスター」「マーク」等ヲ決定シ、次テ參加各府縣ニ於テ或ハ一箇所ニ多數ノ工業主又ハ工業主及労働者ヲ集メ或ハ一工場ニ於テ係員及労働者ヲ集メ主旨宣傳ノ講演會ヲ催シ、社會局監督課長吉坂俊藏氏、産業福利協會理事蒲生俊文氏ハ全國各地ニ巡回シ社會局及地方ノ工場監督官何レモ管内各地ニ於テ主旨宣傳ニ努メタリ、配布印刷物ハ次ニ掲クル「工場安全週間實施ノ趣意」「工場安全週間ニ關スル參考事項」及「従業員注意事項」ノ三種ノ外「清潔」「整頓」「注意」「危険」「怪我せぬやうに」「病氣せぬやうに」「十月二日ヨリ十月八日マテ安全週間」等ノ標語注意書及大形「ポスター」等ニシテ其ノ他各地工場限リニ於テ多數ノ印刷物ヲ配布シタリ。

安全週間開始當日ニ於テハ東京及大阪ニテハ「ラジオ」放送ヲ行ヒ一般的ニ注意ヲ喚起シタリ。

#### 工場安全週間實施ノ趣意

工場ノ健全ナル發達ヲ期シ工業主、勞務者双方ノ福利ヲ増進スル爲ニハ災害ヲ防止シ衛生設備ヲ完全ニスルコトカ何ヨリモ大事ナコトデアリマシテコレニ必要ナル法規ノ制定ニ就キマシテハ政府ニ於テモソレ々整備セラレツツアルトコロデアリマスカスノ種施設ノ改善ハ法規ノ強制ヲ俟ツマテモナク寧ロ工業主ト勞務者各自ノ自覺的努力ニ依ツテ安全第一主義ヲ實行シタイモノデアリマス今吾カ國ニ於ケル工場ノ災害ハ之ヲ大正十四年中五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ起リタル死傷者ノ數ニ看

ルモ二萬九千四百十三人其ノ扶助金額三百九萬七千七百六十七圓ニ上ツテ居リマス斯ノ如ク多數ノ災害カ年々歳々繰リ返サレルト云フ有様デアツテハ之レヨリ生シマス工業主ノ損失、産業上ノ障害、勞務者並其ノ一家ノ不幸ナドヲ算ヘ來リマスレハ國家ヤ社會ニ誠ニ重大ナ現象ヲ惹キ起シテ來ルノデアリマシテ識者ハ災害ノ賠償ヨリハ寧ロ豫防ニ如カズト唱ヘテ居リマス故ニ工場ノ安全運動ニハ近時世界ヲ舉ケテ警鐘ヲ亂打シ競ウテ其ノ歩武ヲ進メツツアルノデアリマシテ此ノ恐ルヘキ工場ノ災害ヨリ生シマス損失ヲ擊退シ平和ナル産業ノ發達ヲ期シマスコトハ産業立國ノ第一義テナクテハナラヌノデアリマス。

顧ミマスレハ工場ノ災害發生カ比較的緩慢性ナルト當面ノ犠牲者カ個々ノ勞務者ナルコトニ基因スルカクシテ震火災或ハ鐵道事故ナドノ如ク世上ノ耳目ヲ惹クコトガ少イニ反シマシテ其ノ慘害ガ却ツテ深刻デアリ且散在的ニ多數デアルコトハ先覺者ノ知ラルル處デアリマス茲ニ於テ工場ヨリ災害ヲ除クタメニハ先ツ工場従事者ノ安全思想ヲ鼓吹シ常ニ安全習性ヲ徹底セシメ完全ナル設備ト周到ナル注意トニ依リ無災害工場タラシムルコトヲ標的トシテ安全運動ヲ進メテ行クコトガ刻下喫緊ノ急務デアルト信ジマス。

從來各府縣ハ各箇ニ安全「デー」、安全週間ヲ實施シテ居リマシテ相當ノ收穫ガアリマシタコトハ疑フノ餘地ハアリマセンガ只ソノ時季ヤ方法カ區々デアリマスノヲ遺憾トシマスノテ茲ニ一道三府二十

一縣聯合シテ本年十月二日ヨリ八日マテ工場安全週間ヲ決行スルノ議ガ纏リ協同一致互ニ相呼應シテ  
翕然タル氣勢ヲ揚ケ大々的ニ災害防止、安全第一ノ精神ヲ振興セントスルノテアリマス。

工業主各位ハ從來トモ災害ノ豫防、工場衛生ノ完成ニハ夫々努力セラレテ居ルコトトハ存シマスガ  
此ノ機會ニ於テ一層ノ完全ヲ期スルコトニ致シテ貫ヒタイノテアリマシテコレカ實施ノ方法トシマシ  
テハ主催者ノ計畫ニ依ルノ外工場ノ優越ナル御趣向ニ依リ一層ノ效果ヲ擧ケタイノテアリマス、尙主  
催者ヨリ配付シマスル「工場安全週間實施ニ關スル參考事項及従業員注意事項」ハ精々御利用セラレ  
ンコトヲ切ニ御勸メスル次第デアリマス。

昭和二年九月日

|      |     |     |     |
|------|-----|-----|-----|
| 北海道廳 | 警視廳 | 京都府 | 大阪府 |
| 兵庫縣  | 新潟縣 | 群馬縣 | 奈良縣 |
| 三重縣  | 愛知縣 | 滋賀縣 | 岐阜縣 |
| 宮城縣  | 福島縣 | 岩手縣 | 秋田縣 |
| 福井縣  | 鳥取縣 | 島根縣 | 岡山縣 |
| 和歌山縣 | 徳島縣 | 香川縣 | 高知縣 |
| 沖繩縣  |     |     |     |

工場安全週間聯合會

内務省社會局後援

内務省社會局内

産業福利協會後援

### 工場安全週間ニ關スル參考事項

#### 工場ニ於ケル實施準備

一 安全委員會ハ安全係等ノ組織ナキ工場ニテハ成ルヘク之ヲ設ケ之等ヲシテ安全週間ノ計畫並之カ  
實行督勵ノ任務ニ當ラシムルコト尙安全委員會又ハ安全係ハ爾後繼續シテ工場ノ安全保持ニ努ムル  
コトニ定メラレタシ。

二 安全週間中ノ工場ニ於ケル實施事項及其ノ方法等ヲ具體的ニ定メ且成ルヘク其ノ第一日ヨリ第七  
日迄ノ日次計畫ヲモ定メ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ従業員全部ニ周知セシムルコト。

三 安全週間實施ノ趣旨及心得方ヲ一般従業員ニ周知セシメ之ニ對スル興味ヲ喚起セシムルコトニ努  
メ工場安全ノ效果ヲ覺知セシムルコト。

其ノ方法トシテ災害豫防ニ關スル講演會開催、安全「ポスター」、安全標語若ハ警句等ノ募集、災害ニ  
關スル統計ノ揭示、安全週間趣意書、心得書、參考事項書等ヲ配付スルコトハ尤モ有效ト認メラ

- 四 危険票注意票及清潔票整頓票ヲ準備スルコト。
- 五 一般従業員ニ佩用セシムル安全徽章、安全委員、安全係又ハ役付職工ニ佩用セシムル「マーク」又ハ腕章等ヲ準備スルコト尙安全徽章ハナルヘク一道三府二十一縣工場安全週間聯合會ノ定ムルモノヲ採用スルコト。

工場ニ於ケル實施方法

- 一 安全週間中従業員ニハ安全徽章又ハ「マーク」腕章等ヲ着ケシメ安全週間中ナル觀念ヲ明確ナラシメ感興ヲ持タシムルコト。
- 二 作業場、食堂、寄宿舎ノ出入口其ノ他適當ナル個所ニ安全週間實施ニ關スル各種ノ揭示其ノ他ノ宣傳方法ヲ講シ工場全般ノ注意ヲ惹キ起スコト。
- 三 安全週間開始ノ直前ニ一般従業員ニ對シ簡單明瞭ニ安全週間實施ニ關スル注意事項ヲ訓話スルト。
- 四 安全週間満了ノ際ハ勿論週間中モ可成毎日實施成績ニ付テノ講評ヲ爲シ且週間中ニ於ケル負傷又ハ疾病ハ其ノ都度工場内ノ揭示板ニ告示ヲ爲シ一般従業員ノ注意ヲ持續セシムルコト。
- 五 危険ナル機械又ハ場所ニ危険票若ハ注意票ヲ貼付シ又清潔、整頓ヲ要スヘキ場所ニハ清潔票若ハ

整頓票ヲ貼付シ必要アラハ注意票ヲモ設ケテ注意ヲ促スコト。

- 六 「ポスター」、標語、警句等ヲ一般従業員ノ見易キ場所ニ揭示シ感興ヲ惹クコト。
- 七 安全週間中安全委員又ハ安全係ハ工場ヲ巡視シ従業員ニ對シ趣旨ノ徹底ト計畫ノ完全ナル實行トヲ期スルコト。

工業主ノ施設事項

第一 傷害豫防

- 一 工場又ハ寄宿舎其ノ他ノ附屬建物及機械、器具等諸設備ヲ検査シ不備ナル個所ヲ修繕スルコト
- 二 原動機動力傳導裝置其ノ他工作機械器具及通路ノ危険ナル部分ニハ出來得ル限り覆蓋、柵圍其ノ他適當ナル安全裝置ヲ完備スルコト。
- 三 機械運轉ノ開始、休止ノ合圖ヲ勵行シ且最モ敏速ナル應急停止ノ處置ヲ爲シ得ル方法ヲ講シ置クコト。
- 四 有害料品、高熱物體等ヲ取扱ヒ又ハ有害ナル瓦斯、粉塵、騒響、震動等ヲ發スル個所ニハ適當ナル除害、豫防ノ設備ヲ爲スコト。
- 五 作業服、作業用帽子、保護具等ハ優良ナルモノヲ選定シ之カ使用ヲ勵行スルコト。
- 六 服裝、結髮其ノ他作業手順、標準動作、標準態度等ヲ考究シ不安、危険ナル點ヲ改善スルコト

七 非常口其ノ他避難設備ヲ完成シ其ノ個所ニハ適當ナル標示ヲ爲シ置クコト。

第二 衛生

- 一 工場内外ノ清潔整頓ヲ期スルコト。
- 二 炊事場、洗面所、浴場、食堂、休憩室其ノ他寄宿舎等工場全般ノ衛生設備ヲ完全ニシ清潔ヲ保持スルニ努メ特ニ飲料水、下水、便所、塵溜等ニハ格段ノ注意ヲ拂フコト。
- 三 作業場及寄宿舎ノ採光、換氣、照明、除塵、防蠅等ノ裝置ヲ完全ニシ温度、湿度等ノ過不足ヲ整調スルコト。

四 救急醫療施設ヲ完備スルコト。

五 工場寄宿舎等ニ所定ノ唾壺ヲ配備シ置クコト。

第三 火災豫防

- 一 工場内ニハ防火ノ設備ヲ十分ナラシムルコト既ニ備付ノ消火器、ポンプ、盛砂、用水槽其ノ他消火防火ノ器具ニ就テハ特ニ嚴密ナル検査ヲ爲シ完全且有効ニ修補スルコト。
- 二 灰、焚殻其ノ他殘火ノ跡仕末ヲ完全ニスルコト。
- 三 機械ノ摩擦、乾燥裝置、漏電、火爐ニ注意シ煙突、煙道等ノ掃除、手入ヲ完全ニスルコト。

四 原料、材料、製品等ノ自然發火ノ防止方法ヲ講シ置クコト。

五 揮發油其ノ他引火性料品ノ取扱等危險ナル作業方法ヲ嚴重ニ監督取締ルコト。

六 喫烟場ヲ一定シ濫喫ヲ嚴禁スルコト。

七 豫メ消防演習、避難豫習等ヲ行ヒ不時ノ災厄ニ處シ遺漏ナカラシムルコト。

第四 其ノ他

一 安全週間直前及週間中ハ特ニ夜更カシ、寢不足、過勞、暴飲、暴食其ノ他不衛生的ノ行爲ヲ慎重様注意スルコト。

二 安全週間中ハ一般従業員ニ對シ安全徽章ヲ佩用セシメ且家族ニ對シ安全ニ關スル訓話ヲナシ「安全第一」ナル觀念ノ注入ニツトメシムルコト。

従業員注意事項

- 一、機械、器具、工具及材料等ノ取扱ニ注意スルコト。
- 一、故障アル機械、器具及工具ハ直ニ修理シテ貰フコト。
- 一、「ベルト」、車輪、「ローラー」齒車等ニ注意スルコト。
- 一、「ベルト」、ノ掛ケ外シヤ危險部分ノ掃除、注油、修理等ハ運轉ヲ停止シテ行フコト。
- 一、機械ノ運轉開始ノトキハ總テニ差支ヘナキコトヲ確メテカラ行フコト。
- 一、火氣ノ取扱ニ注意スルコト。

- 一、火ヲ引キ易イモノ爆發シ易イモノノ取扱ニ注意シ使用後ハ貯藏所ニ收納スルコト。
- 一、油類ノ着イタ襪類ハ安全ナル場所ニ置クコト。
- 一、禁止サレタ場所ヲ煙草ヲノマスコト。
- 一、藥品類ノ取扱ニ注意スルコト。
- 一、安全装置ヲ妄リニ取外ツサヌコト。
- 一、「マスク」ヤ保護眼鏡ノ使用ヲ怠ラナイ様ニスルコト。
- 一、服装ヤ頭髮ヲ縮リヨクシ機械ニ捕ハレヌ様ニスルコト。
- 一、「トロッコ」ニ注意スルコト。
- 一、走ツテ迂リ轉ハヌ様氣ヲツケルコト。
- 一、手元足元ニ注意スルコト。
- 一、無駄口ヲ言ハヌコト。
- 一、食過キ飲過キヲ慎ムコト。
- 一、寢冷セズ風引カヌ様氣ヲツケルコト。
- 一、熟睡スルヤウ注意スルコト。
- 一、規則正シキ生活ヲスルコト。
- 一、汚レタ寢具ヤ衣類ハ洗濯シ時々日光ニサラスコト。
- 一、食堂、休憩所、洗面所、便所等ヲ綺麗ニスルコト。
- 一、痰唾ハ唾壺ニ吐クコト。

本安全週間中ノ施設事項及實際ノ效果ニ就テハ之ヲ全般的ニ示スコト困難ナルカ左ニ東京府及兵庫縣ノ報告ヲ採録スヘシ。

一、警視廳管内安全週間中ノ施設事項及成績

工場ニ於ケル施設事項

- 一、安全委員會又ハ安全係等ヲ組織セルモノ 五〇三件
- 二、安全週間實施事項又ハ日次計畫ヲ定メタルモノ 二七六件
- 三、安全週間實施ノ趣旨ヲ一般従業員ニ周知セシメ災害豫防ニ關スル講演會開催、安全「ポスター」  
安全標語若ハ警句等ノ募集、災害ニ關スル統計ノ揭示、安全週間趣意書、心得書、參考事項書等ヲ配  
布揭示セルモノ 二、八八〇件
- 四、危険票、注意票及清潔票、整頓票ヲ準備セルモノ 二、五五九件
- 五、安全徽章ヲ一般従業員、安全委員係又ハ役付職工ニ佩セシメタルモノ 二、〇六八件

工場ニ於ケル實施方法

- 一、安全週間中従業員ニハ安全徽章又ハ「マーク」腕章ヲ着ケシメタルモノ 二、〇四六件
- 二、作業場、食堂、寄宿舎ノ出入口其他適當ナル個所ニ安全週間實施ニ關スル各種ノ揭示其ノ他ノ



宣傳方法ヲ講シタルモノ

三八

- 三、安全週間開始ノ直前ニ一般従業員ニ對シ安全週間實施ニ關スル注意事項ヲ訓話セルモノ
  - 一、二六三件
- 四、安全週間満了ノ際又ハ週間中實施成績ニ付テノ講話ヲ爲シ且週間中ニ於ケル負傷又ハ疾病ヲ其ノ都度工場内ノ掲示板ニ告示ヲ爲シタルモノ
  - 二九九件
- 五、危険ナル機械又ハ場所ニ危険票若ハ注意票ヲ貼付シ又清潔、整頓ヲ要スヘキ場所ニハ清潔票若ハ整頓票ヲ貼付シタルモノ
  - 二、八四八件
- 六、「ポスター」標語警句等ヲ一般従業員ノ見易キ場所ニ掲示シタルモノ
  - 二、六八七件
- 七、安全週間中安全委員又ハ安全係カ工場ヲ巡視シタルモノ
  - 五〇六件

工場主ノ施設事項

第一、傷害豫防

- 一、工場又ハ寄宿舎其ノ他ノ附屬建物及機械、器具諸設備ヲ検査シ不備ナル個所ヲ修繕シタルモノ
  - 一、七六六件
- 二、原動機動力傳導装置其ノ他工作機械器具及通路ノ危険ナル部分ニ覆蓋、柵圍其ノ他適當ナル安全装置ヲ完備シタルモノ
  - 九一八件

- 三、機械運轉ノ開始、休止ノ合圖ヲ勵行シ且ツ最モ敏速ナル應急停止ノ處置ヲナシタルモノ
  - 三二九件
- 四、有害料品、高熱物體等ヲ取扱ヒ又ハ有害ナル瓦斯、粉塵、騒響、震動等ヲ發スル個所ニ適當ナル除害豫防ノ設備ヲ爲シタルモノ
  - 一一九件
- 五、作業服作用帽子、保護具等ノ優良ナルモノヲ選定シ使用シタルモノ
  - 二〇七件
- 六、服裝、結髮其ノ他作業手順、標準動作、標準態度等ヲ考究シ不安、危険ナル點ヲ改善シタルモノ
  - 二〇四件
- 七、非常口其ノ他避難設備ヲ完成シ適當ナル標示ヲ爲シタルモノ
  - 二三一件

第二、衛生

- 一、工場内外ノ清潔整頓ヲ爲シタルモノ
  - 二、五六四件
- 二、炊事場、洗面所、浴場、休憩室其ノ他寄宿舎等工場全般ノ衛生設備ヲ完全ニシ下水、便所、塵溜等ニハ格段ノ注意ヲ爲シタルモノ
  - 一、五〇〇件
- 三、作業場又寄宿舎ノ採光、換氣、照明、除塵、防蠅等ノ装置ヲ完全ニシ溫度、濕度等ノ過不足ヲ調査シタルモノ
  - 二四七件
- 四、救急醫療施設ヲ完備シタルモノ
  - 二六一件

三九

五、工場寄宿舎等ニ所定ノ睡壺ヲ配備シタルモノ 七二七件  
 第三、火災豫防

一、工場ノ消火器、ポンプ、盛砂、用水槽其ノ他消火防火ノ器具ニ就テハ特ニ嚴密ナル検査ヲ爲シ完全且有効ニ修補シタルモノ 三、四〇八件

二、灰、焚殺其ノ他殘火ノ跡仕末ヲ完全ニシタルモノ 八四七件

三、機械ノ摩擦、乾燥裝置、漏電、火爐ニ注意シ煙突、煙道等ノ掃除、手入ヲ安全ニシタルモノ 四三〇件

四、原料、材料、製品等ノ自然發火ノ防止方法ヲ講シ置キタルモノ 一三三件

五、揮發油其ノ他引火性料品ノ取扱等危險ナル作業方法ヲ嚴重ニ監督取締リタルモノ 二三二件

六、喫烟場ヲ一定シ濫喫ヲ嚴禁シタルモノ 四七七件

七、豫メ消防演習等ヲ行ヒ不時ノ災厄ニ遺漏ナカラシメタルモノ 一五四件

第四、其ノ他

一、安全週間直前及週間中特ニ夜更カシ、寢不足過勞、暴飲、暴食其ノ他不衛生ノ行爲ヲ慎ム様注意シタルモノ 三七九件

二、安全週間中一般従業員ニ對シ安全徽章ヲ佩用セシメ且家族ニ對シ安全ニ關スル訓話ヲナシ「安全第一」ナル觀念ヲ注入ニ力メタルモノ 一二五件

死傷者發生調

| 一日平均職工數 | 計       |        | 男      |        | 女      |        | 安全週間前一週間 | 安全週間中 | 安全週間後一週間 | 計   |
|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|-------|----------|-----|
|         | 負傷ノタメ   | 死亡シタル者 | 負傷ノタメ  | 死亡シタル者 | 負傷ノタメ  | 死亡シタル者 |          |       |          |     |
| 男       | 死亡シタル者  | 休業シタル者 | 死亡シタル者 | 休業シタル者 | 死亡シタル者 | 休業シタル者 | 一        | 一     | 一        | 一   |
| 女       | 死亡シタル者  | 休業シタル者 | 死亡シタル者 | 休業シタル者 | 死亡シタル者 | 休業シタル者 | 一        | 一     | 一        | 一   |
| 計       | 死亡シタル者  | 休業シタル者 | 死亡シタル者 | 休業シタル者 | 死亡シタル者 | 休業シタル者 | 二        | 二     | 二        | 二   |
| 男       | 八四、三四二  | 三九、四四六 | 二一〇    | 六六一    | 二一     | 八六     | 一三四      | 四四一   | 一八七      | 三九〇 |
| 女       | 八三、八一二  | 三九、五九一 | 一三四    | 四四一    | 一八     | 五九     | 一三四      | 四四一   | 一八七      | 三九〇 |
| 計       | 一六七、六五四 | 七八、〇三七 | 三四四    | 一〇六二   | 三九     | 一四五    | 二六八      | 八八二   | 三七七      | 七八〇 |

以上ハ加盟工場數壹萬千八百八十八ノ中ノ報告ヲ得タル五千八百八十八工場ノ集計ナリ

一、兵庫 縣

安全週間中及其ノ一週間前後ノ傷病調

| 業 務 別 | 安全週間中及其ノ一週間前後ノ |                         | 傷 病 |   | 職 工 數 |   |
|-------|----------------|-------------------------|-----|---|-------|---|
|       | 工 場 數          | 別ノ安全週間中及其ノ一週間前後ノ        | 男   | 女 | 男     | 女 |
| 染織工場  | 四一七            | 安全週間前<br>安全週間中<br>安全週間後 | 計   | 計 | 計     | 計 |
| 機械器具場 | 三〇一            | 安全週間前<br>安全週間中<br>安全週間後 | 計   | 計 | 計     | 計 |
| 化學工場  | 三五一            | 安全週間前<br>安全週間中<br>安全週間後 | 計   | 計 | 計     | 計 |
| 飲食物工場 | 一四一            | 安全週間前<br>安全週間中<br>安全週間後 | 計   | 計 | 計     | 計 |
| 計 合   | 一、九〇〇          | 安全週間前<br>安全週間中<br>安全週間後 | 計   | 計 | 計     | 計 |

其ノ後昭和二年十月下旬ニ於テ九州各縣ニ行ハレタル安全「デー」ハ實施方法大體同様ナルカ大分及宮崎二縣ノ成績ヲ掲クヘシ。

宮崎縣工場安全「デー」成績（昭和二年十一月七日ヨリ三日間）

備考 表中ノ工場數ハ調査セシ工場數ヲ示ス

| 期 間          | 工 場 安 全                 |                         | 傷 病 者 |     | 計 |
|--------------|-------------------------|-------------------------|-------|-----|---|
|              | 前 後                     | 前 後                     | 負 傷   | 疾 病 |   |
| 施行期間三日間      | 六五                      | 六二五                     | 一     | 二   | 三 |
| 安全デー施行期間中三日間 | 安全週間前<br>安全週間中<br>安全週間後 | 安全週間前<br>安全週間中<br>安全週間後 | 計     | 計   | 計 |
| 施行期間終了後三日間   | 安全週間後                   | 安全週間後                   | 計     | 計   | 計 |
| 計 合          | 一、九〇〇                   | 六二五                     | 計     | 計   | 計 |

安全デ―施設事項

| 新設又は改修シタル事項   | 新設  | 改修 | 計   |
|---------------|-----|----|-----|
| 安全掲示板         | 二九〇 | 一一 | 三〇一 |
| 消防火器          | 七〇  | 二〇 | 九〇  |
| 危険標示札         | 五六  | 一〇 | 六六  |
| ベルト           | 一   | 一  | 二   |
| シャフト及ベルトノ安全装置 | 九五  | 二七 | 一二二 |
| 非常口ニ赤色電燈      | 一二  | 一  | 一三  |
| 非常口           | 三   | 一  | 四   |
| タノン           | 一七  | 一  | 一八  |
| 煮瀾機ノ熱湯飛散防止装置  | 三   | 一  | 四   |
| 原動機           | 一九  | 四  | 二三  |
| 研磨機カバ         | 二   | 一  | 三   |
| 非常機用水箱        | 八   | 一  | 九   |
| 救急箱           | 二   | 一  | 三   |
| 注油器           | 一   | 一  | 二   |
| 工場作業室床面及通路    | 一   | 一  | 二   |
| 工場支柱          | 一   | 一  | 二   |
| 消火用窒素瓦斯容器     | 一   | 一  | 二   |
| 變流機械刷子取替用絶縁臺  | 一   | 一  | 二   |
| エレベーター昇降口手摺   | 一   | 一  | 二   |
| 計             | 一〇二 | 三〇 | 一三二 |

大分縣安全デ―施設事項及成績表

(昭和二年十一月七、八、九、三日間實施)

機械器具ノ修復手入

| 計     | 洗眼器 | 下水溝 | 下水床 | 浴室 | 便所 | 工場 | 食堂 | 安全委員 | 其他  |
|-------|-----|-----|-----|----|----|----|----|------|-----|
| 一、一七六 | 二   | 一   | 一   | 一  | 一  | 一  | 一  | 四六四  | 一五八 |
| 三二九   | 一   | 一   | 一   | 一  | 一  | 一  | 一  | 一五八  | 一五八 |
| 一、五〇五 | 二   | 二   | 二   | 二  | 二  | 二  | 二  | 六二二  | 六二二 |

- 一、原動機ノ修復
- 二、ベルトノ修復
- 三、覆蓋及柵圍ノ取付
- 四、スウキチノ取替
- 五、機械器具ノ修復

七  
三九  
七八  
一九  
二六四

六、工場全部ノ機械手入

七、毎朝機械器具ノ點檢ヲ行フ工場

建物ノ修理改修

一、煙突ノ修理

二、腐朽破損部分ノ改修

三、非常口ノ改修

四、階段ノ改修

五、窓ノ改修

六、浴場ノ改修

七、休憩所新設

衛生設備ノ改善其他

一、工場全部ノ清潔掃除

二、採光障害物ノ除去

三、防塵裝置ノ新設

四、洗面所ノ新設改修

二二七

一一

四一

五五

一〇

一五

一

一

八七

七

八九

五、敷布及襟布ノ新調

六、井水ノ消毒

七、洗濯場新設

八、下水溝ノ改修

九、便所ノ新設及改修

一〇、唾壺ノ増置

一一、危険物投入函ノ新設

一二、塵箱ノ増置

一三、炊事場ノ改修

火災豫防設備ノ改善其他

一、消防器具ノ點檢

二、消防演習

三、消火器ノ新設及修理

四、消火用砂箱ノ増置

五、消火用水タンク新設

二六五

六

三〇

一三

三九

三七

二五

一一

一

四六

三

三五

五〇

二二

- 六、火ノ番新設
  - 七、喫煙室ノ新設
  - 八、火災報知器ノ取付
  - 九、火見櫓新設
  - 一〇、避雷針取付
  - 一一、非常用バケツ増置
  - 一二、炊事場及火針ノ電化
- 其他ノ新設
- 一、講話ヲナセル工場
  - 二、標語ヲ特ニ印刷セル工場
  - 三、標語ヲ職工ヨリ募集セル工場
  - 四、安全掲示板ヲ新設セル工場
  - 五、安全投書函ヲ新設セル工場
  - 六、安全委員ヲ新設セル工場
  - 七、負傷疾病統計ヲ揭示セル工場

一 四〇 二 一 二 三 五

一 二 二 四 一 三〇 二六

- 八、女工用帽子ヲ新調配布セル工場
- 九、身體検査ヲナセル工場
- 一〇、樹木ヲ増植セル工場
- 一一、職工代表者神社參拜
- 一二、毎晝食時安全歌合唱
- 一三、運動器具ノ新設

一 一 一 二 四 一

|      |    |          |
|------|----|----------|
| 傷病者數 | 一〇 | (内三名ハ鑛山) |
| 一、負傷 | 一〇 |          |
| 二、疾病 | 六四 | (内六名ハ鑛山) |

- 備考
- 特ニ見ル可キ施設
- 一、炊事場及火鉢ノ電化
  - 二、代表者ノ神社參拜
  - 三、食事ノ際安全歌合唱

## 第三章 安全組織及安全設備

災害豫防ニ關スル施設ハ大別シテ之ヲ人的組織ト物的設備トニ分チテ考察スルコトヲ得ベシ、安全係員、安全委員會等ヲ設置シテ安全検査及設備改善ニ一定ノ組織ヲ與ヘ、注意書、「ポスター」、「パンフレット」ヲ頒布シテ安全宣傳及安全教育ヲ爲スハ前者ニシテ、機械ノ柵圍、建物ノ改造等ハ後者ナリトス。説明ノ便宜上工場鑛山ニ分ツベシ。鐵道ニ付テハ別ノ調査ニ讓リ茲ニ述ベズ。

### 第一節 工場

#### (1) 安全組織

(1) 安全運動トシテ先第一ニ必要ナルハ係員ナルガ、相當規模ヲ有シ災害ノ發生スル工場ニ於テハ災害豫防係員ヲ有スルヲ通例トス。蓋シ工場法規ニ基ク災害報告、災害豫防等ノ任務ヲ果ス爲メニモ當該係員ヲ有スルノ要アルノミナラズ、近時安全思想ノ普及、資本家ノ自覺ニ伴フテ斯クノ如キ係員ヲ設置スルノ工場經營上必要ナルヲ理解スルニ至レルガ爲メナリ。固ヨリ其ノ多クハ工務主任(工作主任)勞務主任(人員主任)等ノ兼務トスル所ナルモ近時特ニ安全主任、危害豫防係ナル職名ヲ附シ或ハ選任ヲ置クモノ漸次増加ノ傾向アリ。

(2) 次ニ必要ナルハ安全委員會制度ナルガ曩ニ述ベタル安全運動ノ結果安全委員會ヲ設置スルモノ相次キ衆智ヲ集メテ災害防止ノ施設ヲ講ズルト共ニ、労働者ヨリ安全委員ヲ選任シテ彼等ノ責任心ヲ起シ其ノ自覺ヲ喚起スルニ努メツツアリ。大正十三年末現在民間工場ニ於テ安全委員ノ設置アルモノ五十六工場其ノ組織及事業ノ概要ニ付テハ労働保護資料第十四輯ニ掲ゲタリ。其ノ後更ニ此ノ種組織ノ發達著シキモノアリ。官設工場ニアリテハ、陸軍省、海軍省及鐵道省何レモ委員會ヲ設ケテ安全運動ニ努ム。

(3) 安全係員及安全委員會ノ任務ハ何レモ大同小異ニシテ左ノ如シ。

- (1) 災害ノ研究及統計
- (2) 設備ノ検査
- (3) 右ノ調査研究ニ基ク設備ノ改善
- (4) 安全ポスター及標語ノ揭示
- (5) 作業注意事項ノ揭示災害事例ノ揭示
- (6) 委員會ヲ開催シテ討議諮問協議ヲナスコト
- (7) 安全週間等ノ開催(一般的又ハ當該工場限リノ)
- (8) 作業方法ノ研究及指導

(9) 防火宣傳及消火避難ノ練習

左ニ安全運動ノ一例トシテ住友伸銅所、吳海軍工廠ノ事例ヲ舉グベシ。

住友伸銅所ノ安全運動

大阪市住友伸銅所ニ於テハ大正六年三村起一氏米國ノ安全運動ヲ視察シテ之ヲ同工場ニ實施スルニカメ大正六年安全技師一名大正七年安全係員二名ヲ置キ災害ノ原因及之カ防止方法ヲ詳細ニ研究スルト共ニ災害豫防ニ努力シタリ。大正六年以來實行シタルモノヲ例示スレバ左ノ如シ。

- 一、注意スベキ箇所、ニ注意板及危険板ノ配備
- 二、安全揭示板ノ配備
- 三、「曲角除行」ノ注意板配備
- 四、「火ノ用心」「高壓電柱ノ危険板」作業上ノ注意事項ヲ要録セル注意板ノ配備
- 五、水壓伸管機中央足場ニ鐵製縁取付ニヨル墜落防止
- 六、「ラック」ニ鎖ヲ附着セシム
- 七、工場屋上廻轉窓上部ニ「マーク」ヲ附シ該部ニ柵ヲ設ケ針金ヲ以テ圍フ
- 八、各工場運搬車ヲ修理ス
- 九、金剛砂砥研磨工ニ眼鏡ノ強制

十、安全デー及安全週間

- 十一、調帶安全裝置
  - 十二、汽鐘室ノ廻轉窓其他換氣窓ノ増設
  - 十三、水管位地變更
  - 十四、乾燥室附近鐵棒修理
  - 十五、齒輪車輛等ニ覆蓋ヲ爲ス
  - 十六、旋盤機側金網ヲ設置ス
  - 十七、鋸機附近白布吊下
- 尙職長組長ノ保安會ナルモノヲ組織シ、負傷シ又ハ負傷セシメタルモノニ對シテハ安全方法ヲ教示シ斯クテ災害豫防ニ從事シタル結果左表ノ如ク連年災害減少シ、大正十五年ノ負傷率ヲ安全運動開始ノ年タル大正六年ニ比較スルトキハ在籍延人員ニ對スル公傷率ニ於テ二八%トナリ、實ニ七二%ノ激減ナリ。

住友伸銅所公傷者累年比較

| 年 度     | 公 傷 者   | 療養延日數  | 在籍延人員ニ對スル公傷者 | 大正十五年度ヲ標準トシテ換算シタル費用 | 平均在籍人員ニ對スル一人當リ | 平均在籍人員ニ對スル休業患者 | 實際ノ費用       |
|---------|---------|--------|--------------|---------------------|----------------|----------------|-------------|
| 大 正 六 年 | 10,451人 | 7,654日 | 1.01%        | 4,000.00円           | 131.56円        | 14.09%         | 114,000.14円 |



| 年 度     | 公 傷 者 | 療養延日數 | 在籍人員ニ對スル公傷者 | 大正十年五年度標準トシテ換算シタル費用 | 平均在籍人員ニ對スル一人當リ | 平均在籍人員ニ對スル休業患者 | 實際ノ費用   |
|---------|-------|-------|-------------|---------------------|----------------|----------------|---------|
| 大 正 七 年 | 九、〇二八 | 七、四〇〇 | ・七六         | 九〇、七六・七             | 二五・四〇          | 一八・二六          | 三、一八・七四 |
| 同 八 年   | 七、七三三 | 四、〇〇二 | ・六九         | 五九、四七・一六            | 一七・〇九          | 一三・八八          | 二、八〇・七二 |
| 同 九 年   | 五、三三五 | 三、三三九 | ・四七         | 五九、五九・一五            | 一五・七二          | 九・八六           | 七、四四・七〇 |
| 同 十 年   | 四、九一九 | 三、九七五 | ・四二         | 五〇、二四・五六            | 一五・〇四          | 一〇・三三          | 四、五〇・七五 |
| 同 十 一 年 | 二、六〇〇 | 二、六四九 | ・三五         | 四七、六三・〇五            | 一〇・二二          | 八・三三           | 三、七六・四一 |
| 同 十 二 年 | 一、八七三 | 一、〇七〇 | ・三三         | 二六、六八・三三            | 一四・七五          | 八・四七           | 二、五八・三三 |
| 同 十 三 年 | 一、五八一 | 一、四二二 | ・二九         | 一七、五三・九〇            | 一〇・四七          | 六・九四           | 一、五〇・四六 |
| 同 十 四 年 | 一、五六一 | 一、三六四 | ・三三         | 一八、三九・六七            | 一一・四五          | 七・七九           | 一、四四・七三 |
| 同 十 五 年 | 一、三三三 | 一、二九〇 | ・二八         | 一六、五八・三二            | 一〇・六二          | 六・七三           | 一、六八・三二 |

吳海軍工廠ニ於ケル第四回安全週間 (昭和二年)

同廠ヨリノ報告ニ依レバ安全週間實施ノ方法及成績左ノ如シ。

- 一、安全期間實施ノ概要
  - (一) 目的 従業員ヲシテ傷害防止ノ自衛的觀念ヲ確立セシムルト共ニ連續的將來ニ向ツテ之ヲ強ク意識セシメ工場福祉ノ増進ヲ計ルニアリ。
  - (二) 期間 自十月一日 三十一日 至同 卅日
  - (三) 傷害程度區分
    - (イ) 重 傷
    - (ロ) 中 等 傷
    - (ハ) 輕 傷

不具廢疾ト爲リ又ハ入院ヲ要スル程度以上ノ傷害、(入院ヲ要スル程度ノ傷害ニアラザルモ本人ノ特種ノ事情ニ依リ入院スル場合ハ之ヲ含マズ)

(ロ) 中等傷 三日以上ノ休業ヲ要スルモ重傷ニ該ラサル傷害

(ハ) 輕傷 重傷中等傷ニ該ラサル傷害

(四) 安全検査 醫務部長ハ傷害程度區分ヲ決定シ各部ノ實施ニ對シ成ルベク便宜ヲ與フコトトセリ

(五) 部長ハ事前及本期間ヲ通シ工場毎ニ洩レナク安全検査ヲ爲サシメ要スレバ適當ノ安全施設ヲ行ヘ

(イ) 安全期間中部下ニ對シ特ニ注意スベキ(シタル)事項

(ロ) 今回(將來)ノ安全期間ニ對シ特ニ實施ヲ希望スル事項

(六) 部長ハ期間終了後二十日以内ニ(一)ノ報告ト共ニ左表並所見ヲ提出セリ

- (イ) 本期間ノ公傷率ト前三ケ年毎十月ニ於ケル公傷率平均トノ比較表
- (ロ) (四)ニ依ル安全検査及安全施設諸表
- (ロ) 宣傳

第四回ニ於テハ實施ニ先テ給料明細書ニ次圖「スタンプ」(略)ヲ押捺スルト共ニ職工入退場門附近ニ毎日安全標語ヲ揭示セリ

(ハ) 安全マーク裝置

第三回、第四回兩回トモ従業員全部安全「マーク」ヲ装着セシメタリ。

(ニ) 傷害調査及防止委員ノ巡察

第四回初期ニ於テ傷害調査及防止委員會ハ特ニ廠内各部ヲ巡視察シ各部獨特ノ安全方法ヲ比較研究スルト共ニ各委員ハ其ノ長所ヲ所屬部ニ扶植スルコトニ努メタリ。

(ホ) 安全検査及人物安全検査

安全検査及人的検査ニ對シ特ニ注意ヲ拂ヘリ

二、成績

各部實施ノ狀況ヲ蒐録スルハ大部ニ亘ルヲ以テ造機部ノミニ付其ノ成績ヲ見ルニ添付別表ノ如シ、前年第一回實施後ハ公傷率頓ニ低下シタルヲ以テ第三回、第四回ニ於テハ前年同期ニ對スル公傷率

ノ比ハ相當高キカ如キモ之ヲ前々年同期ニ比スルトキハ×印ノ如ク著シク低下シ居ルコトヲ知リ得。

三、所見

大正十五年以來月別公傷率ノ推移ハ次表ノ通ニシテ本實施ノ效果ノ顯著ナルコトヲ如實ニ示シ居レドモ斯ノ如キハ當廠本來ノ目的ニアラズ要ハ一年ヲ通シ常ニ安全期間ニ在ルガ如キ状態ニ馴致スルコトヲ以テ目標トスヘキモノニシテ本實施モ既ニ回ヲ重ヌルコト。四、安全教育ノ初歩タル安全第一ノ趣旨ハ一般ニ徹底シタルモノト認ムルヲ以テ今後ハ更ニ竿頭一步ヲ進メ從來ノ宣傳の感情的手段ヲ蟬脱シ爾今内面的安全教育即チ理性ニ依ル方法ヲ以テ質實的確ニ所期ノ成果ヲ獲得スルニ努メントス。

大正十五年以來月別公傷者數 (吳海軍工廠造機部)

| 大正十五年 | 出業延人員   | 公傷者數 | 十萬分率 |
|-------|---------|------|------|
| 一 月   | 四四二、九八二 | 四三六  | 九八   |
| 二 月   | 四六二、四一九 | 五〇二  | 一〇九  |
| 三 月   | 五三九、七五九 | 五七〇  | 一〇六  |
| 四 月   | 四七一、五二七 | 五六四  | 一〇八  |
| 五 月   | 五〇七、四九八 | 五二〇  | 一〇二  |

| 昭和二年   | 十一月     | 十二月     | 一月      | 二月      | 三月      | 四月      | 五月      | 六月      | 七月      | 八月      | 九月      | 十月      | 十一月     | 十二月     |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 五二、〇七〇 | 四九一、〇四四 | 四九六、八七二 | 四七七、八四二 | 五〇四、七八五 | 四九三、一九二 | 四四三、九一六 | 四二九、七六九 | 五二一、〇八〇 | 四六九、三九〇 | 五〇三、五四六 | 五一五、一九三 | 五一四、一七一 | 五一四、五四五 | 四八六、六八二 |
| 五六四    | 四九五     | 八八二     | 四七二     | 四四一     | 四三〇     | 三九三     | 四二〇     | 五一〇     | 二七五     | 四三六     | 四〇七     | 四〇三     | 五〇三     | 四八一     |
| 一〇九    | 九六      | 七八      | 九五      | 九二      | 八五      | 一〇二     | 九九      | 九八      | 九八      | 七八      | 七七      | 七九      | 八八      | 八五      |
| 五八     |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |

安全週間中ノ災害ト前年同期トノ比較 (同上)

|               |         |
|---------------|---------|
| 第三回安全週間中出業延人員 | 五二四、一七一 |
| 公傷者數          | 四〇三     |
| 十萬分率          | 七六      |

|               |         |
|---------------|---------|
| 前年同期ノ出業延人員    | 五一四、四二七 |
| 公傷者數          | 四九五     |
| 十萬分率          | 九六      |
| 第四回安全週間中出業延人員 | 四八九、三五七 |
| 公傷者數          | 二八二     |
| 十萬分率          | 五八      |
| 前年同期ノ出業延人員    | 四七七、八四三 |
| 公傷者數          | 四四一     |
| 十萬分率          | 九二      |

(ロ) 安全設備

我國工場ニ於ケル安全設備ハ官憲ノ監督及獎勵ト一般文運ノ進歩ト、各所ニ於テ行ハレタル安全運動ノ刺激ヲ受ケテ漸次進歩シツツアリ。固ヨリ工場設備ノ安全裝置ノ如キハ多岐多様ニシテ之ヲ數字の若ハ各個ニ付具體的ニ示スコト至難ナリト雖モ、大正九年一月六五五ノ工場ニ付キ原動機及一般機械ニ付テ安全裝置ノ狀況ヲ調査シタルモノアリ。極メテ一少部分ノ調査ニ過キス、且必シモ正確ト云フコト能ハザルモ左ニ其ノ統計ヲ示シテ參考トスベシ。安全設備ノ進歩ハ寧ロ本統計作成以後ニ多キヲ以テ現時ニ於ケル實狀ハ本統計ヨリハ遙ニ良好ナリト見ルヲ得ベシ。

第一表 原動機種類別据付場所及位置

| 原動機種類  | 臺數    | 据付場所             |               | 据付位置         |                         |                         |         |         |        |        |
|--------|-------|------------------|---------------|--------------|-------------------------|-------------------------|---------|---------|--------|--------|
|        |       | 獨立原動機室<br>内ニアルモノ | 作業室内ニ<br>アルモノ | 床面上ニア<br>ルモノ | 高所ニアルモノ<br>六尺以上<br>六尺以下 | 四所ニアルモノ<br>六尺以上<br>六尺以下 |         |         |        |        |
| 計      | 三、九六三 | (一、一三九)          | (二、八二四)       | (二、七九五)      | (三、六四)                  | (一、七〇二)                 | (二、二六一) | (一、〇〇〇) | (一、一三) | (二、八二) |
| 蒸汽機關   | 六〇九   | (六三・八九)          | (三六・二二〇)      | (七八・五八)      | (二・〇二)                  | (一・〇〇〇)                 | (一・一三)  | (一・一三)  | (一・一三) | (二・八一) |
| 蒸汽タービン | 三六    | (三〇・六一)          | (六九・四五)       | (二二・二八)      | (五・六一)                  | (七・四六)                  | (一・一三)  | (一・一三)  | (一・一三) | (一・一三) |
| 内燃機    | 九二    | (六七・四)           | (三二・六〇)       | (八九・八二)      | (一・〇〇)                  | (二・〇九)                  | (一・一三)  | (一・一三)  | (一・一三) | (一・一三) |
| 電動機    | 三、一八七 | (二〇・七)           | (七九・三二)       | (六九・四)       | (一・三五〇)                 | (二・六九五)                 | (二・〇)   | (二・〇)   | (二・〇)  | (二・〇)  |
| 水車     | 三九    | (四六・二)           | (五三・八)        | (三・八・五)      | (一・〇〇)                  | (一・〇〇)                  | (一・〇〇)  | (一・〇〇)  | (一・〇〇) | (一・〇〇) |

第二表 原動機種類別原動機全體ニ對スル安全装置

| 原動機種類  | 臺數    | 原動機全體ニ對スル安全装置 |         |          |        |         |         |          |
|--------|-------|---------------|---------|----------|--------|---------|---------|----------|
|        |       | 木造室           | 木柵      | 木柵鐵柵     | 木柵鐵柵蓋  | 無       |         |          |
| 計      | 三、九六三 | (一、一三九)       | (二、八二四) | (二、七九五)  | (三、六四) | (一、七〇二) | (一、〇〇)  | (二、八二)   |
| 蒸汽機關   | 六〇九   | (二六・一五七)      | (二四・八七) | (六・四〇)   | (二・六六) | (一・一三)  | (一・一三)  | (二・八一)   |
| 蒸汽タービン | 三六    | (一)           | (二五・〇九) | (一)      | (一)    | (一)     | (一)     | (二・八一)   |
| 内燃機    | 九二    | (三八・三五)       | (五・四五)  | (五・四五)   | (三・三)  | (一・一)   | (一・一)   | (四・六・七)  |
| 電動機    | 三、一八七 | (二七・五五〇)      | (五・一六二) | (一・六・三八) | (一・四三) | (四・五)   | (二・八〇)  | (一・六・九〇) |
| 水車     | 三九    | (二二・八)        | (七・七三)  | (五・一)    | (一・六二) | (五・二)   | (一・〇・三) | (五・九・〇)  |

第三表 原動機種類別危険ナル運動部ニ對スル安全装置

| 原動機種類  | 臺數    | 危険ナル運動部ニ對スル安全装置 |         |          |        |          |         |          |          |           |          |          |
|--------|-------|-----------------|---------|----------|--------|----------|---------|----------|----------|-----------|----------|----------|
|        |       | 調帶調車            |         | 勢        |        | 輪        |         | 往復部      |          | カム、ギヤ、ガバナ |          | 無        |
| 計      | 三、九六三 | (二八・四八)         | (二六・六)  | (二・四・三)  | (二・六二) | (三・一・四八) | (二・四四)  | (二・四四)   | (二・四四)   | (二・四四)    | (二・四四)   | (二・四四)   |
| 蒸汽機關   | 六〇九   | (二六・一五七)        | (二四・八七) | (六・四〇)   | (二・六六) | (一・一三)   | (一・一三)  | (一・一三)   | (一・一三)   | (一・一三)    | (一・一三)   | (一・一三)   |
| 蒸汽タービン | 三六    | (一)             | (二五・〇九) | (一)      | (一)    | (一)      | (一)     | (一)      | (一)      | (一)       | (一)      | (一)      |
| 内燃機    | 九二    | (三八・三五)         | (五・四五)  | (五・四五)   | (三・三)  | (一・一)    | (一・一)   | (一・一)    | (一・一)    | (一・一)     | (一・一)    | (一・一)    |
| 電動機    | 三、一八七 | (二七・五五〇)        | (五・一六二) | (一・六・三八) | (一・四三) | (四・五)    | (二・八〇)  | (一・六・九〇) | (一・六・九〇) | (一・六・九〇)  | (一・六・九〇) | (一・六・九〇) |
| 水車     | 三九    | (二二・八)          | (七・七三)  | (五・一)    | (一・六二) | (五・二)    | (一・〇・三) | (五・九・〇)  | (五・九・〇)  | (五・九・〇)   | (五・九・〇)  | (五・九・〇)  |

| 種類  | 臺數   | 原動機  |                 |
|-----|------|------|-----------------|
|     |      | 有    | 危險ナル運動部ニ對スル安全装置 |
| 内燃機 | 三    | 三    | 三               |
| 電動機 | 三、一七 | 三、一七 | 三、一七            |
| 水車  | 元    | 元    | 元               |
| 計   | 三、九三 | 三、九三 | 三、九三            |
| 種類  | 木材   | 木材   | 木材              |
| 種類  | 鐵材   | 鐵材   | 鐵材              |
| 種類  | 其他   | 其他   | 其他              |
| 種類  | 無    | 無    | 無               |

第四表 大分類業種別原動機室ト作業室トノ連絡方法ヲ有スル工場數

註「カム・ギヤー・ガバナ―其他」中ニハ電動機「スキッチ」及「コンミューター」ヲ含ムモノトス

| 業種別    | 調査工場數 | 起動ノ際連絡方法ヲ有スル工場數 |      | 應急停止ノ際連絡方法ヲ有スル工場數 |      |
|--------|-------|-----------------|------|-------------------|------|
|        |       | 實數              | 百分率  | 實數                | 百分率  |
| 染織工場   | 二五三   | 一四二             | 五六・一 | 一〇九               | 四三・一 |
| 機械器具工場 | 一五二   | 五四              | 三五・五 | 四五                | 三六・二 |
| 化學工場   | 一三二   | 四七              | 三五・六 | 四九                | 三七・一 |
| 飲食物工場  | 二四    | 八               | 三三・三 | 八                 | 三三・三 |
| 計      | 六五五   | 三〇一             | 四六・〇 | 二六五               | 四〇・五 |

第五表 大分類業種別原動機起動ノ際作業室トノ連絡方法ノ種類

| 業種別    | 方法別 |    |    |    |     |    |    |    |    |     | 計  |      |
|--------|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|------|
|        | 信號器 | 電鈴 | 電話 | 電燈 | 信號網 | 振鈴 | 打鐘 | 汽笛 | 呼笛 | 拍子木 |    | 口頭合圖 |
| 染織工場   | 二   | 二  | 四  | 三  | 一   | 三  | 二  | 四  | 五  | 三   | 一  | 一    |
| 機械器具工場 | 七   | 七  | 七  | 一  | 一   | 二  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一    |
| 化學工場   | 一   | 七  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一    |
| 飲食物工場  | 一   | 二  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一    |
| 雜工場    | 一   | 三  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一    |
| 特別工場   | 一   | 二  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一  | 一    |
| 計      | 一〇  | 二〇 | 一八 | 一〇 | 一   | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇  | 一〇 | 一〇   |

| 業種別  | 調査工場數 | 起動ノ際連絡方法ヲ有スル工場數 |      | 應急停止ノ際連絡方法ヲ有スル工場數 |      |
|------|-------|-----------------|------|-------------------|------|
|      |       | 實數              | 百分率  | 實數                | 百分率  |
| 雜工場  | 七     | 三               | 四二・九 | 三                 | 四二・九 |
| 特別工場 | 二     | 一               | 五〇・七 | 一                 | 五〇・七 |
| 計    | 六五五   | 三〇一             | 四六・〇 | 二六五               | 四〇・五 |

第六表 大分類業種別原動機應急停止ノ際作業室トノ連絡方法ノ種類

| 業種別    | 方法別     |         |         |        |         |         |        |    |         |        |        |         |            |
|--------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|--------|----|---------|--------|--------|---------|------------|
|        | 信號器     | 電鈴      | 電話      | 電燈     | 引網      | 振鈴      | 打鐘     | 汽笛 | 呼笛      | 拍子木    | 口頭     | 其他      | 計          |
| 染織工場   | (10.1)二 | (5.6)一七 | (5.6)一六 | (0.9)一 | (3.7)四  | (10.1)三 | (1.1)二 |    | (4.6)五  | (0.9)一 | (3.0)二 | (4.7)一六 | 10元        |
| 機械器具工場 |         | (9.1)一五 | (1.0)一  | (3.6)二 | (3.6)二  | (3.7)七  | (5.5)三 |    | (5.5)三  | (1.1)一 | (5.6)三 | (3.0)二  | 100.00     |
| 化學工場   | (1.0)一  | (4.3)七  | (4.1)二  | (4.1)二 | (4.1)二  | (10.1)五 | (3.0)一 |    | (3.1)六  |        | (4.7)三 | (4.7)三  | 100.00     |
| 飲食物工場  |         | (5.0)二  |         |        |         | (5.0)二  | (3.0)一 |    | (10.0)三 |        | (5.0)四 | (4.0)四  | 100.00     |
| 雜工場    |         | (6.7)二  |         | (3.3)一 | (10.0)三 | (4.3)三  | (3.0)一 |    | (10.0)三 |        | (3.4)七 | (3.4)七  | 100.00     |
| 特別工場   |         | (2.6)四  | (7.1)一  | (7.1)一 | (7.1)一  | (4.4)二  | (7.1)一 |    |         |        | (2.6)四 | (2.6)四  | 100.00     |
| 計      | (4.5)二  | (14.0)七 | (3.0)一  | (3.7)七 | (4.5)二  | (9.5)二  | (3.0)八 |    | (6.4)七  | (0.1)二 | (3.1)九 | (6.0)一六 | (100.00)二六 |

第七表 調査機械臺數(大分類業種別安全装置及停止起動装置有無別)

| 業種別     | 安全装置   |        |        |        |        |        | 停止起動装置 |         |  | 合計 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--|----|
|         | 完全     | 不完全    | 無      | 不明     | 有      | 無      | 不明     | 合計      |  |    |
| 染織工場    | 9,310  | 10,499 | 11,486 | 6,614  | 3,776  | 877    | 10,513 | 37,889  |  |    |
| 機械及器具工場 | 2,310  | 10,499 | 11,486 | 6,614  | 3,776  | 877    | 10,513 | 100,000 |  |    |
| 化學工場    | 3,625  | 1,151  | 2,798  | 3,960  | 9,983  | 2,007  | 1,911  | 100,000 |  |    |
| 飲食物工場   | 1,430  | 301    | 1,355  | 2,922  | 2,898  | 763    | 3,333  | 100,000 |  |    |
| 雜工場     | 3,555  | 7,554  | 3,855  | 3,026  | 7,366  | 1,210  | 8,334  | 100,000 |  |    |
| 特別工場    | 1,730  | 1,111  | 1,100  | 1,111  | 2,376  | 2,709  | 6,213  | 100,000 |  |    |
| 計       | 14,960 | 13,391 | 17,331 | 11,971 | 24,770 | 12,428 | 17,101 | 57,771  |  |    |

註、本表中「完全」トアルハ機械ノ各危険部ニ安全装置ヲ施セルモノ、「不完全」トアルハ一部ノ危険部ニ安全装置ヲ施セルモノ他ノ危険部ヲ露出セルモノ、「無」トアルハ安全装置全ク無クシテ危険部ヲ露出セルモノ、「不明」トアルハ安全装置有無不明ナルモノヲ示ス。  
(一欄中左方ノ數ハ百分率ナリ)

第八表 安全装置有無及完、不完別大分類業種別調査工場數

| 安全装置 | 業種別   |         |        |       |        |       |        | 計 |
|------|-------|---------|--------|-------|--------|-------|--------|---|
|      | 染織工場  | 機械及器具工場 | 化學工場   | 飲食物工場 | 雜工場    | 特別工場  | 計      |   |
| 完全   | 3,354 | 4,066   | 6,181  | 2,085 | 10,141 | 4,311 | 32,135 |   |
| 不完全  | 2,211 | 4,999   | 6,213  | 3,759 | 6,446  | 3,488 | 24,116 |   |
| 計    | 5,565 | 9,065   | 12,394 | 5,844 | 16,587 | 7,799 | 56,251 |   |

| 計     | 不明   | 無    | 安全装置 | 染織工場 | 機械及器具工場 | 化學工場 | 飲食物工場 | 雜工場 | 特別工場 | 計 |
|-------|------|------|------|------|---------|------|-------|-----|------|---|
| 100.0 | 10.3 | 24.3 |      |      |         |      |       |     |      |   |
| 15.5  | 11.5 | 18.4 |      |      |         |      |       |     |      |   |
| 1.3   | 15.1 | 16.7 |      |      |         |      |       |     |      |   |
| 1.4   | 16.7 | 25.0 |      |      |         |      |       |     |      |   |
| 7.1   | 5.6  | 15.5 |      |      |         |      |       |     |      |   |
| 1.3   | 26.2 | 34.8 |      |      |         |      |       |     |      |   |
| 100.0 | 11.2 | 23.7 |      |      |         |      |       |     |      |   |

(一欄中左方ノ數ハ百分率ナリ)

### 第二節 鑛 山

鑛山ニ於ケル災害豫防ニ付テハ鑛業警察規則及石炭坑爆發取締規則アリ、商工省鑛山局及各鑛山監督局ニ鑛務技師タル鑛務監督官アリテ是カ施行ニ努ム。其ノ内容ヲ概説スレバ一般鑛山ニ於テハ技術的事項ニ關スル責任者タル技術管理者及其ノ下ニ保安係員、機械係員、安全燈係員、發破係員アリ、何レモ一定ノ資格ヲ必要トシ、總テノ鑛山ニ強制セラルルモノニ非ルモ鑛山監督局長ニ於テ選任ヲ命ズルコトヲ得。尙操業方法ニモ災害豫防ノ爲メ必要ナル各般ノ規定アリ。瓦斯又ハ炭塵ノ存在スル石炭坑ニシテ商工大臣ノ指定シタルモノニ付テハ石炭坑爆發取締規則ノ適用アリテ嚴格ナル取締ヲ受ク。右ノ外ニ鑛山ノ採掘ハ總テ施業案ニ依ルベク施業案ハ豫メ鑛山監督局長ニ届出ヅルヲ要シ監督局長ハ

之ニ對シ修正ヲ命ズルヲ得ルモノニシテ、施業案ノ監督ハ鑛利ノ保存ノ外一般社會及鑛業從業者ノ災害ヲ防止スルヲ目的トスルモノナリトス。

以上法規ニ依ル施設ノ外、鑛業主ノ自發的行爲ニ基クモノ亦頗ル多シ。殊ニ鑛夫ノ訓育及注意力喚起ノ災害豫防上必要ナルコト認メラレ、ポスター、標語、注意書ノ揭示其ノ他懸賞募集、鑛夫代表ヲ加ヘタル安全委員會、活動寫眞、幻燈、講演、安全週間等ノ施設漸ク多シ。

附  
錄

第一 災害及扶助統計







| 負     |        | シ 癒 治  |        | サ 殘 ナ 害 障 |          | 給 支 ノ 料 助 扶 業 休 |          | 療養ノミヲ受ケ休業セザリシ者 | 業 務 別  |
|-------|--------|--------|--------|-----------|----------|-----------------|----------|----------------|--------|
| 一年迄ノ者 | 六箇月迄ノ者 | 三箇月迄ノ者 | 四週日迄ノ者 | 休業二週日迄ノ者  | 休業二週日迄ノ者 | 休業二週日迄ノ者        | 休業二週日迄ノ者 |                |        |
| 二〇〇   | 一七〇    | 三九     | 八元     | 五九        | 一、〇三     | 三、七六            | 五、三五     | 七、〇七           | 九、〇〇   |
| 一七五   | 一四九    | 二四     | 一、八七   | 三         | 二、八三     | 二、四三            | 一、八、四七   | 七、七            | 一三、七四  |
| 一三    | 一三     | 三      | 八、三六   | 五         | 一、五八     | 二、二             | 五、三三     | 六、八            | 一三、七元  |
| 一六    | 一九     | 六      | 一、四三   | 一六        | 一、七      | 二、四             | 一、三〇     | 四、〇            | 二、八七   |
| 一     | 二〇     | 八      | 二、六三   | 二六        | 三、五      | 八               | 一、四八     | 一、三            | 一、八五   |
| 一     | 三      | 七      | 一、〇五   | 八         | 一、〇六     | 一、八             | 七、九      | 四              | 一、六四   |
| 三     | 五〇     | 四、七    | 四、七〇   | 七〇        | 五、七三     | 四、三〇            | 三、三三     | 九、一〇           | 一、五、五元 |
| 一     | 一五〇    | 三      | 七、八    | 四         | 一、三三     | 三               | 八、九八     | 二、一七           | 三、二八   |
| 三     | 六〇     | 四、七    | 四、八三   | 七三        | 七、〇七     | 四、七三            | 四、〇三     | 二、二七           | 一、九、六元 |
| 三     | 六〇     | 四、七    | 四、八三   | 七三        | 七、〇七     | 四、七三            | 四、〇三     | 二、二七           | 一、九、六元 |

二、工場扶助統計 (大正十五年) 適用工場全部ニ付テノ調査ナリ  
(イ) 扶助件数調

| 業 務 別     | 男   | 女   | 計   |
|-----------|-----|-----|-----|
| 染織機械及器具工場 | ... | ... | ... |
| 化学工場      | ... | ... | ... |
| 飲食物工場     | ... | ... | ... |
| 雑工場特別工場小  | ... | ... | ... |
| 計官設工場     | ... | ... | ... |
| 合計        | ... | ... | ... |

| 治      |          |                | 合 | 未治ノ爲翌年へ繰越ノ者 | 者シリザセ癒治 |    |     | 小計 |              |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|--------|----------|----------------|---|-------------|---------|----|-----|----|--------------|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 害障     |          |                |   |             | 計       | 小計 | 死亡者 |    | 打切扶助料ヲ受ケタルモノ |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 業休     |          | 療養ノミヲ受ケ休業セザリシ者 |   |             |         |    |     |    |              |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 四週日迄ノ者 | 休業二週日迄ノ者 |                |   |             |         |    |     |    |              |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 女      | 男        | 女              | 男 | 女           | 男       | 女  | 男   |    |              |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 四      | 一        | 三              | 九 | 一           | 二       | 一  | 二   | 三  | 四            | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 一〇 | 一一 | 一二 | 一三 | 一四 | 一五 | 一六 | 一七 | 一八 | 一九 | 二〇 | 二一 | 二二 | 二三 | 二四 | 二五 | 二六 | 二七 | 二八 | 二九 | 三〇 | 三一 | 三二 | 三三 | 三四 | 三五 | 三六 | 三七 | 三八 | 三九 | 四〇 | 四一 | 四二 | 四三 | 四四 | 四五 | 四六 | 四七 | 四八 | 四九 | 五〇 | 五一 | 五二 | 五三 | 五四 | 五五 | 五六 | 五七 | 五八 | 五九 | 六〇 | 六一 | 六二 | 六三 | 六四 | 六五 | 六六 | 六七 | 六八 | 六九 | 七〇 | 七一 | 七二 | 七三 | 七四 | 七五 | 七六 | 七七 | 七八 | 七九 | 八〇 | 八一 | 八二 | 八三 | 八四 | 八五 | 八六 | 八七 | 八八 | 八九 | 九〇 | 九一 | 九二 | 九三 | 九四 | 九五 | 九六 | 九七 | 九八 | 九九 | 一〇〇 |

| 傷        |   |            |   |              |   |              |   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|----------|---|------------|---|--------------|---|--------------|---|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 者ルタ      |   |            |   |              |   |              |   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 者ルタシ殘ヲ害障 |   |            |   |              |   |              |   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 者シリザ     |   |            |   |              |   |              |   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 者ルタケ受ヲ   |   |            |   |              |   |              |   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 小計       |   | 休業三年ヲ超エタル者 |   | 休業二年ヲ超エ三年迄ノ者 |   | 休業一年ヲ超エ二年迄ノ者 |   | 小計 |    | 男  |    | 女  |    | 業務別 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 女        | 男 | 女          | 男 | 女            | 男 | 女            | 男 | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  | 男  |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
| 一        | 二 | 三          | 四 | 五            | 六 | 七            | 八 | 九  | 一〇 | 一一 | 一二 | 一三 | 一四 | 一五  | 一六 | 一七 | 一八 | 一九 | 二〇 | 二一 | 二二 | 二三 | 二四 | 二五 | 二六 | 二七 | 二八 | 二九 | 三〇 | 三一 | 三二 | 三三 | 三四 | 三五 | 三六 | 三七 | 三八 | 三九 | 四〇 | 四一 | 四二 | 四三 | 四四 | 四五 | 四六 | 四七 | 四八 | 四九 | 五〇 | 五一 | 五二 | 五三 | 五四 | 五五 | 五六 | 五七 | 五八 | 五九 | 六〇 | 六一 | 六二 | 六三 | 六四 | 六五 | 六六 | 六七 | 六八 | 六九 | 七〇 | 七一 | 七二 | 七三 | 七四 | 七五 | 七六 | 七七 | 七八 | 七九 | 八〇 | 八一 | 八二 | 八三 | 八四 | 八五 | 八六 | 八七 | 八八 | 八九 | 九〇 | 九一 | 九二 | 九三 | 九四 | 九五 | 九六 | 九七 | 九八 | 九九 | 一〇〇 |

| 合 計   |       | 病           |    |              |    |       |         |         |                  |                     |         |         |                 |                  |
|-------|-------|-------------|----|--------------|----|-------|---------|---------|------------------|---------------------|---------|---------|-----------------|------------------|
|       |       | 未治ノ爲翌年へ繰越ノ者 |    |              |    |       | 者シリザセ癒治 |         |                  |                     |         |         |                 |                  |
|       |       | 小 計         |    | 打切扶助料ヲ受ケタルモノ |    | 死 亡 者 |         | 者ルタシ殘ヲ害 |                  |                     |         |         |                 |                  |
|       |       | 女           | 男  | 女            | 男  | 女     | 男       | 小 計     | キ從來ノ勞務ニシテコトヲ得ルモノ | 身體ヲ傷害シ難引續スルコトハハズルモノ | モ復シタルモノ | ト能ハサルモノ | 從來ノ勞務ニシテ健康ヲ失フモノ | 終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ |
| 1,131 | 1,315 | 25          | 21 | 9            | 4  | 1     | 8       | 4       | 8                | 1                   |         |         |                 |                  |
| 71    | 53    |             | 7  |              |    |       |         |         | 3                | 1                   | 2       |         |                 |                  |
| 151   | 150   | 1           | 5  |              | 5  | 2     | 3       | 2       |                  |                     | 2       |         |                 |                  |
| 5     | 16    |             | 1  |              |    | 1     |         |         |                  |                     |         |         |                 |                  |
| 4     | 7     | 1           | 4  |              |    |       |         |         |                  |                     |         |         |                 |                  |
| 2     | 4     | 1           | 1  |              | 2  |       |         |         |                  |                     |         |         |                 |                  |
| 1,565 | 1,441 | 28          | 29 | 9            | 22 | 1     | 2       | 8       | 10               | 2                   | 4       |         |                 |                  |
| 1,441 | 1,441 | 9           | 27 | 7            | 21 | 1     | 1       | 6       | 11               | 3                   | 2       | 3       |                 |                  |
| 1,441 | 1,441 | 7           | 26 | 2            | 24 | 3     | 2       | 3       | 2                | 3                   | 3       | 3       |                 |                  |

| 障 能ハザルモノノ |            | 疾                |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  | 業 務 別<br>男 女 別 |       |     |
|-----------|------------|------------------|------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|----------------|-------|-----|
|           |            | 者ルタシ癒            |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       |     |
|           |            | 者シリザサ殘ヲ          |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       |     |
|           |            | 者ルタケ受ヲ給支ノ料助扶     |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       |     |
| 小 計       | 休業三年ヲ超エタル者 | 休業二年ヲ超エ三<br>年迄ノ者 | 休業一年ヲ超エ二<br>年迄ノ者 | 休業六箇月ヲ超エ<br>一年迄ノ者 | 休業三箇月ヲ超エ<br>六箇月迄ノ者 | 休業四週日ヲ超エ<br>三箇月迄ノ者 | 休業三箇月ヲ超エ<br>六箇月迄ノ者 | 休業六箇月ヲ超エ<br>一年迄ノ者 | 休業一年ヲ超エ二<br>年迄ノ者 | 休業二年ヲ超エ三<br>年迄ノ者 | 休業三年ヲ超エ四<br>年迄ノ者 | 障 能ハザルモノノ      |       |     |
| 女         | 男          | 女                | 男                | 女                 | 男                  | 女                  | 男                  | 女                 | 男                | 女                | 男                | 女              | 男     |     |
| 4,305     | 2,677      |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  | 4,305          | 2,677 | 工 染 |
| 7         |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  | 7              |       | 場 織 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 具 機 |
|           | 26         |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 工 械 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 場 及 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 器   |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 化 學 |
|           | 39         | 196              |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 工 場 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 工 飲 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 食 物 |
|           | 4          | 85               |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 場   |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 雜   |
|           | 3          | 16               |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 工 場 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 特 別 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 工 場 |
|           | 10         | 19               |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 小   |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 計   |
|           | 4,305      | 2,677            |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 官 設 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 工 場 |
|           |            |                  |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 合   |
|           | 4,305      | 2,677            |                  |                   |                    |                    |                    |                   |                  |                  |                  |                |       | 計   |

(口) 扶助金額及休業扶助料支給延日數調

| 扶助別     | 扶助金額      |        |        |        |        |           |        |        |        |        | 延日數       |        |
|---------|-----------|--------|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|--------|--------|-----------|--------|
|         | 負         |        |        |        |        | 傷         |        |        |        |        |           |        |
|         | 計         | 打切扶助料  | 葬祭料    | 遺族扶助料  | 料助扶助料  | 計         | 打切扶助料  | 葬祭料    | 遺族扶助料  | 料助扶助料  |           |        |
| 染織工場    | 一五、五八八    | 一、六六六  | 一、六六六  | 一、六六六  | 一、六六六  | 一五、五八八    | 一、六六六  | 一、六六六  | 一、六六六  | 一、六六六  | 一五、五八八    | 一、六六六  |
| 機械及器具工場 | 六〇、三五六    | 九、四四四  | 九、四四四  | 九、四四四  | 九、四四四  | 六〇、三五六    | 九、四四四  | 九、四四四  | 九、四四四  | 九、四四四  | 六〇、三五六    | 九、四四四  |
| 化學工場    | 二六、九三三    | 三、五五五  | 三、五五五  | 三、五五五  | 三、五五五  | 二六、九三三    | 三、五五五  | 三、五五五  | 三、五五五  | 三、五五五  | 二六、九三三    | 三、五五五  |
| 飲食物工場   | 七〇、九九九    | 七〇〇    | 七〇〇    | 七〇〇    | 七〇〇    | 七〇、九九九    | 七〇〇    | 七〇〇    | 七〇〇    | 七〇〇    | 七〇、九九九    | 七〇〇    |
| 雜工場     | 六六、六六六    | 二、八八八  | 二、八八八  | 二、八八八  | 二、八八八  | 六六、六六六    | 二、八八八  | 二、八八八  | 二、八八八  | 二、八八八  | 六六、六六六    | 二、八八八  |
| 特別工場    | 四〇、四四四    | 二、二二二  | 二、二二二  | 二、二二二  | 二、二二二  | 四〇、四四四    | 二、二二二  | 二、二二二  | 二、二二二  | 二、二二二  | 四〇、四四四    | 二、二二二  |
| 小計      | 一、一九四、一六九 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一、一九四、一六九 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一、一九四、一六九 | 一八、九六五 |
| 官設工場    | 三三、一〇三    | 三、三三三  | 三、三三三  | 三、三三三  | 三、三三三  | 三三、一〇三    | 三、三三三  | 三、三三三  | 三、三三三  | 三、三三三  | 三三、一〇三    | 三、三三三  |
| 合計      | 一、五七、七二二  | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一、五七、七二二  | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一、五七、七二二  | 一八、九六五 |

| 扶助別 | 扶助金額     |        |        |        |        |          |        |        |        |        | 延日數      |        |
|-----|----------|--------|--------|--------|--------|----------|--------|--------|--------|--------|----------|--------|
|     | 負        |        |        |        |        | 傷        |        |        |        |        |          |        |
|     | 計        | 打切扶助料  | 葬祭料    | 遺族扶助料  | 料助扶助料  | 計        | 打切扶助料  | 葬祭料    | 遺族扶助料  | 料助扶助料  |          |        |
| 計   | 一、五七、七二二 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一、五七、七二二 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一八、九六五 | 一、五七、七二二 | 一八、九六五 |
| 女   | 八八、六五六   | 一、七三三  | 一、七三三  | 一、七三三  | 一、七三三  | 八八、六五六   | 一、七三三  | 一、七三三  | 一、七三三  | 一、七三三  | 八八、六五六   | 一、七三三  |
| 男   | 一〇五、九八〇  | 一、七三三  | 一、七三三  | 一、七三三  | 一、七三三  | 一〇五、九八〇  | 一、七三三  | 一、七三三  | 一、七三三  | 一、七三三  | 一〇五、九八〇  | 一、七三三  |

(八) 年金制扶助調 (官設工場)

| 障<br>害<br>族<br>扶<br>助<br>計 | 負<br>傷                |   |   |  |                            | 扶<br>助<br>別<br>件<br>數<br>金<br>額<br>別                |
|----------------------------|-----------------------|---|---|--|----------------------------|---|
|                            | 遺<br>族<br>扶<br>助<br>計 | 助<br>扶<br>害<br>障                          |   |  |                            |   |
|                            |                       | 醜<br>痕<br>ヲ<br>殘<br>シ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ | 舊<br>ニ<br>復<br>ス<br>ル<br>コ<br>ト<br>ノ<br>外<br>貌<br>ニ | 從<br>來<br>ノ<br>勞<br>務<br>ニ<br>服<br>ス<br>ル<br>コ<br>ト<br>ノ<br>健<br>康 | 能<br>ハ<br>ザ<br>ル<br>モ<br>ノ |   |
| 二七                         | 一四                    | 一七  | 六   | 一〇   | 一                          | 規<br>扶<br>助<br>新<br>前<br>年<br>ヨ<br>扶<br>助<br>繼<br>績 |
| 一〇                         | 四                     | 一〇  | 六   | 六  | 八                          | 計   |
| 二七                         | 五                     | 二七  | 四   | 七  | 九                          | 金<br>額  |
| 三、二七                       | 五八、六〇                 | 三、二七                                      | 五、二〇  | 一四、六八  | 二、四八                       |   |
| 遺<br>族<br>扶<br>助<br>計      | 病<br>疾                |   |   |  |                            | 扶<br>助<br>別<br>件<br>數<br>金<br>額<br>別                |
|                            | 遺<br>族<br>扶<br>助<br>計 | 助<br>扶<br>害<br>障                          |   |  |                            |   |
|                            |                       | 醜<br>痕<br>ヲ<br>殘<br>シ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ | 舊<br>ニ<br>復<br>ス<br>ル<br>コ<br>ト<br>ノ<br>外<br>貌<br>ニ | 從<br>來<br>ノ<br>勞<br>務<br>ニ<br>服<br>ス<br>ル<br>コ<br>ト<br>ノ<br>健<br>康 | 能<br>ハ<br>ザ<br>ル<br>モ<br>ノ |   |
| 三                          | 九                     |   |   |  |                            | 規<br>扶<br>助<br>新<br>前<br>年<br>ヨ<br>扶<br>助<br>繼<br>績 |
| 五                          | 一〇                    |   |   |  |                            | 計   |
| 七六                         | 一九                    |   |   |  |                            | 金<br>額  |
| 六、二四                       | 二、四六                  |   |   |  |                            |   |

(甲表) 工場災害ニ依ル死傷者原因別責任別調査(官設工場ヲ含マズ)(自大正十五年七月二日(至昭和二年六月三十日))

| 原<br>因<br>別  | 責<br>任<br>別  |
|--|--|
| セ<br>キ<br>ト<br>ス<br>ル<br>機<br>械<br>ノ<br>欠<br>陥<br>等<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ | 設<br>備<br>ノ<br>欠<br>陥<br>ニ<br>基<br>ク<br>モ<br>ノ   |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 其<br>ノ<br>他<br>ノ<br>危<br>険<br>防<br>止<br>不<br>備<br>等<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 危<br>険<br>防<br>止<br>不<br>備<br>等<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 機<br>械<br>ノ<br>破<br>損<br>損<br>害<br>等<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 其<br>ノ<br>他  |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 被<br>害<br>勞<br>働<br>者<br>ノ<br>過<br>失   |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 同<br>僚<br>其<br>ノ<br>他<br>者<br>ノ<br>過<br>失  |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 其<br>ノ<br>他  |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 不<br>可<br>抗<br>力   |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 不<br>明   |
| キ<br>タ<br>リ<br>シ<br>キ<br>レ<br>ス<br>ト<br>シ<br>テ<br>出<br>テ<br>タ<br>ル<br>モ<br>ノ                     | 計  |

械機ルス轉運リ依ニ力動及置裝導傳力動

| 機     | ル | ロ      | ヤ     | ト          | フ | ヤ         | シ    | ー              | リ  | ー | ア | ン  | ト | ル | メ |   |   |    |    |                |   |   |
|-------|---|--------|-------|------------|---|-----------|------|----------------|----|---|---|----|---|---|---|---|---|----|----|----------------|---|---|
| 鋸丸    | 其 | 製      | 業織染   | 注油、検査、修繕ノ際 | 其 | ベルト掛ケ外シノ際 | 注油ノ際 | 修繕中ノ掃除、検査、修繕ノ際 | 其  | 不 | 時 | 帶  | 運 | 掛 | ケ | 外 | シ | ノ  | 際  | 修繕中ノ掃除、検査、修繕ノ際 |   |   |
| 材木ノ反撥 | 其 | 仕上カレンダ | チンローラ | ノ          | ノ | ノ         | ノ    | ノ              | ノ  | ノ | ノ | ノ  | ノ | ノ | ノ | ノ | ノ | ノ  | ノ  | ノ              | ノ |   |
| 一     | 四 | 二      | 一     | 一          | 三 | 五         | 一    | 四              | 三  | 五 | 三 | 一  | 三 | 一 | 三 | 元 | 八 | 三  | 一  |                |   |   |
| 六     | 八 | 三      | 三     | 三          | 三 | 七         | 七    | 八              | 一  | 三 | 九 | 四  | 三 | 一 | 二 | 七 | 三 | 三  | 三  | 四              | 八 | 二 |
| 四     | 七 | 六      | 一〇    | 四          | 二 | 二         | 七    | 一              | 三  | 五 | 二 | 一  | 七 | 一 | 一 | 一 | 七 | 三  | 一  | 八              |   |   |
| 三     | 三 | 三      | 三     | 四          | 三 | 六         | 一    | 一              | 一  | 元 | 二 | 三  | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三  | 三  | 一              |   |   |
| 四     | 四 | 九      | 二     | 五          | 二 | 二         | 四    | 一              | 五  | 八 | 三 | 二  | 二 | 七 | 四 | 七 | 元 | 五  | 一〇 |                |   |   |
| 六     | 一 | 六      | 一     | 一          | 五 | 七         | 一    | 一              | 二  | 一 | 一 | 二  | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二  | 二  |                |   |   |
| 三     | 二 | 六      | 一     | 一          | 二 | 五         | 九    | 三              | 一  | 二 | 一 | 一  | 一 | 九 | 一 | 一 | 一 | 一  | 一  |                |   |   |
| 三     | 一 | 五      | 八     | 一          | 五 | 三         | 三    | 八              | 一〇 | 一 | 八 | 六  | 四 | 七 | 一 | 七 | 二 | 一〇 | 三  | 七              |   |   |
| 七     | 九 | 四      | 九     | 四          | 一 | 二         | 一    | 七              | 一  | 一 | 三 | 一〇 | 一 | 五 | 一 | 二 |   |    |    |                |   |   |
| 二     | 三 | 一〇     | 一     | 四          | 六 | 四         | 三    | 三              | 二  | 四 | 一 | 四  | 四 | 五 | 八 | 七 | 六 | 二  | 一  |                |   |   |
| 六     |   |        |       |            |   |           |      |                |    |   |   |    |   |   |   |   |   |    |    |                |   |   |
| 三     | 一 | 二      | 一     | 一          | 一 | 二         | 一    | 二              | 一  | 四 | 三 | 一  |   |   |   |   |   |    |    |                |   |   |
| 一     | 七 | 四      | 一     | 五          | 一 | 三         | 三    | 三              | 一  | 〇 | 六 | 七  | 五 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三  | 三  | 六              |   |   |
| 一     | 七 | 五      | 一     | 五          | 一 | 五         | 一    | 三              | 一  | 〇 | 六 | 七  | 五 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三  | 三  | 六              |   |   |





梯子迂リタルタメ  
梯子ヨリ足迂リタルタメ  
梯子折レタルタメ

(丙表) 梯子、足場、床等ニ依ル災害 (甲表ト重複調査)

| 計     | 其 帶 ズ 布 手 髪 前 上 袖 手 裾 |     |     |    |     |    |    |    |    |     |
|-------|-----------------------|-----|-----|----|-----|----|----|----|----|-----|
|       | ノ                     | ボ   | 他   | ン  | 片   | 袋  | 掛  | 着  | 口  | 拭   |
| 四九三〇四 | 二六二                   | 二〇四 | 三〇四 | 五七 | 一二七 | 二一 | 四八 | 一七 | 一七 | 一〇五 |
| 一〇九五  | 一五                    |     | 二   | 三  | 二   | 四  | 三  | 五  | 七  | 八   |
| 五九三九九 | 四一                    | 二   | 三   | 〇  | 八   | 二  | 九  | 一  | 一  | 四   |
|       | 一                     | 二   | 三   | 四  | 五   | 六  | 七  | 八  | 九  | 〇   |
|       | 一                     | 二   | 三   | 四  | 五   | 六  | 七  | 八  | 九  | 〇   |
|       | 一                     | 二   | 三   | 四  | 五   | 六  | 七  | 八  | 九  | 〇   |
|       | 一                     | 二   | 三   | 四  | 五   | 六  | 七  | 八  | 九  | 〇   |
|       | 一                     | 二   | 三   | 四  | 五   | 六  | 七  | 八  | 九  | 〇   |
|       | 一                     | 二   | 三   | 四  | 五   | 六  | 七  | 八  | 九  | 〇   |

一三七  
一七一  
一六一

(乙表) 服装ニ依ル災害 (甲表ト重複調査)

| 標 | 卷  | 原 因 別      | 合 計     |         |     |         |                 |         |         |                 |     |     |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|----|------------|---------|---------|-----|---------|-----------------|---------|---------|-----------------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|   |    |            | 其 物 破 他 | 建 物 環 境 | 火 災 | 内 壓 容 器 | 爆 發 物 又 ハ 引 火 物 | 高 熱 物 體 | 有 毒 瓦 斯 | 毒 劇 藥 又 ハ 毒 劇 物 | 電 氣 | 其 他 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 男 | 一一 | 設備ノ缺陷ニ基クモノ | 六       |         |     | 三       | 二               | 〇       | 一       | 四               | 二   | 四   | 一 | 二 | 九 | 七 | 九 | 七 | 二 | 二 | 四 | 一 |
| 女 | 二二 | 被害労働者ノ過失   | 二       |         |     | 二       | 五               | 二       | 三       | 三               | 二   | 一   | 一 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 計 | 三三 | その他        | 二       | 三       | 二   | 二       | 一               | 五       | 三       | 四               | 四   | 二   | 五 | 二 | 三 | 三 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
|   |    | 抗拒不可       | 五       | 四       | 五   | 七       | 九               | 五       | 一〇      | 七               | 一   | 八   | 三 | 一 | 三 | 三 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
|   |    | 不明         | 二       | 一       | 一   | 一       | 一               | 四       | 八       | 一               | 一   | 六   | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
|   |    | 計          | 二       | 二       | 二   | 二       | 二               | 二       | 二       | 二               | 二   | 二   | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |

足場ヨリ足沁リタルタメ  
足場折レタルタメ  
床上ニテ足沁リタルタメ  
床上ニテ足踏キタルタメ

|   |       |
|---|-------|
| 計 | 一、八五一 |
|---|-------|

凡例

- 一、大正十五年七月一日乃至昭和二年六月末迄一ヶ年ノ職工死傷報告（工場法施行規則第二十五條）ニ依ル即三日以上ノ休業者ノ統計ナリ
- 二、労働者ノ過失ト設備ノ缺陷ト競合スル場合ニ於テ労働者ノ居眠リ、悪戯、泥酔、重大ナル犯則其ノ他重過失ノ存在スルトキハ之ヲ労働者ノ重過失欄（同僚又ハ第三者ノ重過失ノ場合ハ其ノ過失欄）ニ入レ輕過失ノ場合ニ付テハ設備ノ缺陷中ニ入ル
- 三、設備ノ完全セル場合又ハ豫防設備不能ノ場合ニ於テ労働者ノ過失ニ基キ災害ヲ生シタルモノハ過失ノ分類ニ從ヒ夫々労働者ノ過失欄ニ入ル
- 四、設備ニモ缺陷ナク労働者ニモ責ムヘキ過失ナキ場合ハ其ノ他欄ニ入ル
- 五、設備ノ缺陷ガ競合スル場合ニハ競合スル原因ガ何レモ獨立シテ災害ノ原因タル場合例ヘバ沁リテ「ベルト」ニ觸レタル場合ノ如キ（沁ラザリセバ災害ナカルベク、沁ルモ「ベルト」ニ完全ナル「ガード」アリセバ災害ナカルベカリシ場合）ハ重複シテ兩者ノ欄ニ記入シ（カカル重複計算傷者五一、死者零）其ノ他ノ場合ニハ最初ノ主タル原因ニ依リ分類ス、例ヘバ「ベルト」ニカカリテ後「シャフト」ニ卷カレタル場合ニハ「ベルト」欄ニ入ル
- 六、太字ハ死者、細字ハ傷者
- 七、乙表及丙表ハ甲表ノ統計中ヨリ引抜キタルモノニシテ甲表ト重複スルモノトス
- 八、奥丹震災ニ依ル工場死傷者ハ之ヲ除ク

四、鑛山變災事故及鑛夫死傷病者（大正十五年昭和元年）

(1) 變災事故回数死傷人員表

| 種別      | 變災回数                                 | 死               |               | 亡               |               | 重傷                      |             | 輕傷                      |             | 合                       |             |
|---------|--------------------------------------|-----------------|---------------|-----------------|---------------|-------------------------|-------------|-------------------------|-------------|-------------------------|-------------|
|         |                                      | 男               | 女             | 男               | 女             | 男                       | 女           | 男                       | 女           | 計                       |             |
| 金屬山     | 坑内 九、〇四三<br>坑外 四、八二七<br>計 一三、八六〇     | 五七<br>一五<br>七二  | —<br>四<br>四   | 五七<br>一五<br>七二  | —<br>四<br>四   | 一七<br>一四<br>三二          | —<br>—<br>— | 一七<br>一四<br>三二          | —<br>—<br>— | 一七<br>一四<br>三二          | —<br>—<br>— |
| 石炭山     | 坑内 一三、〇四二<br>坑外 一、九八九<br>計 一五、〇三〇    | 六六<br>三二<br>九八  | 六九<br>六<br>七五 | 六六<br>三二<br>九八  | 六九<br>六<br>七五 | 二、四九三<br>二、五五<br>五、〇四三  | —<br>—<br>— | 二、四九三<br>二、五五<br>五、〇四三  | —<br>—<br>— | 二、四九三<br>二、五五<br>五、〇四三  | —<br>—<br>— |
| 石油山     | 計 六〇九                                | 六<br>六<br>一     | —<br>—<br>—   | 六<br>六<br>一     | —<br>—<br>—   | —<br>—<br>—             | —<br>—<br>— | —<br>—<br>—             | —<br>—<br>— | —<br>—<br>—             | —<br>—<br>— |
| 其他ノ非金屬山 | 坑内 二二四<br>坑外 六一九<br>計 八三三            | —<br>—<br>—     | —<br>—<br>—   | —<br>—<br>—     | —<br>—<br>—   | —<br>—<br>—             | —<br>—<br>— | —<br>—<br>—             | —<br>—<br>— | —<br>—<br>—             | —<br>—<br>— |
| 通計      | 坑内 一四〇、二九八<br>坑外 一八、〇三四<br>計 一五八、三四二 | 七三〇<br>五<br>七三五 | 八<br>二<br>一〇  | 七三〇<br>五<br>七三五 | 八<br>二<br>一〇  | 一、〇一五<br>三、一五九<br>四、一七四 | —<br>—<br>— | 一、〇一五<br>三、一五九<br>四、一七四 | —<br>—<br>— | 一、〇一五<br>三、一五九<br>四、一七四 | —<br>—<br>— |

(口) 鑛種並坑内外別死傷者萬分率

| 鑛種別 | 坑内   |        | 坑外     |         | 計       | 鑛種別     | 坑内    |        | 坑外     |        | 計 |
|-----|------|--------|--------|---------|---------|---------|-------|--------|--------|--------|---|
|     | 死亡率  | 重傷率    | 輕傷率    | 計       |         |         | 死亡率   | 重傷率    | 輕傷率    | 計      |   |
| 金屬山 | 二七・三 | 八〇・〇   | 四、三三・七 | 四、三三・九  | 一、八七・六  | 其他ノ非金屬山 | 三・八   | 三、四・九  | 八、八五・七 | 九、四一・四 |   |
| 坑内  | 二七・三 | 八〇・〇   | 四、三三・七 | 四、三三・九  | 一、八七・六  | 坑内      | 三・八   | 三、四・九  | 八、八五・七 | 九、四一・四 |   |
| 坑外  | 七・三  | 四、七    | 一、八三・六 | 一、八三・六  | 二、九七・九  | 坑外      | 六・九   | 六、五・六  | 二、〇七・七 | 二、一四・二 |   |
| 計   | 一六・二 | 六、二    | 二、八七・九 | 二、九七・五  | 二、九七・五  | 計       | 一三・五  | 五、二・〇  | 一、五四・五 | 一、六二・一 |   |
| 石油山 | 計    | 計      | 計      | 計       | 計       | 石油山     | 計     | 計      | 計      | 計      |   |
| 坑内  | 三九・三 | 一七九・一  | 七、四九・七 | 七、四九・七  | 七、四九・一  | 坑内      | 三、七・八 | 一、六九・九 | 七、〇三・八 | 七、三三・五 |   |
| 坑外  | 五・九  | 四、四    | 一、八五・九 | 一、九二・〇  | 一、九二・〇  | 坑外      | 六・五   | 五、四・九  | 一、七八・四 | 一、八四・八 |   |
| 計   | 三〇・三 | 一、八三・五 | 五、九四・六 | 六、一一九・七 | 六、一一九・七 | 計       | 二九・三  | 二九・四   | 五、二六・〇 | 五、四五・七 |   |
| 石炭山 | 計    | 計      | 計      | 計       | 計       | 石炭山     | 計     | 計      | 計      | 計      |   |
| 坑内  | 三九・三 | 一七九・一  | 七、四九・七 | 七、四九・七  | 七、四九・一  | 坑内      | 三、七・八 | 一、六九・九 | 七、〇三・八 | 七、三三・五 |   |
| 坑外  | 五・九  | 四、四    | 一、八五・九 | 一、九二・〇  | 一、九二・〇  | 坑外      | 六・五   | 五、四・九  | 一、七八・四 | 一、八四・八 |   |
| 計   | 三〇・三 | 一、八三・五 | 五、九四・六 | 六、一一九・七 | 六、一一九・七 | 計       | 二九・三  | 二九・四   | 五、二六・〇 | 五、四五・七 |   |
| 石油山 | 計    | 計      | 計      | 計       | 計       | 石油山     | 計     | 計      | 計      | 計      |   |
| 計   | 九・四  | 一七八・〇  | 八〇〇・八  | 九八八・二   | 九八八・二   | 計       | 九・四   | 一七八・〇  | 八〇〇・八  | 九八八・二  |   |

(ハ) 變災事故回数死傷人員累年比較

| 年次   | 回数      | 死亡者數   | 負傷者數    | 計        | 年次   | 回数      | 死亡者數   | 負傷者數    | 計        |
|------|---------|--------|---------|----------|------|---------|--------|---------|----------|
|      |         |        |         |          |      |         |        |         |          |
| 昭和四年 | 一八七・〇三六 | 一七、〇三六 | 一八七・〇六六 | 一、八八・二九八 | 大正十年 | 一七五・〇八〇 | 一七、〇三六 | 一九二・一一六 | 一、八八・二九八 |
| 昭和三年 | 一七五・〇八〇 | 一七、〇三六 | 一八七・〇六六 | 一、八八・二九八 | 大正九年 | 一八六・九六三 | 一七、〇三六 | 一九九・二三四 | 一、八八・二九八 |
| 昭和二年 | 一七五・〇八〇 | 一七、〇三六 | 一八七・〇六六 | 一、八八・二九八 | 大正八年 | 一八六・九六三 | 一七、〇三六 | 一九九・二三四 | 一、八八・二九八 |
| 昭和元年 | 一五八・三三  | 一七、〇三六 | 一八七・〇六六 | 一、八八・二九八 | 大正七年 | 一八六・九六三 | 一七、〇三六 | 一九九・二三四 | 一、八八・二九八 |

(ニ) 變災事故事由別死亡者數累年比較

| 年次    | 落      |      | 磐    |      | 坑      |      | 車   |      |
|-------|--------|------|------|------|--------|------|-----|------|
|       | 回数     | 死亡者數 | 回数   | 死亡者數 | 回数     | 死亡者數 | 回数  | 死亡者數 |
| 大正十一年 | 六〇、三四九 | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 一九三・八三 | 一、一四 | 七   | 一、四三 |
| 大正十二年 | 六、三五九  | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 二二、七二  | 一、一四 | 一〇元 | 一、四三 |
| 大正十三年 | 六、三五九  | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 一六、〇七  | 〇・九  | 四   | 〇・九  |
| 大正十四年 | 六、〇三六  | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 三、四五〇  | 一・一〇 | 三九  | 一、七九 |
| 大正十五年 | 五、二二六  | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 一七、八五  | 一・一三 | 一〇四 | 一、七九 |
| 昭和元年  | 六〇、三四九 | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 一九三・八三 | 一、一四 | 七   | 一、四三 |
| 昭和一年  | 六、三五九  | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 二二、七二  | 一、一四 | 一〇元 | 一、四三 |
| 昭和二年  | 六、三五九  | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 一六、〇七  | 〇・九  | 四   | 〇・九  |
| 昭和三年  | 六、〇三六  | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 三、四五〇  | 一・一〇 | 三九  | 一、七九 |
| 昭和四年  | 五、二二六  | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 一七、八五  | 一・一三 | 一〇四 | 一、七九 |
| 昭和五年  | 六〇、三四九 | 三、五〇 | 三、五〇 | 五、七三 | 一九三・八三 | 一、一四 | 七   | 一、四三 |







(3) 石 油 山

| 種 別 | 事 由       |     | 地 點 |         | 表 示   |                 | 總 計 |           |     |     |
|-----|-----------|-----|-----|---------|-------|-----------------|-----|-----------|-----|-----|
|     | 回 數       | 別   | 器 械 | 汽 缸 破 裂 | 爆 發 藥 | 鐵 車 又 入 架 空 索 道 |     | 熱 灼 融 熔 物 | 劇 物 | 電 氣 |
| 死   | 未 滿 十 五 歲 | 男 女 | 1   | 1       | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
|     | 十 五 歲 以 上 | 男 女 | 1   | 1       | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
| 重 傷 | 未 滿 十 五 歲 | 男 女 | 1   | 1       | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
|     | 十 五 歲 以 上 | 男 女 | 1   | 1       | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
| 輕 傷 | 未 滿 十 五 歲 | 男 女 | 15  | 10      | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
|     | 十 五 歲 以 上 | 男 女 | 100 | 99      | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
| 合 計 | 未 滿 十 五 歲 | 男 女 | 17  | 12      | 3     | 3               | 3   | 3         | 3   | 3   |
|     | 十 五 歲 以 上 | 男 女 | 117 | 111     | 2     | 2               | 2   | 2         | 2   | 2   |
| 死   | 未 滿 十 五 歲 | 男 女 | 1   | 1       | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
|     | 十 五 歲 以 上 | 男 女 | 1   | 1       | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
| 重 傷 | 未 滿 十 五 歲 | 男 女 | 1   | 1       | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
|     | 十 五 歲 以 上 | 男 女 | 1   | 1       | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
| 輕 傷 | 未 滿 十 五 歲 | 男 女 | 15  | 10      | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
|     | 十 五 歲 以 上 | 男 女 | 100 | 99      | 1     | 1               | 1   | 1         | 1   | 1   |
| 合 計 | 未 滿 十 五 歲 | 男 女 | 17  | 12      | 3     | 3               | 3   | 3         | 3   | 3   |
|     | 十 五 歲 以 上 | 男 女 | 117 | 111     | 2     | 2               | 2   | 2         | 2   | 2   |

(備考) 石油山ニ於テハ坑内ナシ

















附  
錄

第二 産業災害豫防ニ關スル我國法規

一、鑛業法(明治三十八年三月法律第四十五號)(大正十三年七月法律第二十二號改正) 沿革

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第八條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ従事スル勞役者ヲ謂フ

第四章 鑛業警察

第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及鑛山監督署長之ヲ行フ

一 建設物及工作物ノ保安

二 生命及衛生ノ保護

三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

七十二條 鑛業上危険ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認めタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危険ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛山監督署長ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

七十三條 農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得  
管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム



第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及鑛山監督署長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章 鑛 夫

第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第八章 罰 則

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十

三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第一百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

大正十三年法律第二十二號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年六月二十三日勅令第百九十九號ヲ以テ)  
(大正十五年七月一日ヨリ施行ノ旨定メラル)

一、鑛業警察規則(大正五年八月三日)  
(農商務省令第二十二號)

第一條 採掘權者技術管理者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ技術管理者ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第二條 鑛務署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ採掘權者ニ技術管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

第三條 左ノ資格ヲ有スル者ニ非サレハ技術管理者タルコトヲ得ス

- 一 帝國大學ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
- 二 實業專門學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ一箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者

- 三 工業學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ三箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者
- 四 前各號ノ一ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者又ハ七箇年以上鑛業ノ技術ニ關スル實務ニ從事シタル者

第四條 技術管理者ハ鑛業ノ技術ニ關スル一切ノ事項ヲ管理ス

第五條 採掘權者二人以上ノ技術管理者ヲ選任シタルトキハ其ノ權限ヲ區別シ之ヲ鑛務署長ニ届出ツ

第六條 技術管理者ハ鑛務署長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ鑛山ノ技術管理者ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第七條 採掘權者ハ技術管理者旅行其ノ他ノ事故ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ第三條ノ資格ヲ有スル特定ノ代理者ヲシテ技術管理者ノ爲スヘキ一切ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ代理者ヲシテ職務ヲ行ハシメタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長

ニ届出ツヘシ

第八條 鑛業權者本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依リ係員ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

前項ノ係員ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第九條 鑛務署長ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依リ係員ノ選任、解任又ハ其ノ増員ヲ命スルコトヲ得

第十條 本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依リ係員ハ左ノ資格ヲ有スル二十歳以上ノ者ヨリ之ヲ選任スヘシ

- 一 帝國大學又ハ實業專門學校ニ於テ擔任ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
- 二 工業學校、徒弟學校、實業補習學校又ハ實業學校ニ類スル各種學校ニ於テ一箇年以上擔任ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シ一箇年以上其ノ實務ニ從事シタル者

三 中學校ヲ卒業シ二箇年以上擔任ノ作業ニ從事シタル者

四 尋常小學校ヲ卒業シ三箇年以上擔任ノ作業ニ從事シタル者

五 前各號ノ一ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スル者

第十一條 採掘權者ハ保安係員ヲ置キ坑内ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ

鑛務署長必要ト認ムルトキハ試掘權者ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

九二

第十二條 保安係員ハ毎日一回以上鑛夫ノ就業場所及通行場所竝危險ノ虞アル場所ヲ巡視シ危險ノ有無ヲ検査スヘシ但シ瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ鑛夫入坑時前ニ之ヲ爲スヘシ

保安係員ハ保安日誌ヲ作り巡視ノ都度各場所ニ於ケル狀況及危害豫防ニ付爲シタル處置ヲ記入スヘシ

第十三條 保安係員危險又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ作業ノ中止、通行ノ遮斷其ノ他適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ鑛業權者又ハ技術管理者ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ作業ヲ中止シ又ハ通行ヲ遮斷シタル場合ニ於テハ鑛業權者又ハ技術管理者ハ検査ヲ爲シ危險ナシト認メタル後ニ非サレハ再ヒ作業ヲ開始セシメ又ハ遮斷ヲ解クコトヲ得ス但シ危害豫防ノ爲已ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 鑛業權者ハ機械係員ヲ置キ汽罐、汽機、主要扇風機、捲揚裝置其ノ他特別ノ注意ヲ要スル機械及其ノ附屬裝置ヲ管守セシムヘシ

機械係員ハ毎日一回以上前項ノ機械及裝置ヲ監視シ異常アリト認メタルトキハ適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク之ヲ鑛業權者又ハ技術管理者ニ報告スヘシ

機械係員ハ機械日誌ヲ作り監視ノ狀況、危害豫防ニ付爲シタル處置、機械ノ修理及休止其ノ他重要

ナル事項ヲ記入スヘシ

第十五條 同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ入坑セシムル坑内ニ於テハ其ノ奥部ニ於テ連絡シ何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シ各坑口間適當ナル距離ヲ有スル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ

鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ同時ニ五十人未滿ノ鑛夫ヲ入坑セシムル坑内ニ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十六條 坑道ノ掘進其ノ他掘鑿ヲ爲ス場合ニ於テ多量ノ水又ハ有害瓦斯ノ噴出ニ因リ危害發生ノ虞アルトキハ先進鑽孔ノ穿鑿其ノ他適當ナル處置ヲ爲スヘシ

第十七條 豎坑ヲ開鑿スル場合ニ於テハ土石其ノ他物ノ墜落ニ因ル危害ヲ豫防スル爲適當ナル處置ヲ爲スヘシ

第十八條 落磐ノ虞アル場所ニ於テハ危害豫防ノ爲適當ナル支柱其ノ他ノ設備ヲ爲スヘシ  
採炭中支柱ヲ要スル石炭坑ニ於テハ支柱方法ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

第十九條 採鑛又ハ掘進中特ニ落磐ノ虞アル場所ニ於テハ支柱材其ノ他坑内支持ニ必要ナル材料ヲ作業上便宜ノ場所ニ豫メ配置スヘシ

第二十條 豎坑、坑井又ハ四十度以上ノ斜坑ノ坑口及其ノ坑道ト交叉スル箇所ニハ墜落豫防ノ爲蓋、柵圍其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

九三

第二十一條 坑内ニハ衛生及危害豫防ノ爲必要ナル分量ノ空氣ヲ給送スヘシ

第二十二條 石炭坑内ニ於テ新ニ瓦斯ノ存在ヲ發見シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第二十三條 同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ入坑セシムル石炭坑ニ於テハ氣壓計及寒暖計ヲ坑口附近適當

ナル場所ニ備付ケ保安係員ニ於テ毎日一回以上其ノ示度ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十四條 前條ノ石炭坑ニ於テハ氣流ノ通路及方向、通氣裝置竝通氣觀測點ノ位置ヲ坑内實測圖又

ハ坑内通氣圖ニ記入スヘシ

第二十五條 第二十三條ノ石炭坑ニ於テハ保安係員ハ毎月一回以上測風器及安全燈其ノ他瓦斯檢定器

ヲ以テ通氣量ノ測定及瓦斯ノ檢査ヲ爲スヘシ通氣ニ異常アリト認メタルトキハ其ノ都度之ヲ爲スヘ

シ

保安係員ハ前項ノ測定及檢査ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十六條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ同時ニ五十人未滿ノ鑛夫ヲ入坑セシムル石炭坑ニ前三條ノ

規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十七條 瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ保安係員ハ毎日一回以上安全燈其ノ他瓦斯檢定器ヲ以テ

其ノ分量ヲ檢定シ其ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十八條 前條ノ石炭坑ニ於テ扇風機ニ依リ坑内全部ニ互ル通氣ヲ爲ス場合ニハ水壓計ヲ坑内適當

ナル場所ニ備付ケ保安係員ニ於テ毎日一回以上其ノ觀測ノ結果ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第二十九條 豎坑及坑井ニ架設スル梯子道ニシテ常時通行ニ供スルモノハ傾斜八十度以内ト爲シ少ク

トモ三十尺毎ニ踏棚ヲ設ケ梯子ノ上端ハ二尺以上之ヲ突出セシメ又ハ之ニ代ルヘキ適當ナル設備ヲ

爲スヘシ但シ深百尺以内ノ豎坑又ハ坑井ニ架設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ梯子ト坑壁トノ間ニ相當ノ間隔ヲ置クヘシ

第三十條 捲揚裝置ニ依リ人ヲ昇降セシムル豎坑ニハ何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル他ノ坑

口ヲ有スル場合ノ外梯子道ヲ架設スヘシ

第三十一條 捲揚裝置ヲ設クル豎坑ニ於テ常時通行ニ供スル梯子道ヲ架設スルトキハ其ノ間ニ板仕切

其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第三十二條 人ヲ昇降セシムル豎坑捲揚裝置ニハ制動機及深度指示器ヲ備ヘ竝捲揚超過ヨリ生スル危

險豫防ノ設備ヲ爲シ其ノ捲揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ捲揚臺ヲ支持スル捲綱及附屬金具ハ少クトモ最大荷重ノ十倍ニ耐ユルモノヲ用ウヘシ

繼合セタル捲綱ハ人ヲ昇降セシムル捲揚臺ノ支持ニ用ウルコトヲ得ス

第三十三條 自動車道又ハ捲揚車道ニ使用スル車輛ニハ當該係員又ハ係鑛夫ノ外乗車スルコトヲ得ス

但シ前條ノ規定ニ準シ施設ヲ爲スノ外特ニ適當ナル危害豫防ノ方法ヲ設ケ鑛務署長ノ許可ヲ受ケタ

ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 自動車道又ハ捲揚車道ニ依リ車輛ヲ運轉スル場合ニ於テハ逸走豫防ノ爲適當ナル装置ヲ爲スヘシ

第三十五條 自動車道又ハ捲揚車道ヲ敷設スル坑道ヲ通行ニ供スル場合ニ於テハ軌道ノ傍側ニ歩道又ハ白色ノ標示ヲ爲シタル回避所ヲ設クヘシ

前項ノ場合ニ於テ鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ歩道又ハ專用通行坑道ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第三十六條 主要通行坑道ノ分岐點其ノ他必要ナル箇所ニハ其ノ名稱ヲ揭示シ出口ノ方向ヲ指示スヘシ

第三十七條 捲揚用ノ豎坑及坑井竝坑内ノ自動車道及捲揚車道ニハ信號装置ヲ設クヘシ但シ人聲ヲ以テ合圖ヲ爲シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ坑ノ内外及坑内主要箇所間ニ電話其ノ他ノ通信装置ヲ設ケシムルコトヲ得

第三十九條 石炭坑内ニ於テ瓦斯存在ノ虞アル場所ニ在リテハ安全燈又ハ電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

瓦斯ノ存在スル石炭坑ニ於テハ運搬又ハ通氣ノ關係上同一區域ト認メ得ヘキ區域全部ニ互リ安全燈又ハ電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス但シ火番所又ハ特ニ鑛務署長ノ許可ヲ受ケタル區域ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 瓦斯ノ存在スル石炭坑内ニ於テハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ス但シ鑛業權者ノ特ニ設ケタル喫煙所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ石炭坑内ニ於テハ當該係員ノ指揮ニ依ル場合ノ外發火具、喫煙具及煙草ヲ携帯スルコトヲ得ス

第四十一條 石油坑口又ハ貯油場ノ周圍五間以内ニ於テハ發火具、裸火其ノ他危險ナル燈火ヲ使用シ又ハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ス製油場又ハ可燃質瓦斯ノ精製場ニ於ケル油類又ハ可燃質瓦斯ノ貯藏又ハ取扱ヲ爲ス場所ノ周圍五間以内亦同シ

第四十二條 安全燈ノ使用ヲ必要トスル石炭坑ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 安全燈係員ヲ置キ安全燈ノ授受、檢査及掃除ヲ爲サシムヘシ
- 二 安全燈室ハ採光ニ注意シ成ルヘク不燃質ノ物ヲ以テ建築スヘシ
- 三 坑内ニ於テ使用中ノ安全燈毀損シ若ハ故障ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ交換シ又ハ一定ノ場所ニ於テ點火スル爲適當ナル方法ヲ設クヘシ

第四十三條 前條ノ石炭坑ニ於テハ安全燈係員ハ安全燈ノ解體及掃除ヲ爲シ金網、硝子、燈芯、油壺、油量、鎖鑰、各接合部其ノ他必要ナル部分ヲ検査シ完全ト認メタル後ニ非サレハ之ヲ鑛夫ニ交付スルコトヲ得ス

第四十四條 第四十二條ノ石炭坑ニ於テハ鑛夫ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 安全燈ヲ開キ又ハ之ヲ開クニ用ウヘキ器具ヲ携帯スルコトヲ得ス
  - 二 安全燈ハ天井ニ接近シ又ハ顛倒若ハ破壊ノ虞アル箇所ニ之ヲ置クコトヲ得ス
  - 三 安全燈ハ濫ニ之ヲ振動シ又ハ傾斜セシムルコトヲ得ス
  - 四 安全燈ハ點火シタル儘之ヲ坑内ニ置去ルコトヲ得ス
  - 五 安全燈ノ火焰ハ濫ニ之ヲ伸大スルコトヲ得ス
  - 六 安全燈ノ火焰伸大シ消火ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ放棄シ又ハ吹消スコトヲ得ス
  - 七 安全燈ノ毀損又ハ故障ヲ發見シタル場合ニ於テハ遲滯ナク消火シ當該係員ノ指揮ヲ受クヘシ
- 安全燈ノ取扱ニ付テハ前項各號ニ掲クル事項其ノ他注意ヲ要スル事項ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

第四十五條 坑内ニ於テハ燈火用トシテ石油其ノ他揮發性燈油及魚油ヲ使用スルコトヲ得ス但シ特種ノ安全燈ニ使用シ又ハ他ノ油ニ混シテ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 爆發藥ノ裝填用込物ハ鑛業權者之ヲ鑛夫ニ給與スヘシ

前項ノ込物ハ粘土其ノ他發火ヲ誘起スルノ虞ナキ物ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十七條 爆發藥ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 「ダイナマイト」其ノ他「ナイトログリセリン」爆發藥ニシテ凍結シタルモノハ火若ハ汽罐ニ近ケ又ハ直接蒸汽ト接觸セシムル等危険ナル方法ヲ以テ融解スルコトヲ得ス
- 二 裝填ハ鐵製込棒ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ「ナイトログリセリン」爆發藥又ハ棉火藥ノ裝填ニ込棒ヲ使用スル場合ニ於テハ木製ノモノニ限ル
- 三 點火ハ豫メ附近ノ鑛夫ニ警告シ安全ト認メタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 四 點火後爆發セサルトキハ少クトモ十五分間ハ其ノ場所ニ近寄ルコトヲ得ス
- 五 不發ノ裝藥及其ノ込物ハ鑛夫之ヲ掘出スコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ當該係員ノ指揮ヲ受クヘシ

爆發藥ノ取扱ニ付テハ前項各號ニ掲クル事項其ノ他注意ヲ要スル事項ヲ定メ鑛夫ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

第四十八條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ石炭坑ニ對シ發破係員ノ選任ヲ命スルコトヲ得

前項ノ石炭坑ニ於テ發破ヲ行フ場合ニハ點火前發破係員ヲシテ點檢ヲ爲サシムヘシ

第四十九條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ一定種類ノ爆發藥、雷管、導火線及電氣點火器ノ坑内ニ於ケル使用ヲ禁止スルコトヲ得

第五十條 不用ニ歸シタル豎坑及四十度以上ノ斜坑ノ坑口ハ之ヲ閉塞シ又ハ堅牢ナル柵圍其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第五十一條 不用ニ歸シタル坑道又ハ坑内採掘跡ニハ通行遮斷ノ標示ヲ爲シ又ハ柵圍ヲ設クヘシ

第五十二條 原動機、動力傳導裝置其ノ他ノ機械又ハ裝置ノ危險ナル部分ニハ金網、柵圍其ノ他適當ナル豫防設備ヲ爲スヘシ

第五十三條 硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトロン其ノ他之ニ準スヘキ劇性又ハ毒性料品ヲ多量ニ取扱フ場所ニハ傷害又ハ中毒豫防ノ爲適當ナル施設ヲ爲スヘシ

第五十四條 粉塵ヲ多量ニ飛散スル選鑛場、燒鑛場又ハ製鍊場ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 作業場ハ之ヲ清潔ニシ通氣ヲ十分ナラシムヘシ

二 飯料水ヲ多量ニ備置キ粉塵ノ混入セサル設備ヲ爲スヘシ

三 喫飯所及洗面所ハ作業場ト離レタル場所ニ之ヲ設クヘシ

有害ナル瓦斯又ハ粉塵ヲ發散若ハ飛散スル選鑛場、燒鑛場又ハ製鍊場ニ於テハ前項各號ノ外洗所ニハ石鹼又ハ其ノ代用品其ノ他ノ必要品ヲ備ヘ鑛夫ヲシテ食事前顔及手ヲ洗ヒ含嗽セシムヘシ

第五十五條 汽罐、坑内通氣用主要扇風機、架空索道、豎坑若ハ斜坑ノ捲揚裝置又ハ機關車ヲ運轉スル軌道ヲ設置セムトスルトキハ工作物ノ種類ニ從ヒ左ニ掲クル事項ヲ具シ鑛務署長ニ届出ツヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 汽罐

使用目的

種類

主要部分ノ構造

爐格面積及傳熱面積

安全弁ノ種類、直徑、面積及箇數

水壓試驗ヲ爲シタル年月日及其ノ成績

最大常用壓力

製作所名、製作年月及修繕其ノ他履歷ノ概要

煙突ノ直徑、高及材料

汽罐ノ正面圖、平面圖、縱斷面圖及各接合部ノ圖面

(十) 設置場所及建設物、道路、石油坑井等ノ關係ヲ示セル圖面

(十二) 工事完成豫定期日

二 坑内通氣用主要扇風機

設置場所

種類及大

廻轉數及風量

最大負壓又ハ正壓

原動機ノ種類及實馬力

原動機トノ接續方法

豫備扇風機及豫備原動機ノ有無

排氣口ノ構造

工事完成豫定期日

三 架空索道

使用目的

方式

兩極ノ位置及延長

(三)(二)(一)

最大運搬量

綱索ノ種類、直徑及最大抗張力

搬器ノ自重及最大積載重量並搬器相互ノ間隔

原動機ノ種類及實馬力

綱索ノ最大運轉速度

荷物ノ積卸方法

通路、建設物等ニ對スル危害豫防設備

線路地形圖

工事完成豫定期日

(十二)(十一)(十)(九)(八)(七)(六)(五)(四)

四 豎坑若ハ斜坑ノ捲揚裝置

設置場所

使用目的

捲揚機ノ種類及主要部分ノ大

鼓胴ノ形狀及大

制動機及深度指示器ノ種類及構造

(五)(四)(三)(二)(一)



- (六) 捲揚槽ノ構造及大
- (七) 槽滑車ノ構造及大
- (八) 捲揚臺ノ重量及最大積載重量
- (九) 鑛車ノ重量及積載重量
- (十) 同時ニ捲揚臺ニ搭載シ又ハ捲揚車道ニ於テ連結スル鑛車ノ數
- (十一) 捲揚臺承ノ構造
- (十二) 捲網ノ種類、構造、大、延長、最大抗張力及製作所名
- (十三) 捲網緊張ノ角度
- (十四) 最大捲揚速度
- (十五) 堅坑ニ在リテハ其ノ大、深及區劃竝爲摺ノ種類及構造
- (十六) 斜坑ニ在リテハ捲揚車道ノ大、長、最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別
- (十七) 人ヲ昇降セシムルモノニ在リテハ安全裝置ノ構造及搭載定員
- (十八) 堅坑口又ハ斜坑口ニ於ケル裝置ノ配置圖
- (十九) 捲揚槽、捲揚臺及車輛ノ正面圖、側面圖及平面圖

- (二十) 堅坑ノ構造及區劃ノ説明圖
  - (二十一) 捲揚臺及捲網ノ連接説明圖
  - (二十二) 工事完成豫定期日
- 五 機關車ヲ運轉スル軌道

- (一) 使用目的
  - (二) 兩極ノ位置及延長
  - (三) 最大勾配、曲線ノ最小半徑、軌條ノ重量、軌距及單線又ハ複線ノ區別
  - (四) 橋梁ノ長及構造
  - (五) 機關車ノ種類及重量
  - (六) 制動機ノ種類
  - (七) 車輛ノ自重及最大積載重量又ハ搭載定員
  - (八) 車輛ノ最大連結數及連結方法
  - (九) 線路地形圖
  - (十) 工事完成豫定期日
- 前項ノ工作物ノ工事完成シタルトキハ其ノ旨鑛務署長ニ届出テ其ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使

用スルコトヲ得ス

106

第五十六條 選鑛場（手選鑛場ヲ除ク）、燒鑛場、製鍊場又ハ製油場ヲ設置セムトスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ具シ鑛務署長ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 設置場所
- 二 取扱元鑛ノ種類及產出鑛山
- 三 一箇月間ノ取扱元鑛數量
- 四 一箇月間ノ製品ノ種類及數量
- 五 操業方法ノ概要
- 六 原動機ノ種類及實馬力
- 七 捨石又ハ鑛滓ノ量及處理方法
- 八 捨石又ハ鑛滓ノ堆積場ノ位置、構造及堆積量
- 九 廢水ノ量及處理方法
- 十 燒鑛又ハ製鍊ニ因リ生スル煙ノ煙道、煙塵室並煙突ノ構造大及材料
- 十一 燒鑛若ハ製鍊所ノ爐又ハ蒸溜釜ノ種類、大、箇數及其ノ一箇月間ノ取扱數量
- 十二 建設物ノ設計概要並略圖及配置圖

十三 附近ノ地形及地種目ヲ示セル地圖

前項ノ工作物ノ工事完成シタルトキハ其ノ旨鑛務署長ニ届出テ其ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十七條 前條第一項ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ鑛務署長ニ届出ツヘシ但シ鑛務署長ニ於テ豫メ變更ノ認可ヲ受クヘキコトヲ命令シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第五十八條 第五十五條及第五十六條ノ工作物ノ使用ヲ廢シタルトキハ之ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第五十九條 鑛務署長ヨリ汽罐其ノ他機械又ハ裝置ニ付検査ノ通知ヲ受ケタルトキハ豫メ検査ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第六十條 現ニ入坑セル鑛夫ノ員數、氏名及就業場所ハ之ヲ坑外ニ於テ知り得ヘキ方法ヲ設クヘシ

第六十一條 探掘權者ハ業務上ノ傷病者ノ救護ニ必要ナル救急治療用具及材料ヲ備フヘシ

第六十二條 鑛夫ハ濫ニ危害豫防ノ爲就業者若ハ通行ヲ禁止セラレタル場所ニ立入り又ハ衛生若ハ危害豫防ニ關スル設備、裝置ヲ毀損又ハ變更スルコトヲ得ス

第六十三條 鑛業權者又ハ技術管理者危険又ハ危險ノ虞アリト認メタルトキハ遲滯ナク應急又ハ豫防ノ處置ヲ爲スヘシ

107

第六十四條 瓦斯又ハ炭塵ノ爆發、火災、水害其ノ他ノ變災ニ因リ死者又ハ重傷者ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ事由及狀況ヲ鑛務署長ニ急報スヘシ死者又ハ重傷者ヲ生セサル場合ト雖事業ノ全部若ハ一部ヲ休止スルニ至リタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ變災ノ經過及之ニ對スル處置ヲ遲滯ナク鑛務署長ニ届出ツヘシ

第六十五條 死傷病者ニ付テハ別記様式ニ依リ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第六十六條 本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令中鑛夫ノ遵守スヘキ規定ハ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ之ヲ周知セシムヘシ

第六十七條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ坑内ノ全部又ハ一部ヲ封鎖スルコトヲ得

第六十八條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ建設物、工作物其ノ他ノ設備ニ付改造、修理其ノ他適當ナル處置ヲ命スルコトヲ得

第六十九條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ鑛業法第七十二條第一項若ハ第七十四條ニ基ク農商務大臣ノ命令又ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ヲ執行スル爲又ハ衛生上ノ施設、坑口ノ開鑿、坑道ノ掘進若ハ捨石、鑛滓、坑水、廢水ノ處理ニ付一定ノ行爲ヲ命シ又ハ禁止若ハ制限スルコトヲ得  
第七十條 鑛務署長ハ實地ノ狀況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ本則ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第七十一條 本則ノ規定ニ違反シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十二條 本則ノ規定ニ依リ従業者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ直接ノ監督者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條 技術管理者ヲ置キタルトキハ技術ニ關スル事項ニ付探掘權者、法定代理人又ハ鑛業代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ技術管理者ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 本則ノ罰則ハ之ヲ其ノ代理人ニ適用ス

附 則

第七十六條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス



|  |    |   |   |
|--|----|---|---|
| 月未現在鑛夫員數   | 計  | 女 | 男 |
|  | 記事 |   |   |
| 備考   |    |   |   |
| 一 本表ハ毎月一回二十日迄ニ前月分ヲ差出スヘシ<br>二 本表ニハ過失ニ因ルト否トヲ問ハス業務上ノ死傷者ヲ記載スヘシ<br>三 重傷トハ頭、四肢、視器、聽器其ノ他ノ部分ノ負傷ニシテ從來ノ勞役ニ從事スルコト能ハサルモノ及其ノ見込ノモノ<br>四 並三十日以上醫療ヲ受ケタルモノ及見込ノモノヲ謂フ<br>五 輕傷トハ三日以上醫療ヲ受ケタルモノ及見込ノモノヲ謂フ<br>六 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ |    |   |   |

樣式乙

| 鑛夫死傷病者月報  |          |   |   |    |    |       |           |           |    |    |
|---|----------|---|---|----|----|-------|-----------|-----------|----|----|
| 記   | 月未現在鑛夫員數 | 種 | 鑛 | 名  | 位置 | 業務ノ種類 | 負傷又ハ疾病ノ種類 | 負傷又ハ疾病ノ月日 | 解轉 | 大正 |
|   |          |   |   |    |    |       |           |           |    | 年  |
| 事   | 計        | 女 | 男 | 氏名 | 年齢 | 業務ノ種類 | 負傷又ハ疾病ノ種類 | 負傷又ハ疾病ノ月日 | 解轉 | 月分 |
|   |          |   |   |    |    |       |           |           |    | 年  |
| 鑛業權者又ハ代表者ノ住所 何 某印<br>鑛業代理人ノ住所 何 某印<br>死亡ノ日 何 某印<br>備考 |          |   |   |    |    |       |           |           |    |    |

備考

- 一 本表ハ毎月一回二十日迄ニ前月分ヲ差出スヘシ
- 二 本表ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ記載スヘシ
  - (一) 死者
  - (二) 負傷又ハ疾病ノ爲解雇セラレタル者
  - (三) 負傷又ハ疾病ノ爲三十日以上醫療ヲ受ケ休業シタル者
  - (四) 傳染病預防法第一條ノ傳染病者但シ病名別患者數ノミヲ記載欄ニ記載スヘシ
- 三 負傷又ハ疾病ノ爲休業三十日以上ニ互ル者ニシテ未タ轉歸ニ至ラサルモノハ「治療」欄ニ未治ト記入シ轉歸ニ至リタルトキ其ノ月ノ月報ニ再記スヘシ
- 四 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

樣式丙

| 鑛夫死傷病者半年報   |       |    |      |       |       |       |           |           |    |     |
|---|-------|----|------|-------|-------|-------|-----------|-----------|----|-----|
| 傳染性   | 病     | 種  | 鑛    | 名     | 位置    | 業務ノ種類 | 負傷又ハ疾病ノ種類 | 負傷又ハ疾病ノ月日 | 解轉 | 自大正 |
|   |       |    |      |       |       |       |           |           |    | 年   |
| 結核  | 法防染病一 | 赤痢 | 傳染病一 | ラチフス、 | 十五歳未満 | 二十歳未満 | 二十歳以上     | 合         | 何  | 月分  |
|   |       |    |      |       |       |       |           |           |    | 年   |
| 鑛業權者又ハ代表者ノ住所 何 某印<br>鑛業代理人ノ住所 何 某印<br>死亡ノ日 何 某印<br>備考 |       |    |      |       |       |       |           |           |    |     |



三、石炭坑爆發取締規則

(大正四年十二月農商  
務省令第二十五號) (大正五年八月農商務省  
令第二十三號ニテ改正)

- 第一條 本則ハ瓦斯又ハ炭塵ノ存在スル石炭坑ニシテ農商務大臣ノ指定シタルモノニ之ヲ適用ス
- 第二條 入氣坑口ニ於ケル通氣量ハ一日中ノ最大入坑鑛夫數ヲ標準トシ一人ニ付一分間百立方尺ヲ下ルコトヲ得ス
- 第三條 通氣速度ハ一分間千五百尺ヲ超ユルコトヲ得ス但シ堅坑及通氣専用坑道ニ於テハ一分間二千尺ヲ超ユサル範圍内ニ於テ之ヲ増加スルコトヲ得
- 第四條 排氣坑口ニ於ケル排氣中ノ瓦斯量ハ千分ノ五ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第五條 坑内全部ニ亘ル通氣ニハ扇風機ヲ使用シ入氣坑及排氣坑ハ各別ニ之ヲ設クヘシ但新ニ開坑ニ著手スル場合ニ於テ鑛務署長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ扇風機ニハ自記回轉計及自記水壓計ヲ備付ケ其指數ニ異常アリタルトキハ直ニ相當ノ處置ヲ爲スヘシ
- 第六條 主要扇風機ハ坑内ニ設置スルコトヲ得ス
- 第七條 主要風橋及入排氣堅坑間又ハ主要入排氣坑道間ヲ連絡スル坑道ニ設ケタル遮斷用ノ壁若ハ戸ハ堅牢ニシテ燃燒ノ虞ナキ構造ト爲シ戸ハ二個以上ヲ設クヘシ

- 第八條 交通頻繁ナル坑道及主要通氣坑道ニ設ケタル通氣戸ハ相當ノ間隔ヲ置キ二重以上トシ自働裝置ヲ備ヘサルモノニハ番人ヲ附スヘシ
  - 第九條 石炭層中ニ坑道ヲ掘進スル場合ニ於テハ張出其ノ他之ニ類スル通氣裝置ハ長五十間ヲ超ユルコトヲ得ス
  - 第十條 瓦斯若ハ炭塵多量ニ存在シ又ハ自然發火ノ虞アル採炭跡ハ充填若ハ密閉シ又ハ氣流ヲ通スヘシ
  - 前項ノ規定ニ依リ氣流ヲ通スル場合ニ於テハ其排氣ハ切端又ハ交通頻繁ナル坑道ヲ通過セシムルコトヲ得ス
  - 第十一條 坑内空氣中ノ瓦斯量百分ノ二以上ノ箇所ニ於テハ鑛夫ノ就業ヲ禁止シ百分ノ三以上ノ箇所ニ於テハ其ノ通行ヲ禁止スヘシ但シ特ニ安全ナル方法ニ依リ通氣改良ニ關スル作業ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
  - 前項ノ箇所ニハ遲滞ナク柵其ノ他適當ナル設備ヲ爲シ一定ノ警標ヲ掲クヘシ
  - 第十二條 保安係員ハ鑛夫入坑時前三時間以内ニ瓦斯ノ檢定ヲ爲スヘシ
  - 第十三條 保安係員ハ一箇月二回以上通氣ノ觀測ヲ爲スヘシ
- 但シ氣流ノ方向又ハ分配ニ著シキ變化アリト認メタルトキハ其ノ都度之ヲ爲スヘシ

第十四條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ一分流通氣區ニ於ケル切端數又ハ就業鑛夫數ヲ制限スルコトヲ得

第十五條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ通氣ノ獨立、分流方法ノ變更、通氣坑道ノ開鑿又ハ扇風機用豫備原動機若ハ豫備扇風機ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第十六條 乾燥炭塵發生シ易キ石炭坑ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 乾燥炭塵存在スル坑道ニハ撒水又ハ岩粉ノ撒布ヲ爲スヘシ乾燥炭塵發生シ易キ切端ニ於テ採炭ヲ爲ス場合亦同シ

二 坑道ニ存在スル炭塵ハ之ヲ掃除スヘシ

三 切端ヨリ車道ニ石炭ヲ搬出スル器具、裝置又ハ方法ニシテ石炭ヲ散逸セシメ又ハ多量ニ炭塵ヲ飛散セシムルモノハ適當ナル豫防方法ヲ施シタルモノノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス坑内ニ於テ使用スル炭車ニ付亦同シ

四 扉附炭車ハ坑内ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

五 炭車ニ積載セル石炭ニハ坑内適當ナル箇所ニ於テ其ノ全面ニ撒水スヘシ

六 選炭場ハ入氣坑口ニ接近シテ之ヲ設置スルコトヲ得ス

前項第一號及第二號ニ掲クル事項ノ施行方法ハ鑛務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ爆發ノ傳播ヲ防ク爲濕潤地帯ノ設置其ノ他適當ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第十八條 黑色火藥其ノ他之ニ類スル爆發藥ハ坑内ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス但石炭層ニ接近セサル岩石掘鑿ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス(大正五年八月農商務省令第二十三號ニテ第二項削除)

第十九條 坑内ニ於ケル爆發藥ノ携帶、裝填及點火ハ發破係員ヲ置キ之ヲ爲サシムヘシ但シ携帶及裝填ニ付テハ特定ノ助手ヲシテ之ヲ補助セシムルコトヲ得

第二十條 發破係員ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 發破ヲ行ハムトスルトキハ瓦斯及炭塵ニ付三間以上ノ區域内ニ於テ危險ノ有無ヲ検査スヘシ同一箇所ニ於テ引續キ發破ヲ行フ場合亦同シ

二 石炭層中ニ於テ發破ヲ行フ場合ニ於テハ空發其ノ他危險ノ虞ナカラシムル爲雷孔ノ位置、狀態及深ニ付検査スヘシ

三 炭粉其ノ他可燃性ノ物ハ込物トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

四 空氣中ノ瓦斯量百分ノ一以上ノ箇所ニ於テハ發破ヲ行フコトヲ得ス但シ瓦斯量百分ノ二ニ達セサル箇所ニ於テ電氣點火法ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

五 乾燥炭塵存在スル場合ニ於テハ電氣點火法ニ依ルニ非サレハ同一箇所ニ於テ同時ニ二發以上ノ



發破ヲ行フコトヲ得ス

一一〇

六 石炭層中隣接箇所ニ於テ引續キ數回ノ發破ヲ行フ場合ニ於テハ風下ヨリ順次ニ之ヲ行フヘシ  
第二十一條 坑内ニ於テハ安全燈又ハ電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

安全燈ハ完全ナル鎖鑰ヲ有シ一時二十八目以上ノ金屬製網筒二重ヲ備ヘ其ノ内部ノモノハ鐵製又ハ鋼製トシ硝子筒ハ堅牢ニシテ冷熱ノ激變ニ堪フルモノヲ用キ其ノ接合部ヨリ空氣ノ侵入セサル構造ト爲スヘシ

瓦斯ノ存在スル場所ニ於テ使用スル電燈ハ安全裝置ヲ施スヘシ

第二十二條 保安係員及發破係員ニハ揮發油安全燈又ハ瓦斯檢定燈ヲ使用セシムヘシ但シ鑛務署長ノ認可ヲ受ケ他ノ種類ノ安全燈ヲ使用セシムルコトヲ得

第二十三條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ一定種類ノ安全燈又ハ携帯用電燈ノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第二十四條 安全燈ハ一晝夜ニ入坑スヘキ鑛夫總數以上ノ數ヲ備フヘシ

第二十五條 鑛夫ハ一定ノ坑口ヨリ出入セシムヘシ但シ特別ノ事由ニ因ル臨時ノ出入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

發火具、喫煙具及煙草ノ携帯ヲ防ク爲適當ナル設備ヲ爲シ鑛夫入坑ノ都度檢査スヘシ

第二十六條 新ニ採用シタル鑛夫ニハ 斯及炭塵ニ關スル事項ヲ說示スヘシ

石炭坑ノ坑内作業ニ經驗ナキ鑛夫ハ熟練シタル者ノ指導ヲ受ケ一箇月以上坑内作業ヲ實習シタル後ニ非サレハ單獨ニ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

第二十七條 保安係員一人ノ監督スヘキ鑛夫數ハ七十人ヲ超ユルコトヲ得ス

但シ特別ノ事由アルトキハ鑛務署長ノ認可ヲ受ケ百人ヲ超エサル範圍内ニ於テ之ヲ増加スルコトヲ得  
第二十八條 瓦斯又ハ炭塵ノ爆發其ノ他ノ變災ニ備フル爲單獨又ハ共同ニ救護隊ヲ設置スヘシ

救護隊ノ組織及主要ナル器具、機械並用品ノ種類及數量ニ付テハ鑛務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 (大正五年八月農商務省令第二十三號ニテ削除)

第三十條 鑛務署長ハ實地ノ狀況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ本則ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第三十一條 鑛務署長必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ通氣量、瓦斯量又ハ鑛夫數ニ付第二條、第四條、第十一條第一項、第二十條第四號及第二十七條ノ規定ニ拘ラス必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 (大正五年八月農商務省令第二十三號ニテ削除)

第三十三條 鑛務署長已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ第二條乃至第十條、第十二條、第十

一一一

六條、第十八條第一項、第十九條乃至第二十二條、第二十四條、第二十五條、第二十七條及第二十八條ノ規定ハ第一條ノ規定ニ依ル指定後一箇年ヲ超エサル範圍内ニ於テ期間ヲ定メ其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

前項ノ斟酌ヲ受ケムトスル者ハ指定ヲ受ケタル後二十日以内ニ届出ツヘシ

第三十四條 本則ノ規定ニ違反シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ従ハサル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 本則ノ規定ニ依リ從業者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ直接ノ監督者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條ノ二 鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正五年八月農商務省令第二十三號ニテ追加)

第三十六條 鑛業警察規則ニ依リ技術管理者ヲ置キタルトキハ技術ニ關スル事項ニ付採掘權者、法定代理人又ハ鑛業代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ技術管理者ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

鑛業警察規則第七條第一項ノ規定ニ依リ特定ノ代理者ヲシテ職務ヲ行ハシメタルトキハ技術管理者

ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ其ノ代理者ニ適用ス(大正五年八月農商務省令第二十三號ニテ改正)

第三十七條 本則ハ第三十四條乃至第三十六條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス(大正五年八月農商務省令第二十號ニテ追加)

附 則

第十六條第四號、第二十一條第二項及第二十四條ノ規定ハ本則施行後三箇年間、第二十八條ノ規定ハ三箇年間之ヲ適用セス(大正五年八月農商務省令第二十號ハ同年九月一日ヨリ施行)

四、工場法中災害豫防ニ關スル規定

第九條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性、發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危険又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

### 五、工場法施行規則中災害豫防ニ關スル規定

第五條 工場法第九條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、速接桿、聯桿器、啣子桿、發電機ノ「コンミューター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又ハ之ニ準スヘキ危険ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務
- 二 危険ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シヲ爲ス業務
- 三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱
- 四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又ハ高壓電線ノ接續
- 五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務
- 六 危険ナル齒輪、調帶車、勢輪、調帶、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他災害豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務
- 七 完全ナル柵圍其ノ他ノ災害豫防裝置ナキ車軸道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第六條 工場法第十條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃磷、硫化磷、チアン水素酸、「チアンカリウム」、フルオール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務
- 二 「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンゼン、「サルコホル」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務
- 三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務
- 四 火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務
- 五 金屬、礦物、土石、骨、角、檻襪、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務
- 六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオール」、「アニリン」、「クローム」若ハ「クロー

ル」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、鑛物、土石類ノ熔融若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六號第七號ニ掲クル業務ニ關シ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス

第二十五條 職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物内ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遲滞ナク様式第四號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ事故發生當時休業三日以内ノ見込ノ者療養ノ爲休業三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

第二十六條 工場又ハ附屬建設物内ニ於テ左ニ掲クル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク様式第五號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 火災又ハ爆發
- 二 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂
- 三 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂

- 四 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損
- 五 工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒壊
- 六 其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

(様式第四號)

告報傷死工職

| 工場名 | 工場主<br>又ハ工場<br>管理人 | 所在地 | 事業ノ<br>種類 | 職工數 |   | 事故發生<br>日時 | 當日被<br>害者ノ<br>數 | 死亡ノ日<br>時又ハ休<br>業見込日數 | 死者         |                  | 災害ノ原因及發生<br>狀況   | 危害豫防装置ノ<br>狀況 |
|-----|--------------------|-----|-----------|-----|---|------------|-----------------|-----------------------|------------|------------------|--|---------------|
|     |                    |     |           | 男   | 女 |            |                 |                       | 氏名         | 性                |  |               |
|     |                    |     |           | 計   |   |            |                 |                       | 生年         | 生月               |  |               |
|     |                    |     |           |     |   | 年月日        | 午前午後            | 時分                    | 位及症部       | 被<br>害<br>部      | 動力ニ依リ運轉中ノ<br>機械又ハ動力傳導<br>装置ニ依リ災害發生<br>シタルトキ記入スヘキ<br>事項 |               |
|     |                    |     |           |     |   | 年月日        | 午前午後            | 時分                    | 業務又ハ<br>職名 | 大サ又ハ能力           | 災害ヲ生シタル<br>部分  |               |
|     |                    |     |           |     |   | 年月日        | 午前午後            | 時分                    | 賃金         | 其ノ部分ノ大サ速度<br>大サ等 |  |               |
|     |                    |     |           |     |   | 年月日        | 午前午後            | 時分                    | 業務又ハ<br>職名 | 其ノ部分ノ大サ速度<br>大サ等 |  |               |

年 月 日 届出

職工死傷報告記載心得

一三八

- 一 本報告ノ用紙一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ職工死亡シ又ハ療養ノ爲休業二週日以上ヲ要スヘキ見込ノ場合ニ於テハ二通其ノ他ノ場合ニ於テハ一通ヲ差出スヘシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ
- 四 本報告ハ死傷者一名毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ同一ノ事故ニ依リ數人ノ死傷者ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ中一枚ノ報告ニ詳細記入シテ他ノ報告ニハ其ノ重複スル部分ヲ省略スルコトヲ得
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘハ毛織物業、綿絲紡績業、機械製造業、自轉車製造業、造船業、洋傘骨製造業、セメント製造業、製鹽業、菓子製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ
- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ
- 九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱(例ヘ

ハ機關室、鍛工場、木工場、乾燥室、原料粉碎室、苛性曹達煮詰釜場、叩解作業室、機關室ト貯炭所トノ間ノ軌道、入渠中ノ修理船何丸ノ足場等)ヲ記入スヘシ

十 當日被害者ノ作業開始時刻欄ニハ被害者ノ當日作業ヲ開始シタル時刻ヲ記入スヘシ前日ヨリ引續キ夜業ヲ爲セル場合ニ於テハ前日ノ作業開始時刻ヲ記入スヘシ

十一 死傷者欄中

- (一) 業務又ハ職名欄ニハ被害者ノ擔當業務又ハ職名(例ヘハ旋盤工、修繕工、捺染工、雜役夫等)ヲ記入スヘシ
- (二) 雇入年月欄ニハ當該工場ニ於テ被害者ヲ雇入レタル年月ヲ記入スヘシ
- (三) 賃金欄ニハ被害者ノ日給(稼高ノ場合其ノ他收入一定セサル場合ニ於テハ最近ニ於ケル通常一日ノ賃金額)ヲ記入スヘシ
- (四) 被害ノ部位及症狀欄ニハ例ヘハ頭部打撲、右上膊骨折、左第三指及第四指挫傷、電擊、腹部火傷、瓦斯中毒、窒息等ヲ記載スヘシ
- (五) 死亡日時又ハ休業見込日數欄ニハ死亡シタル者ニ付テハ死亡ノ日時、生命危篤ノ者ニ付テハ其ノ旨、其ノ他ノ者ニ付テハ治療ノ爲休業シタル日數ト其ノ後ノ休業見込日數トノ合算日數ヲ記入スヘシ

一二九

十二 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作、操作、災害發生位置ノ高サ又ハ深サ、災害カ機械又ハ設備ニヨリテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ、能力、高サ、壓力、電壓又ハ溫度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ擧ケテ其ノ顛末ヲ記載スヘシ但シ動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害ヲ發生シタルトキ左方ノ記入欄ニ記入スル場合ニ於テハ其ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ付テハ簡略ニ記載スヘシ第二十六條ニ規定セル事故ニ依リ死亡者又ハ治療ノ爲休業三日以上ヲ要スヘキ者ヲ生シタルトキハ其ノ原因ヲ簡略ニ記載シ様式第五號ノ工場災害事故報告トノ關係ヲ明ニスヘシ

十三 動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項欄中

- (一) 名稱欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ名稱(例ヘハ蒸汽機關、旋盤、圓鋸機、車軸、調帶等)ヲ記入スヘシ
- (二) 大サ又ハ能力欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ大サ又ハ能力(例ヘハ何馬力、長サ何米、直徑何種、幅何種厚サ何種等)ヲ記入スヘシ
- (三) 災害ヲ生シタル部分欄ニハ例ヘハ曲柄、齒輪、鋸齒、車軸接手、調帶、調帶車等ヲ記入スヘシ
- (四) 其ノ部分ノ速度、大サ等欄ニハ廻轉數何程、輪周速度何米、長サ何米、幅何種、厚サ何種等

ヲ記入スヘシ

- 十四 危害豫防裝置ノ狀況欄ニハ災害ノ發生セル機械、設備其ノ他ノ場所ニ危害豫防裝置(例ヘハ高サ何米ノ木製柵圍、何種ノ真鍮丸棒ヲ使用セル高サ何米ノ手欄、金網製掩蓋、機械運轉中ハ開カサル様爲シタル危険部ヲ蔽ヘル戸等)アルトキハ之ヲ記入スヘシ
- 十五 災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄中ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ
- 十六 災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況ニ關シテハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

(様式第五號)

( 年 月 日届出)

工場災害事

|            |  |              |  |                 |  |
|------------|--|--------------|--|-----------------|--|
| 工場名        |  | 工場所在地        |  | 工場主又ハ工場管理人      |  |
| 事業ノ種類      |  | 職工數          |  | 事故發生日時          |  |
| 災害ノ原因及發生狀況 |  | 計 女 男        |  | 年 月 日 午前 午後 時 分 |  |
| 被傷者數       |  | 二週以上ノ休業ヲ要スル者 |  | 其ノ他ノ負傷者         |  |
| 性 死亡者      |  | 計            |  | 計               |  |
| 女 男        |  | 計            |  | 計               |  |
| 施設防禦       |  |              |  |                 |  |

告報故

| 害災ニ因ル損害 |    |        |       | 害災ノ狀況 |        |
|---------|----|--------|-------|-------|--------|
| 被害建物ノ種類 | 坪數 | 損害見積金額 | 被災ノ原因 | 狀況    | 避難施設狀況 |
| 被       | 害  | 損      | 害     | 災     | 災      |
| 機       | 械  | 設      | 備     | 等     | 損      |
| 原       | 料  | 材      | 料     | 製     | 品      |
| 災       | 害  | ニ      | 因     | ル     | 作      |
| 業       | 休  | 止      | ノ     | 損     | 害      |
| 円       | 円  | 円      | 円     | 円     | 円      |

工場災害事故報告記載心得

- 一 本報告用紙ノ一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ二通差出スヘシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ
- 四 本報告ハ災害事故一件毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設ケルヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘハ賣藥製造業、セルロイド加工業、製綿業、機械類修理業、煙火製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ

- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ
- 九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ汽罐室、瓦斯發生爐前、熔接作業場、硝化作業室、原料煮熱罐室、鑄込場、脫水作業場等)ヲ記入シ倉庫ノ場合ニ於テハ其ノ倉庫ニ格納セラルル物品ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ棉花倉庫、石油貯藏庫等)ヲ記入スヘシ
- 十 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ左ノ各號ニ從ヒ記載スヘシ
  - (一) 火災ノ場合ニ於テハ發火ノ原因、第一次ニ火氣ヲ傳播セシメタル料品ノ名稱、數量、狀態等及之ニ關係セル機械又ハ設備、作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ尙消火唧筒若ハ消火栓ヲ使用シタル以前ニ消火ノ爲取リタル措置アラハ其ノ狀況ヲ記載スヘシ
  - (二) 爆發ノ場合ニ於テハ爆發シタル料品ノ名稱、數量、爆發ノ原因、爆發ニ關係アル機械、設備、作業、操作其ノ他爆發ノ原因及狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ
  - (三) 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂ノ場合ニ於テハ其ノ種類、型式、使用ノ目的、製造年月、大サ、常用壓力、附屬壓力計ノ容量、安全弁ノ種類及口徑、破裂當時ノ使用壓力、水壓試驗ヲ行ヒタルモノニ付テハ其ノ年月及試驗壓力、災害事故ニ關係アル作業操作其ノ他原因及發

生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(三) 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂ノ場合ニ於テハ勢輪又ハ高速廻轉機ノ種類、其ノ使用ノ目的、構成材料、大サ(直徑、厚サ等)常用廻轉數、災害發生當時ノ廻轉數其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(四) 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索切斷シタル場合ニ於テハ其ノ常用荷重及事故發生時ノ荷重、事故ヲ惹起シタル部分(鎖、索、梁又ハ支柱)ノ構造、材料、大サ及製造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(五) 工場附屬建設物、煙突、高架槽ノ倒壊ノ場合ニ於テハ倒壊ノ直接原因(風、地震等)被害物件ノ構造、材料、構造ノ缺陷、構造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(六) 五人以上ノ負傷者(職工以外ヲ含ム)ヲ生シタル場合ニ於テハ前各號ニ倣ヒ災害事故ノ原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

十一 前項ノ記載ニハ成ルヘク寫真又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

十二 死傷者數欄ニハ職工タルト否トニ拘ラス該當欄ニ記入スヘシ

十三 災害ニ因ル損害欄ニハ被害建物ノ損害ハ其ノ種類別ニ(例ヘハ木造二階建、石造平屋建、木

骨亞鉛引鐵板張平屋等)坪數延坪及其ノ損害見積金額ヲ記入シ、機械、設備等ノ損害、原料、材料、製品等ノ損害又ハ災害ニ依ル作業休止ノ損害ハ各總見積金額ヲ記入スヘシ

十四 豫防施設狀況欄ニハ火災ニ對スル消防防火ノ施設(例ヘハ自動撒水裝置、消火唧筒、消火栓、消火器具等ノ種類及配置狀況又ハ防火壁ノ構造、防火戸等)ニ付記載シ特ニ發火ノ場所ニ於ケル施設狀況ヲ明ニスヘシ爆發ニ在リテハ爆發ヲ起シタル場所特ニ墻壁、圍壁其ノ他ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ他ノ場合ニ於テモ其ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ

十五 避難施設狀況欄ニハ出入口、昇降口、非常口、階段等ノ配置、構造、扉ノ開閉等ノ不良ナリシ爲避難ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ記載シ特ニ避難設備トシテ設ケラレタルモノアラハ種類及配置ニ付記載スヘシ

十六 災害ノ原因及發生狀況、豫防及避難施設ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

### 六、工場附屬寄宿舎則 (昭和二年四月六日 內務省令第二十六號)

第一條 本令ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ附屬スル寄宿舎ニ之ヲ適用ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル作業場アルトキハ保安上又ハ衛生上ノ害ヲ避クル爲寄宿舎ノ寢室ハ



之ト別建物ト爲スヘシ但シ除害、豫防又ハ避難ノ設備アル場合ニ於テ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）許可ヲ受ケタルトキハ別建物ト爲スコトヲ要セズ

一 爆發性、發火性若ハ引火性料品又ハ多量ノ易燃性料品ヲ取扱フ作業場

二 窯爐ヲ使用スル作業場

三 瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル作業場

地方長官前項ノ寢室ニシテ保安上危險ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナリト認ムルトキハ除害、豫防又ハ避難ノ設備ヲ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三條 寢室ハ建物ノ三階以上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ建物ノ外壁、床、屋根、階段及柱ヲ市街地建築物法施行規則第一條ニ規定スル耐火構造ト爲シタル場合又ハ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 寄宿舍ノ廊下ヨリ屋外ニ通スル出入口ノ戸ハ外開戸又ハ引戸ト爲スベシ

寄宿舍ハ何時ニテモ容易ニ外部ニ避難シ得ル様ニ爲シ置クコトヲ要ス

第五條 寢室、食堂、病室其ノ他職工（徒弟ヲ含ム以下之ニ同シ）ノ居住ノ用ニ供スル室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 寢室及病室ニハ屋根小屋組ヲ露出セザル様天井ヲ設クベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ防鼠ノ爲屋根小屋組ヲ露出シタルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 寢室及病室ノ外窓ニハ少クトモ雨戸及障子ヲ設ケ又ハ硝子戸及窓掛ヲ設クベシ寢室及病室ト廊下トノ間ニ戸、障子、壁ノ類ノ設ケナキ場合ニ於テ其ノ廊下ノ外窓ニ付亦同ジ

寢室及病室ト廊下トノ間ニ紙障子ノミヲ設クル場合ニ於テハ其ノ窓下ノ外窓ニ雨戸又ハ硝子戸ヲ設クベシ

第八條 食堂及炊事場ノ床ハ土間（石敷又ハ三和土叩ノ類ヲ含マズ）ト爲スコトヲ得ズ

第九條 寢室ハ收容人員一人ニ付室面積（押入及床ノ間ヲ除ク）〇・七五坪ヲ下ルコトヲ得ズ但シ臨時必要アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 寢室ノ收容定員ハ一室ニ付十六人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ構造上間仕切ヲ爲スコトヲ不適當トスルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

寢室ニハ之ニ收容スル者ノ氏名及定員ヲ入口ニ掲クベシ

第十一條 交替就業ノ爲メ就眠時間ヲ異ニスル二組以上ノ寄宿職工ヲ同一ノ寢室ニ收容スルコトヲ得

ズ但シ十六歳未満ノ者及女子ヲ收容セサルモノニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 寄宿舎ニハ職工毎ニ専用セシムル爲必要ナル寢具ヲ備附クベシ

寢具ハ少クトモ其ノ襟部ヲ白布ニテ被包シ且敷布ヲ備フベシ

寢具ハ常ニ清潔ニ保チ時々之ヲ日光ニ曝シ且其白布及敷布ハ時時之ヲ洗濯スヘシ

第十三條 食堂ニハ職工ヲシテ坐食ヲ爲サシムル場合ヲ除クノ外必要ナル腰掛又ハ椅子ヲ備附クベシ

第十四條 寄宿舎ニ於テ使用スル食器ハ常ニ清潔ニ保チ時時消毒スベシ

第十五條 寄宿舎ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十六條 寄宿舎ニ收容スル職工及寄宿舎ニ使用スル者ニ對シテハ少クトモ一年二回健康診断ヲ施行スベシ

スベシ

前項ノ健康診断ニ關スル記録ハ其ノ施行後三年間之ヲ保存スベシ

第十七條 寄宿舎ニハ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置スベシ

唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非ザレハ之ヲ投棄スルコトヲ得ズ

寄宿舎ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ズ

第十八條 寄宿舎ニ於テハ共用手拭ヲ備フルコトヲ得ズ

「トラホーム」患者ノ使用スル洗面器ハ之ヲ健康者ニ使用セシムルコトヲ得ズ

手洗水ハ流出装置ト爲スベシ

第十九條 工場法施行規則第八條第一項第二號乃至第五號（流行性腦脊髄膜炎ヲ除ク）ノ患者ノ使用

シタル寢具其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルニ非ザレバ他ノ者ヲシテ使用セシムルコトヲ得ズ第二號ノ

患者ノ使用シタル寢室ニ付亦同ジ

前項及第十七條第二項ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ傳染病豫防法施行規則第五章ノ規定ニ依ルベシ但

シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石炭酸水（防疫用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）ヲ使用

スベシ

第二十條 寄宿舎ニハ之ニ收容スル職工ノ數ニ應ジ適當且十分ナル便所及洗面装置ヲ設クベシ

地方長官前項ノ便所又ハ洗面装置不適當又ハ不充分ト認メタルトキハ期間ヲ定メ變更又ハ増設ヲ命

スルコトヲ得

第二十一條 寄宿舎ノ管理ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 本令並寄宿舎ノ管理ニ關スル規程ハ之ヲ見易キ場所ニ揭示スベシ

第二十三條 本令第二條、第三條、第四條第一項、第五條、第六條、第八條、第十條、第十一條及第

十六條ノ規定ハ常時十人未滿ノ職工ヲ收容スル寄宿舎ニ之ヲ適用セズ

附 則

一四〇

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條及第十三條ノ規定ハ本令施行後一年間、第二條、第七條、第八條及第十二條ノ規定ハ本令施行後二年間、第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申許ハ本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ之ヲ爲スベシ

### 七、工場災害豫防ニ關スル地方廳令

北海道 工場取締規則

第十條 工場並附屬建設物ニハ其ノ位置、構造、事業ノ種類、四圍ノ狀況等ニヨリ防火又ハ避難ノ設備ヲ命ズルコトアルベシ

第十一條 發火又ハ引火シ易キ料品ノ置場並ニ之ヲ取扱フ場所ニ於テハ適當ナル防火設備ヲ爲スベシ

第十二條 工場ニシテ騒響、震動又ハ煤煙粉塵其ノ他ノ發生物ニ依リ公益ヲ害シ若ハ其ノ虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ施設若ハ使用ノ制限又ハ停止ヲ命スルコトアルベシ

第十三條 工場ニ於テ危險ノ虞アル場所ハ特ニ採光ヲ充分ナラシムヘシ

第十四條 有害性料品ヲ取扱ヒ又ハ有害性瓦斯ヲ發散シ若ハ著シク粉塵ヲ飛散スル業務ヲ行フ工場ニ於テハ豫防又ハ除害ノ施設ヲ爲シ且通氣ヲ充分ナラシムヘシ

第十五條 前條ニ該當スル工場又ハ甚シク身體ヲ汚染スル業務ヲ行フ工場ニ於テハ從業者ノ數ニ應シ相當ノ洗面手洗場ヲ設クヘシ

前項ニ該當スル工場ニハ食事場、更衣場、休憩場ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 工場ニハ從業者ノ數ニ應シ相當ノ便所ヲ設クヘシ

第十七條 食事場、更衣場、休憩場、洗面洗手場、便所ハ常に清潔ニ保持スヘシ

第十八條 原動機又ハ汽罐ハ柵圍又ハ圍壁ヲ以テ區劃シタル特別ノ室又ハ場所ニ据付ケ危險注意ノ標示ヲ爲スヘシ、動力傳導裝置又ハ機械ニシテ危險ノ虞アル部分ニ對シテハ危險豫防ノ施設ヲ爲スヘシ

第二十七條 工場又ハ附屬建設物並其ノ設備等カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀、其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ豫防又ハ除外ノ爲メ必要ナル施設ヲ命シ若ハ一部又ハ全部ノ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

警 視 廳 製造場其ノ他ニ關スル取締規則

一四一

第七條 建設物ノ要所ニハ所轄警察官署ノ指示ニ從ヒ適當ナル箇數ノ消火器又ハ消火劑ヲ設備スヘシ

第十三條 建物、器械ニシテ破損シ又ハ震動、騷響、發生物其ノ他ノ爲危険若ハ妨害ノ虞アリト認ムルトキハ除害ノ裝置ヲ命シ又ハ其ノ建設物ノ使用ヲ停止若ハ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

京都府 製造場取締規則

第五條 紡織、製綿、油、燐火等火災ノ虞アル製造所、工場ニ在リテハ相當防火ノ設備ヲ爲シ且發火ノ虞多キ作業場ト其他ノ場所トノ境界ニ防火壁ヲ設クヘシ

第十二條 製造場ニ於テ出火、崩壞、破裂等ノ危害ヲ生スヘキ虞アルトキハ速ニ豫防ヲ爲シ即時官廳ニ届出ツヘシ

大阪府 工場取締規則

第八條 危害ヲ生シ健康ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ工事設計ノ變更其ノ他ノ施設ヲ命シ又ハ工場ノ設置ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十四條 工場及附屬建設物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條 工場ニ於テ火災、崩壞、破裂其ノ他ノ事由ニ因リ危害ヲ生シ又ハ其ノ虞アル場合ハ速ニ豫

防若ハ除害ノ處置ヲ爲シ即時之ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

神奈川縣 工場取締規則

第十三條 危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スル虞アル工場ニ在リテハ適當ナル豫防裝置ヲ爲スヘシ  
工場並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防若ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ工場ノ使用ヲ停止シ又ハ許可若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十七條 工場ハ清潔ニシ出來得ル限リ採光及換氣ヲ充分ナラシムヘシ

第十八條 一所ニ收容スヘキ就業者ノ員數ハ其健康ヲ害シ又ハ之ニ危険ヲ及ホス程度ニ至ラシムルコトヲ得ス

第十九條 工場ニ使用スル飲料水ニシテ衛生上有害ナリト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止シ又ハ適當ナル裝置ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 工業主ハ就業者ノ數ニ應シ相當ノ便所ヲ設クヘシ作業ノ性質不潔ナルモノ又ハ有害性料品ヲ取扱フモノニ在リテハ適當ナル洗滌裝置ヲ設クヘシ

兵庫縣 工場取締規則

第六條 工場ノ位置構造及設備ハ左記各號ニ準據スルヲ要ス但シ土地規模及設備ノ狀況ニ依リ斟酌ヲ加フコトアルヘシ

- 一、離宮皇陵社寺公園學校其他公共ノ營造物トノ間ニハ相當ノ距離ヲ保ツコト
- 二、火災又ハ爆發ノ虞アル物品ヲ取扱フ工場ニアリテハ住家其他ノ建設物トノ間ニ相當ノ距離ヲ保チ耐火構造トスルコト
- 三、屋根ハ耐火材料ヲ以テ覆葺スルコト
- 四、採光及換氣ヲ充分ナラシムル構造トスルコト
- 五、排水設備ハ防水材料ヲ以テ構造シ一般排水路ニ接続セシムルコト
- 六、作業又ハ設備カ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スル虞アルモノハ適當ナル豫防ノ設備ヲ爲スコト
- 七、著シク煤煙粉塵ヲ飛散シ有害瓦斯若ハ廢液ヲ發生排出シ又ハ甚シク惡臭騷擾震動ヲ生シ公共ノ利益ヲ害スル虞アルトキハ充分ノ除害ノ設備ヲ爲スコト

長崎縣 工場取締規則

第七條 工場並其ノ設備カ前條ノ規定ニ違背シ又ハ危害ヲ生シ若ハ風致衛生其他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ其ノ許可ニ條件若ハ制限ヲ附シ又ハ設置ヲ許可セサルコトアルヘシ

第十條 工場又ハ其ノ設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生風致其他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲メ必要ナル事項ヲ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第三條 工場ハ危害ヲ生シ又ハ風紀衛生其他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ其ノ設置ヲ許可セサルコトアルヘシ

第五條 危害豫防若ハ風紀衛生其他公益上必要アリト認ムルトキハ工業主ニ對シ豫防又ハ除害ノ設備ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止シ若ハ工作物ノ撤廢移轉ヲ命スルコトアルヘシ

埼玉縣 工場取締規則

第七條 職工徒弟五十人以上ヲ入場セシムル工場ニ於テハ入口二個以上ヲ設ケ尙五十人ヲ増ス毎ニ一個ヲ増設スヘシ

工場入口ハ間口六尺以上ヲ要ス

第八條 職工徒弟五十人以上ヲ入ルヘキ工場又ハ寄宿舎ノ階上ニハ階段二個以上ヲ設ケ尙五十人ヲ増ス毎ニ一個ヲ増設スヘシ

階段ハ幅四尺以上蹴上六寸以下踏面八寸以上ナルコトヲ要ス

第十五條 工場ニ於テハ消防器具ヲ具ヘ給水ノ方法ヲ設ケ其他避難ノ設備ヲ爲スヘシ

第十六條 食堂、炊事場、浴場、便所等ハ常ニ清潔ニ保持スヘシ

工場及其附屬建設物並ニ設備ニシテ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其他公益ヲ害スルノ虞アル場合ノ命令ニ關スル件

工場及其ノ附屬建設物設備ニシテ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲メ必要ナル事項ヲ工業主ニ命スルコトアルヘシ

前項ノ命令ニ従ハサルトキ其他必要ト認ムルトキハ工場又ハ附屬建設物若ハ設備ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

千葉縣 工場法施行細則

第二十七條 知事工場附屬建設物又ハ其ノ設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其他公益ヲ害スル虞アリト認メタルトキハ工業主ニ對シ之カ豫防又ハ除却其他適當ノ措置ヲ命シ必要ニ應シ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ工業主ニ命シタル事項ニ付必要アル場合ニ於テハ知事ハ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトアルヘシ

第三十條 工業主ハ常ニ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一、職工ノ居室ハ一人ニ付少クモ半坪以上ノ面積ヲ有セシムルコト
- 二、普通出入口ノ外非常口ヲ設ケ二階以上ノ建物ナルトキハ適當ノ箇所ニ非常用階段ヲ設備スルコト
- 三、賄室ハ常ニ清潔ヲ保持シ飲食物ニハ塵埃又ハ蟲類ノ附着ヲ防ク装置ヲ爲スコト

四、便所ハ食堂、賄室及井戸ヨリ適當ノ距離ヲ有スル場所ニ設ケ屎尿溜及周圍ノ地面ハ不滲透質ノ

材料ヲ以テ築造スルコト

- 五、毎日掃除ヲ行ヒ室内ノ清潔、換氣、採光ニ注意スルコト
- 六、寢具類ハ清潔ヲ保チ時々日光ニ曝スコト
- 七、寢具ハ各人毎ニ之ヲ設備シ同一寢具ニ二人以上ヲ寢臥セシメサルコト
- 八、傳染性疾患アル者ヲ賄人トシテ使用セサルコト
- 九、食器ハ使用ノ都度煮沸又ハ蒸氣消毒ヲ爲スコト
- 第三十一條 職工ノ飲食ハ食堂其他一定ノ場所ニ於テ之ヲ爲サシムヘク決シテ作業場所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス

工場取締規則

第四條 工場敷地カ社寺、公園、官公署、學校、病院等ニ相當ノ距離ヲ有セサルトキ又ハ人家稠密ノ場所ニシテ衛生、保安上其他支障アリト認ムルトキハ工場ノ設置ヲ許可セサルコトアルヘシ設置スヘキ工場ノ附近ニ火藥其他ノ爆發物又ハ發火性若ハ引火性料品ノ貯藏所又ハ製造所アルトキ亦同シ

第五條 工場及附屬建設物ノ構造設備ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ事業ノ種類其他ノ狀況ニ依リ一部ノ省略ヲ許可スルコトアルヘシ

- 一、構造ハ堅牢ヲ旨トシ空氣ノ流通、光線ノ射入充分ナルコト
- 二、出入口ノ外非常口ヲ設ケ二階以上ノ建設物ナルトキハ適當ノ箇所ニ非常用階段ヲ設備スルコト
- 三、便所ハ食堂賄室及井戸ヨリ二間以上ノ距離ヲ有スル場所ニ設ケ糞尿溜及其ノ周圍ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造スルコト
- 四、汚水溝、汚水溜「タール」溜「アンモニヤ」水溜其他之ニ類スルモノハ前號ニ準シテ築造シ且覆蓋ヲ設クルコト
- 五、火災其他危險發生ノ虞アル場所ニハ適當ノ豫防裝置ヲ設クルコト
- 六、機械其他危險ナル部分ニハ朱書シタル「危険」ノ二字ヲ表示シ非常口ニハ適當ナル目標ヲ付スルコト
- 七、五十人以上ノ職工ヲ使用スル寄宿舎ニ在リテハ病室ヲ設クルコト
- 八、男女ヲ區別シタル浴場ニ在リテハ相互交通シ若ハ見透シ得サル裝置トナシ其ノ區別ナキ場合ニ在リテハ男女ノ入浴時間ヲ明ニ區別スルコト
- 九、工場及寄宿舎ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ備付クルコト
- 十、飲料水ハ性質飲食ニ適シ且井戸ナルトキハ井戸側ハ汚水ノ滲透セサル構造タルヘキコト

前項ノ制限ニ違背シテ設置シタル工場ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

火防取締規則

第四十八條 左ニ掲クル場所ニ於テハ其建物ニ應シ適當箇數ノ輕便消火器ヲ備ヘ又ハ適當ノ防火設備ヲ爲スヘシ

十七、諸工場

第四十九條 輕便消火器ハ時々其藥品ヲ取換、使用上支障ナカラシムヘシ

茨城縣 工場法施行細則

第十二條 工場及附屬建設物竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ工業主ニ對シ之カ豫防若ハ除外ノ爲必要ナル事項ヲ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

栃木縣 火災豫防消火器設備ノ件

火災豫防ノ爲左記ノ場所ニハ消火器ヲ設備スヘシ

- |       |      |      |
|-------|------|------|
| 一宿屋   | 一料理店 | 一飲食店 |
| 一待合茶屋 | 一貸座敷 | 一劇場  |
| 一寄席   | 一勸工場 | 一觀物場 |

一湯 屋 一石油商

一汽油汽機若ハ石油發動機ノ設備アル工場

一職工徒弟十人以上ヲ使役スル工場

奈良縣 工場法施行細則

第三條 工場及附屬建築物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其ノ他公益ニ害スル虞アリト認メタルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主、職工又ハ徒弟ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

工業場取締規則

第九條 工業場ニ於テ危害ヲ生シ又ハ其ノ虞アルトキハ其ノ狀況ヲ速ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十條 工業場ニシテ危害ヲ生シ又ハ妨害ヲ及ホシ又ハ衛生上有害ナルトキ若ハ其ノ虞アリ認トムルトキハ之カ豫防除害ノタメ必要ナル事項ヲ命スルコトアルヘシ  
必要ト認ムルトキハ其ノ一部又ハ全部ノ使用ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

三重縣 工場取締規則

第四條 工場ノ設備又ハ變更ニ付テハ左ノ各號ニ準據スヘシ但シ事業ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ斟酌ヲ加フルコトアルヘシ

一、皇陵、社寺、公園、住家稠密ナル場所其他必要ト認ムル場所ニ對シ相當ノ距離ヲ有スルコト

二、火災若ハ爆發ノ虞アル物品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス工場ニ在リテハ住家其他ノ建築物トノ間相當ノ距離ヲ保チ耐火構造ト爲スコト

三、作業室ニハ適當ニ配置セラレタル二箇以上ノ出口ヲ設ケ速ニ開閉シ得ヘキ装置ト爲シ二階以上ノモノニ在リテハ二箇以上ノ階段ヲ設クルコト但シ階上ノ面積百平方「メートル」未滿ノ工場ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

四、著シク煤煙又ハ粉塵ヲ飛散シ若ハ有害ノ瓦斯液體ノ類ヲ排出シ又ハ甚シク惡臭騒音震動ヲ發シ衛生其他公益ヲ害スル虞アルトキハ豫防又ハ除害ノ設備ヲ爲スコト

五、煙突ハ鐵板造、瓦造又ハ鐵筋「コンクリート」造トシ其ノ高地上二十「メートル」以上ト爲スコト

第六條 工業主ハ原動機、動力傳導裝置及動力ニヨリ運轉スル機械又ハ設備ノ危險ナル部分ニハ柵圍、被覆其他適當ナル安全裝置ヲ爲スヘシ

第七條 工業主ハ工場内ノ危險ナル箇所ニハ適當ナル危險標示ヲ爲スヘシ

第八條 工業主ハ昇降口、物品揚卸口、槽、釜、車軸道、足場其他墜落ノ危險アル箇所ニハ安全設備ヲ爲スヘシ



第九條 工業主ハ動力傳導裝置ノ運轉開始及停止ヲ關係作業場ニ從事スル職工ニ周知セシムル確實ナル信號方法ヲ定ムヘシ

第十條 工業主ハ動力傳導裝置ノ廻轉ヲ作業室ニ於テ應急停止スル設備ヲ爲スカ又ハ原動機室ニ通スル應急停止ノ信號方法ヲ定メ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十一條 工業主ハ遊車ヲ使用スルトキハ之ニ遷帶裝置ヲ設クヘシ

第十二條 工場ノ設備ニシテ土地又ハ作業ノ模様ニ依リ危害ヲ生シ又ハ衛生風致其他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ之カ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ其ノ使用ノ制限若ハ停止ヲ命スルコトアルヘシ

愛知縣 工場法施行細則

第十六條 工業主ハ十尺ノ距離ニ於テ手指ヲ算シ得サル者ヲシテ施行規則第五條ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

工場寄宿舍及附屬建設物取締規則

第六條 工場及寄宿舍ニハ構造ニ應シ通常出入口ノ外非常口ヲ設ケ速ニ開閉シ得ヘキ裝置ト爲シ二階以上ノモノニ在リテハ通常階段ノ外非常用階段ノ備付ヲ爲スヘシ。但シ本項ノ規定ハ平坪十坪未満ノ工場ニハ之ヲ適用セス

原動機、動力傳導裝置、機械又ハ器具ノ配置ハ出入口又ハ非常口ニ直通スル幅三尺以上ノ通路ヲ餘シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 原動機、動力傳導裝置、機械其ノ他ノ設備ニシテ危険ノ虞アル部分ニハ豫防ノ裝置ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ規定ハ粉塵若ハ有害瓦斯ヲ發散シ又ハ劇毒藥其ノ他有害料品若ハ爆發性、引火性、發火性ノ料品ヲ取扱フ業務其ノ他危険又ハ衛生上有害ナル業務ニ之ヲ準用ス

第十條 工場、寄宿舍ニハ左ノ各號ノ設備ヲ爲スヘシ但シ工場法ノ適用ヲ受ケサル工場及労働者十人未満ヲ收容スル寄宿舍ニ付テハ第三號乃至第五號ノ設備ヲ爲ササルコトヲ得

一 消防用器具

二 非常用水

三 梯子

四 非常報知器

五 始業終業及休憩時間ノ報知器

第十一條 工業主ハ看守人ヲ置キ夜間非常警戒ヲ爲サシムヘシ

第十七條 工場、寄宿舍及附屬建設物又ハ設備カ土地ノ變遷、腐朽若ハ損壞、瓦斯液體、臭氣、煤煙

粉塵ノ發散放出又ハ作業上ノ模様ニ依リ危害ヲ生シ其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ改造變更撤去又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

山梨縣 諸製造所建設規則

第三條 警察署分署ハ既ニ許可シタル後ト雖モ衛生上ノ障害アルカ若クハ危險ノ虞アルコトヲ發見シタル時ハ其ノ改造ヲ命シ且ツ事業ヲ停止スルコトアルヘシ

第五條 製造所ハ凡ソ左ノ各項ヲ標準トシテ建設スヘシ但在來ノ建物ヲ充用スル場合ニ於テ標準ニ從フノ不便アルモノハ其ノ事由ヲ願書ニ詳具スヘシ

一、火力ヲ用ユル建物ハ他ノ建物及隣地境界ヨリ六尺以上ノ距離アルヲ要ス

二、職業場ノ屋上ニハ地盤ヨリ面積凡ソ十分ノ一ニ下ラサル空氣抜ヲ設クヘシ

三、三十人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ニハ高サ六尺以上幅五尺以上ノ出入口ニケ所以上ヲ設ケ三十人以上ヲ増ス毎ニ同シク一ケ所ヲ増設スヘシ

四、工場ニハ開閉自在ナル明リ口ヲ設クヘシ

五、工場ノ地盤ハ濕氣ノ浸ササル様堅牢ノ構造ヲナスヘシ

六、汽罐湯沸場其他猛火ヲ發スヘキ場所ハ煉瓦石造又ハ塗込造リトシ高サ三丈以上ノ煙突ヲ設クヘシ但シ家稀疎ノ地ニ於テハ煙突ノ高サ此ノ限ニ在ラス

七、工場ノ厠ハ井戸飲料水路等へ接近スヘカラス其ノ糞尿池ハ漏泄滲透ノ憂ナキ様構造スヘシ

八、工場ノ下水溝ハ堅質ノ材料ヲ以テ底面及周圍ヲ築造スヘシ

滋賀縣 工業場取締規則

第七條 工業場ニ使用スル飲料水衛生上有害ナリト認ムルトキハ其使用ヲ停止シ又ハ適當ナル裝置ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 工業場ニシテ危害ヲ生シ若ハ衛生、風紀共ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲メ必要ナル事項ヲ命シ若ハ工場ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

岐阜縣 工場法施行細則

第十六條 工場及附屬建設物竝ニ設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ工業主ニ豫防又ハ除害ノ爲メ必要ナル事項ヲ命スルコトアルヘシ

工業主前項ノ命令ニ從ハサルトキ其ノ他必要ト認ムルトキハ工場又ハ附屬建設物若ハ設備ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第一項ノ場合ニ於テ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ命スルコトアルヘシ

第十七條 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ職工ノ負傷疾病又ハ死亡ノ診斷若ハ檢案

ヲ爲サシムル醫師ヲ定メ其ノ履歷書ヲ添ヘ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項以外ノ工場ノ工業主ニ於テ前項ノ醫師ヲ定メタルトキハ前項ニ準シ届出ツヘシ

工業場取締規則

第五條 工業場カ危害ヲ生シ又ハ衛生其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認メタルトキハ豫防又ハ除害ノ爲

必要ナル事項ヲ命シ必要ト認メタルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ命スルコトアルヘシ

工場及附屬建設物取締内規

一、工場及寄宿舍ノ出入口ハ高サ五尺八寸以上幅四尺以上トナスヘシ但シ平坪二十坪以下ノ建物ニ在リテハ幅三尺迄ニ減スルコトヲ得

二、工場及寄宿舍ノ非常口ハ左ノ標準ニ依リ層階毎ニ之ヲ設クヘシ

イ、高五尺八寸以上幅四尺以上トナスヘシ但シ平坪二十坪以下ノ建物ニ在リテハ幅三尺迄減スルコトヲ得

ロ、非常口ノ扉ハ内部ヨリ容易ニ之ヲ開キ又ハ打破シ得ヘキ方法ニ依ルヘシ

ハ、非常口ハ平坪五十坪以下ノ建物ニ在リテハ一ヶ所以上百坪以下ノ建物ニ在リテハ二ヶ所以上百坪ヲ超ユル場合ニ在リテハ其室間取ノ狀況ニ依リ之ヲ増加シ其ノ何レノ場合タルヲ問ハス之ヲ

適當ニ配置スヘシ

建物ノ模様ニ依リ前項ニ規定セル非常口ノ數ヲ減スルコトヲ得

但シ平坪七坪以下ニシテ適當ナル災害避難設備ヲ有スル場合ハ非常口ヲ略スルコトヲ得

三、階段斜面又ハ橋梁ノ幅ハ出入口又ハ非常口ノ幅以上トナスヘシ

四、階段ニハ裏板ヲ付シ且ツ扶欄ヲ設クヘシ

五、工場又ハ寄宿舍ニ於テハ硝子製ノ油壺ヲ有シ又ハ油煙止ヲ有セサル洋燈ヲ使用スヘカラス

六、工場ノ氣容ハ職工一人ニ付一立坪半以上タルコトヲ要ス

七、立場及寄宿舍ニ於ケル窓ノ總面積ハ床面積ノ二割以上タル事ヲ要ス

但陶磁器工場ニ於テハ當中一割迄減スルコトヲ得

八、原動機ニハ仕切ヲ設ケ取扱者ノ外之ニ接近スルコトヲ得サラシムヘシ

九、原動機ノ運轉ヲ開始セントスルトキハ其ノ信號ヲナスヘシ

十、日本形水車ヲ用フル場合ニ於テハ急速ニ其ノ運轉ヲ停止シ又ハ連結ヲ外シ得ル裝置ヲ爲スヘシ

十一、車軸車輪勢輪帶索齒輪轉子摩擦圓錐蒸氣管其ノ他動力傳導裝置及諸機械ノ危險ナル部分ニハ套管鐵製又ハ木製ノ掩蓋若ハ柵圍ヲ以テ危險豫防ノ裝置ヲナスヘシ

十二、原動力ニ依リテ運轉スル機械間ノ通路ハ幅二尺五寸以上トナシ且ツ此間ノ床面ハ平坦ナラシム

- 十三、原動機カ停止セル場合ノ外調帯ノ取扱ハ常ニ調帯移動器其ノ他直接手ヲ用ヒサル装置ヲ以ツテ之ヲ行フヘシ
- 十四、傳導速度一分間二千呎以上ノ調帯調索又ハ幅七吋半以上ノ調帯カ通路ノ上方ヲ横走スルトキハ其ノ下方ニ於テ適當ノ避害装置ヲ設クヘシ
- 十五、調帯カ通路上高サ六尺以下ノ場所ヲ横走スルトキハ適當ノ避害装置ヲ設クヘシ但シ調帯カ幅二吋半以下ニシテ傳導速度一分間ニ付一千呎以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 十六、床面ノ開口槽釜及腐蝕性又ハ高熱ノ液體ノ容器ニハ堅牢ナル柵圍ヲ設ケ之ヲ區劃スヘシ
- 十七、工場及寄宿舍ニハ消火器ヲ備ヘ職工其ノ他ノ者ヲシテ常ニ使用法ヲ熟知セシメ置クヘシ
- 十八、機械其ノ他ノ危険ナル部分ニハ「注意」ト朱書セルモノヲ貼付シ非常口ニハ適當ナル目標ヲ付スヘシ
- 十九、寄宿舍ニ於ケル男女職工ノ寢室ハ明ニ之ヲ區別シ風儀上遺憾ナラシムヘシ但シ夫婦同宿シ又ハ乳兒ヲ同宿セシムル職工ニハ各別ニ區劃セラレタル寢室ヲ給與スヘシ
- 二十、寢室ノ入口ニハ職工氏名ヲ記セル木札ヲ掲クヘシ
- 二十一、寢室ノ廣サハ二人ニ付一坪半以上タルヘシ

但シ事情ノ止ムヲ得サルモノハ當分ノ間二人ニ付一坪迄減スルコトヲ得

- 二十二、寢具ハ漸次一人ニ付一組ヲ給シ且ツ各職工ノ専用トナスヘシ
- 二十三、寢具ハ毎月少クトモ二回日光消毒ヲ行フヘシ
- 二十四、掛蒲團ノ襟ハ白布ヲ以テ之ヲ被ヒ時々洗濯スヘシ
- 二十五、浴場ハ男女ヲ區別シ相互交通又ハ見透ササル様装置ヲナスヘシ男女共用ノ浴槽ハ入浴時間ヲ明ニ區別シ之ヲ揭示スヘシ
- 二十六、浴場ノ洗場ハ厚板又ハ石煉瓦漆喰等ノ不滲透質ノ材料ヲ用フヘシ但厚板ヲ用フルトキハ地盤ヲ漆喰トナスヘシ
- 二十七、浴場ノ壁ハ板張又ハ石煉瓦漆喰等不滲透性ノ材料ヲ用フヘシ
- 二十八、浴場ハ外部ヨリ見透ササル様ニ設備スヘシ
- 二十九、洗面器ハ健康者ト「トラホーム」患者トヲ區別スヘシ
- 三十、寢室又ハ食堂等ヲ以テ髮結場ニ充ツヘカラス
- 但シ收容人員五十人以上ノ寄宿舍ハ髮結場ヲ特設スヘシ
- 三十一、食堂及炊事場ニハ防蠅ノ設備ヲナスヘシ
- 三十二、炊事人ニハ傳染性疾患アル者ヲ使用スヘカラス